が少くなるばかりでなく、凶作のために高くなつた飯米を、例年よりも早く買はねばならなくなるからである。一方に米高によつて儲ける大商人や大農があり、他方に米高に泣かねばならぬ貧農や消費者のある以上、この利害の背反が、決してわれ〳〵の經濟生活の安全を護つてはくれない。この大凶作時に當つて、今日までにすでにその萌芽を現はしてゐる農村における抗爭が、今後どんな進路を辿ることか。少くとも、私には、農相の樂觀は、非常に大きな危險を賭けての氣休めであるとしか思はれぬ。(九・一〇・五)

『銀魔』はをどる

―飛沫に惱む支那の財界―

世界の不景氣を克服するには、世界總人口の過半數を占めてゐるアジア諸國民の經濟力を恢復せしむることが最も捷徑であり、そのためには、銀價を吊上げて支那及びインドにおける購買力の增進をはかることが、最も適切かつ有效だとの議論が、アメリカのいはゆるシルヴァ・マン達によつて强調され、その結果、アメリカでは遂に銀國有令の施行をまで見るに至つたのであるが、物事はさう注文

通りにばかりは進まなかつた。結果は、當時われ〳〵が指摘しておいたやうに、むしろその逆にやつて來た。

端的にいへば、銀高によつて、有卦に入つたアメリカのシルヴァ・マン達のボロ儲けの裏には、銀本位支那の飛んでもない災難が潜んでゐたのである。

銀が騰貴すれば、銀本位支那の購買力は增進するはずなのだが、そのために起る物價の崩落が、支那において、恰も金本位國がその本位貨たる金の偏在、供給不足に基く金價暴騰のために、世界的に物價の崩落を招き、不況に沈淪したのと同じ狀態を經驗せざるを得なかつたからである。

しかもさらに困つたことには、このアメリカにおける强力な需要と、それに伴ふ投機的誘惑とが、支那からの銀の大量流出を遠慮なく刺戟した。上海の金融界が頓に梗塞の度を加へ、恐慌の勃發をさへ云々されてゐるのは、全くそのためである。

支那の當路者の中には、夙にこの危險を豫見し、銀價の吊上げに反對し來つた向もあつたのだが、我利を逐ふにのみ急だつたアメリカのいはゆる『銀魔』達は、遂にルーズヴェルト政府をして、この點に政治的良心をもたしむる餘裕をさへ與へなかつたのである。

そこで支那としては、支那自らの力によつてこの難局を切拔けねばならなくなつたわけで、最近矢繼早やに、爲替管理、標金取引禁止、爲替平衡資金の設定と色々な方策が講ぜられるに至つたが、そ

こにはなほ幾多の抜け穴があり、また實行力のこれに伴はざる點もあるので、その效果については、いまだ疑惑と苦惱とから解放され得ないことを憾みとする。

金と銀との取引は、そのおの〳〵の側の材料によつて二重に動く。賭博の國支那には、ふさはしい風景だともいへやうが、國民政府としては、外國爲替市場における投機思惑のためにこれ以上銀相場が動搖して金融界を脅かし、物價を不安ならしめるのを默視してゐるわけには行かなくなつてゐる。これを抑壓しようといふ政府の管理政策がどこまで實效を齎らすか。銀の世界は今やそれを繞つて不可解な呼吸を呑吐してゐる。(九・一〇・三)

無理な基本的條件

—道德關稅が犯罪誘發—

名うての某外人密輸魔が、今度は堂々と表玄關から一萬三千個のダイヤモンドを輸入し、却て神戸稅關の役人達を面喰はせてゐる。

先達の二百萬圓の追徵金に、觀念の臍をきめた結果だらうが、最近十割奢侈關稅の廢減が考慮されてゐる折柄だけに、頗る皮肉である。

とに角、このダイヤモンドの大量輸入は十割關稅を拂つても、なほ消化可能であることを意味するものであり、同時に今日まで如何に多量の需要が密輸によつて充されてゐたかを想像せしめるに十分なものがある。

國內に一粒のダイヤモンドを產せぬわが國において、十割關稅賦課以來、ダイヤモンドの市價が十割どころか、その半分も騰つてゐないといふ事實は、たゞ密輸といふ言葉によつてのみ說明されるわけなのだが、それだけに、今度堂々と十割關稅を負擔して賣出されるとなれば、こゝにダイヤモンド市價線上に異狀を來すのは當然だと見るのほかない。

尤もたとひ騰つても結局消化し得る見込みがあればこその輸入であらうが、それにしても今までより高くなるだけ賣り憎くなるのは論のない話であり、一方また高く賣れば賣れるほど、密輸のチヤンスは殖えて行く。かくして拔け道への逆轉は、たゞ時の問題にすぎないとさへ思はれる。

それといふのも、ダイヤモンドの如き小くて高價な品物に十割などといふ法外に高い課稅をするからの間違ひで、これでは凡ての條件が密輸を奬勵するやうに出來上つてゐる。

この關稅を創設した當時の濱口藏相の考へでは、國民に節約を奬勵する手前、奢侈品の如きは、禁止關稅によつてその輸入を喰止めようといふにあつたのだ。しかし事實は不幸にして、この道德關稅

のために、却つて新しい犯罪が誘發されただけのことであつた。最近大藏省部内に、十割關税の廢減論が擡頭しつゝあるといふのも、畢竟その基本的條件の無理に氣が付いたからに相違なからうが、たまたま一萬三千個のダイヤモンドが貿易表に上つたといふ一事を以て、この無理の解消でゞもあるかのやうに考へたら、飛んでもない間違ひが起る。

話は違ふが、大藏省では過般來產金政策の確立のために、國内における金移動狀態調査の具體的方法を研究中であつたところ、今度いよ〳〵その密輸出防止を中心に取締を徹底せしむることになつたさうだ。

だが、その防止策を必要とするほど密輸出が俄かに多くなつたのは、打續く金價格の世界的奔騰に拘らず、國内における產金の買上げ値を釘付けにして、内外市價の間に莫大の開きをもたらしむるに至つたからで、その基本的條件をさへ匡せば、密輸取締の心配などは自ら消滅するはずだ。日銀當局が、現下の金の世界的騰貴に對し、一時的だとの見解を發表してから、もう隨分長いことになる。しかも金價はその後も更にその躍進的傾向を停止してをらぬ。

無理から起る破綻の後始末を考へるよりは、始めから無理な條件を改めてかゝる方がどれだけ悧巧だか解らないのにと、私は思ふ。(九・一〇・二五)

官吏の自發的減俸

—その氣持を施設に現はせ—

農村の窮狀坐視するに忍びぬといふので、内務省の高等官連が自發的に減俸の決議をしたのを導火線として、警視廳、農林省でもすでに同樣の決議を見、さらにその他の各省も、その例に倣ふものと見られてゐる。

その醵金額たるや必ずしも多からずであるが、官吏が自發的に六ケ月にわたり減俸による醵金決議をしたといふが如きは、いまだ曾てその例をきかざるところ、それだけでも事態のたゞごとでないことが察せられる。

役人達もまさか自分等の減俸寄附で農村が救へるものとは考へまい。だが、とに角役人達をして、さうでもせねばヂツとしてをられぬ氣持にさせただけの農村異變が、經濟的にも思想的にも存することだけは爭へぬ事實だ。

農漁村における現實の窮乏から見れば、或はこの醵金の如きは燒石に水であるかも知れぬ。しかし

それが美はしい同情の結晶であり、しかも自ら節約の範を示して天下に呼びかけようとしてゐるのだといふ意味において、色々なことが考へさせられる。

豐かでもない俸給を削つてまで、それに赴かねばならぬ氣持になり得たほど、救濟の必要を認識しながら、なぜ彼等は國家的對策の樹立にその精根を打込まぬのであらうか。內閣の全高等官が響に應ずるが如く、減俸決議に參加するといふその氣持を、どうして政府の施設の上に現はすことが出來ないのか。役人達にしても、その熱意と努力との足らざる申譯の醵金だなどといはれたら、折角の志が無に近からうではないか。

氣の利いた對策を樹てる見込みがないから、せめて自分らの氣持を醵金の形で……といふのなら、それは農村に對する同情といはんよりは、むしろ自分達の無力に對する同情だといつた方が當るであらう。

醵金するは、せぬに勝る。美舉は美舉として、これを稱するに吝かでない。だが、たゞわれ〳〵としては、その氣持をもつと大きく生かして貰ひたいのだ。醵金には敬意を表しつゝも、なほ速かに盡さねばならぬ大きなものゝ存在を、彼等のために疎却し得ざるを惜む。(九・一〇・二六)

鐵鋼界に不滿の聲

—鐵鋼關稅引下げ論の擡頭—

今春日本製鐵會社が結成されたのは、一に生產原價を引下げ、生產能力の擴充によつて、安價なる鋼材の大量供給を達成するといふのがその主目的であつた。ところが、その後における實情は、民間需要の激增に拘らず、依然たる品薄のために需要者の希望を滿足させることが出來ず、價格だけが煽られてゐるといふ始末である。

それについては、製鐵合同方針の不適當が云々され、『水ぶくれ日鐵』の非難が、鐵鋼關稅の引下げ論をさへ產むに至つてゐるが、要するに、現狀のもとにおいては、外注の自由恢復以外にこの障碍を乘越える名案があらうとも思はれぬ。

しかるにこの外材輸入必至の勢ひを前にして、商工省は、外注の凡てを擧げて日鐵の支配に歸せしめ、今日では、日鐵の許可なくして無斷に外注をすることが出來ぬばかりか、許可願を提出することは徒らに日鐵の高價品を不當に押付けられる原因たるに過ぎなくなつてゐる。斯くの如くにして、軍

需品の膨大、民間需要の增大、滿洲輸出の激增によつて醸されつゝある新情勢は、その殆ど凡てが『迷惑』の二字の中に押込められてしまつてゐる。

その結果、わが經濟國力の躍進を代表する輸出品工業の設備を不當に高價ならしめ生産コストの增嵩が商品の競爭力を阻害すること著しきものがある。殊にそのため最近各地における風水害その他の災害復舊に當り、一般住家、工場の耐震、耐火、耐風樣式への推移を不利不便ならしめてゐるが如きは、この際輕々に看過すべからざる由々しき問題だといつてよい。

鋼材生産カルテルとしての條鋼分野の協定は、二十三日の總會で實質的に解消し、向後一ヶ年間たゞその形骸をとゞめるに過ぎぬことにはなつたが、この統制の破綻は、要するに鐵鋼界における分立割據の自由競爭時代の出現を意味するもので、これから鐵鋼界のイニシアチーヴを確把しやうとする日鐵とアウトサイダーとの尖鋭化した對立が激成されるものと思はれる。尤も、供給にさへ事を缺かねば、需要者としての文句はないわけなのであるが、各工場における熔鑛爐建設の計畫に拘らず、その完成には相當の歲月を要することではあり、それだけでは、焦眉の問題解決に役立つべくもなきを奈何せん。

で、結局輸入以外にはこれを補充する途はないのであるが、不必要に高い鐵鋼關稅の障壁が、今のところ、當然この協定崩壞に續くべきものを拒否してゐるのだ。

一方においては、需要の膨脹が明かに豫見されてをり、他方においては、爲替安の利益が關稅保護の目的以上に有利に展開しつゝある今日、關稅引下げによる鋼材價格の緩和は、極めて合理的な物の考へ方だといつてよからう。斷じて當業者だけの問題ではないのである。(九・一〇・二八)

遲疑逡巡を排す

—藏相いよ〳〵增稅を決意—

久しくその態度を明かにしなかつた藤井藏相が、いよ〳〵增稅計畫に乘出す決意を示すに至つたことは、來年度豫算の財源對策に一基石をおいたものだといふ意味において、時節柄注目に値する。

尤も明年度における增稅に關しては、岡田首相は、非公式ながら、今日まで屢次不同意の意向を表明してゐるので、これが容認には相當困惑の色があるといはれてゐるが、增稅尙早論者の高橋前藏相すら、これに諒解を與へて、藤井藏相を激勵してゐる今日、結局『客觀的情勢の變化』といふところへ落付くのほかはあるまいと見られてゐる。

大藏省の案によれば、いはゆる非常時利得に對し、特別利得稅として、營業所得に一割見當の增稅

を課し、なほそれと並行的に鐵道益金の一般會計繰入れ、および郵便料金の値上げを計畫し、總額約一億圓を捻出しようとするにあるものゝ如くであるが、一方において非常時增稅を斷行する以上、鐵道益金の繰入れにしても、また郵便料金の値上げにしても、今さら大した反對はあるまじく、まづ大體の輪廓には狂ひがないと見てよいのではあるまいか。

たゞこゝに注意すべきは、課稅の重心をなしてゐる特別利得の決定に、十二分の考慮が拂はれねばならぬといふことである。一方において合法的脫稅の防遏に遺漏なきを期すると同時に、他方、基準所得の決定に無理なからしめ、以て負擔の公平を確保することが絶對に必要だからである。

三千萬圓程度の增稅が果して適度であるかどうかには、なほ幾多の疑義を存するが、大體この程度の增稅なら、市場人の豫期した範圍を出づるものでないことだけは明かであり、材料としてはすでに織込み濟みだといふのが當つてゐるだらう。

最近市場の冴えないのは、政府が明年度豫算に對しどんな態度に出るのかサツパリ解らぬからで、增稅と事が決まり、その內容がハツキリすれば、必ずしも增稅そのものをそんなに氣に病んではゐないのだ。

私は、今日のわが財界は、今さら增稅に狼狽して遁げ腰になるやうな、そんな狀態には決しておかれてゐないことを確信する。だから肚がきまつたからには、一日も速かにその內容を示して貰ひたい

といふことを、この機會に藏相に注文しておく。この種の增稅で財界を動搖させるやうなことがあつたら、それは藏相の無能を語るものだといつてよい。(九・一〇・三〇)

賣られ行く娘達

—經濟問題よりは人道問題—

小判を抱いて餓死したといふのは、交通の開けなかつた昔のことだ。交通機關の發達した今日、凶作は必ずしも飢饉の原因ではあり得ない。たとひ凶作ではあつても、その地方の人々に購買の手段さへ殘されてをれば、商人は喜んで彼等に生活資料を供給する。『一塊の黃金よりも一個の馬鈴薯』などゝいふことは、今日の經濟機構の下において、想像もつかぬことである。

東北の凶作地方民救濟の急が叫ばれてゐるのは、たゞさへ天惠に薄き彼等地方民が、連年の不作に虐げられ、金錢收入どころか、自ら食ふ資料にさへ事を缺くに至つたからで、今や彼等には、他地方に有り餘つてゐる物資をさへ彼等の生活圈內に取入れる力を失つてゐるのである。彼等が、その娘達を賣つて、衣食の料に代へようとしてゐる最後の一線を、涙なしに見すごせるだらうか。

あらゆるものを金錢に評價せねば承知せぬこの資本主義經濟時代に、しかもそれ以外には殆ど金融方法をもたぬ細民達が、その娘を金に代へようとする企ては、今に始まつたことでない。

或る時代には、家族主義の立派な犧牲者として、賣られ行く娘達を稱へたこともある。

だが、現在では、人間の賣買は、法の嚴重に禁ずるところ。すなはち通俗に用ひられる『賣られる』といふ言葉は雇主が娘の何年かの勞働に對し、前貸しをするの意味であつて、その意味においては、その金融の對象は必ずしも婦女子とは限らない。

だが、男女によつて違ふのは、男の場合には、普通『賣られる』といふ言葉を使はないことである。この一事は、婦女子に對して要求されるところのものが、質的に男子の尋常の勞働以上のものであることを物語つて十分だと思ふ。すなはち娘達に對してなされる前貸しは、經濟問題よりは、寧ろ人道問題なのである。

尤も昔からこの種のいはゆる奉公を、茶飯事と心得てゐるやうな不屈きな地方もある。これ等は子女の獨立性を認めなかつた時代の遺習であつて、教育の力によつて、彼等の道德感を高めることに成功せぬ限り、そこに唯一の金融方法を見出さうとする彼等細民の弱點は、今日といへども容易にカヴアー出來さうにない。

隨つてこれが對策といへば、彼等の生活保障の一手段たる金融の方法を考へてやることであり、そ

れには國家なり關係團體なりが乘出すほかに道はあるまい。

若い娘達を農村から奪ふことは、結局農村から青年を奪ふことである。私は、それが農村の更生を如何に力弱いものにし、そしてその崩潰に如何に力强い拍車をかけてゐるかを思ひ、憂慮おく能はざるものがある。

彼等にまづ農村での仕事を與へよ。そしてその眞面目な仕事によつて、彼等の收入を保障してやるべきである。この人道上、經濟上、風紀上の大問題を前にして、政府としても、これが救濟に出費を吝むやうなことがあつてはなるまい。この際積極的に大いに働きかけて貰ひたいものである。

（九・一一・三）

腑甲斐なき民政黨

―鬪志なき總裁を繞りて―

一方では、若槻民政黨總裁が『留任勸告などがあつても、最早や用濟みの身の上、聽從するわけに行かぬ。自分の立場はすでに考へ直す必要のないところまで來てゐる…』といひ、また他の一方で

は、町田商相が『自分はその器に非ざることを知つてゐる。だから自分が後任總裁を斷じて引受けざること、若槻總裁が躊躇せざるよりも鞏固である』と述べてゐる。

由來政治家の言明ほど當てにならぬはないが、以上の若槻、町田兩氏の話から見て、今どき莫大な黨費を工面して、民政黨總裁を買つて出る氣などにはなれぬといふ意味だけは讀めるはずだ。

若槻男は、さらに政民聯携問題につき『政策を協定して議會政治を擁護して行かうといふのなら賛成だが、倒閣や政權獲得を目的としてのことなら御免蒙る』といつてゐる。だが、今度の議會の中心問題たる增稅案を挾んで、賛成論の民政黨と反對論の政友會とが、どこで握手しようといふのか、面白くもあり、怪奇でもある。

何といつても、多數黨たる政友會の支持を得なければ、增稅案は通らない。その結果は、內閣の總退却か、衆議院の解散か、そのどちらかといふことになる。

解散後の選擧の方が金が要らぬといふので、この邊での解散を當て込んでゐる議員達も相當あることではあり、若槻さんが嫌ひだといふ倒閣や政權獲得が、それにどう絡まつて、この議會に現はれて來ないものでもない。殊に增稅反對のスローガンを總選擧のお題目に使ふといふ巧妙な懸引きが政友會の手に預けられてある以上、今度の議會は、どこでそのネジが利かされるか解からないといふのが本當だらう。

つまり若槻男のいはゆる『最早や用濟み……』は、政友會の逆手利用の解散を見越して、增稅賛成を看板の不利の一戰を試みるべく、民政黨のために、最早や金の才覺などをする自信と氣力とがなくなつたといふことなのだ。

隨つて町田商相の『總裁の器に非ず』も、たとひその器であつても、この場合その器でないことにしておいて貰ひたいといふ意味に解して別にお叱りも受けまい。イヤハヤ、民政黨も悧巧な人達のお揃ひでござるわい。(九・二・六)

對策の實行を急げ

—勞銀の一部に政府米代用—

本年度の產米收穫第二回豫想は五千七十四萬六千百四十石と發表されたが、これを昨年の收穫と比較すると、實に二千萬石の激減であり、總量においては、大正二年の五千二十五萬石に次ぐ不作、段當り收量においては、明治四十三年以來の大凶作である。

しかしとに角、昨年の大豐作の後を承け、千六百萬石といふ未曾有の巨額在米を擁してゐるので、

需給關係に破綻を來たす危險はまづないものと見られてゐるが、それにしても、端境期の持越米は精々二百七十萬石見當と推算され、やがて來るべき高米價に對する調節方策が今から頭痛の種子とされてゐる。

尤も一面においては、凶作の聲とともに米は隱される傾向があり、後になつてゾロ〳〵出て來るのが凶作時の特色とも見られてゐるので、或は今後今日豫想されてゐる以上の供給量を見るに至らぬとも限らぬが、現在提示されてゐる數字を基礎として考へれば、民間の需給は著しく窮屈ならざるを得ないはずである。

だが、何といつても、現在の在米高千六百萬石中千百萬石までは政府の所有米なのだから、需給關係は專ら政府米の賣却狀態に支配されることになるわけで、農林當局が、この問題に關聯して、凶作地農村における匡救土木事業の勞銀の一部に政府米を代用するの案を、來月中旬に開かれる米穀統制委員會に諮問しようとしてゐるのは、この際機宜の措置だと評してよからう。

農村に勞力がないのではない。その勞力を生活資料に換へるべき手段がないのだから、政府米整理の一部を、彼等の勞力に待つ仕事に見出さうといふのは、いはゞ一石二鳥の效果を擧げるゆゑんであり、それだけに、私は、その實行の速かならんことを望むものである。

最近には、財政窮乏の極、遂に小學高等科の廢止を申合せた農村が現はれた。だが、農村の疲弊は

今に始まつたことでない。救濟方策その宜しきを得ざるがゆゑに、積り積つてこの狀態を出現せしむるに至つたのである。このまゝで進めば、やがては學校も役場も皆その戸を閉めてしまはねばならぬことにもなるだらう。考へても恐ろしいことである。

私は、今度の臨時議會で農村救濟對策が根本的に解決されるものとは思はない。しかし何分にも事態は想像以上に急迫してゐるのだ。何でも構はぬ、とに角實行に移せるものから、ドシ〳〵これを急施するのがこの際の第一方策だと私は考へる。

事實、農民達は、今自暴自棄のたゞ一歩手前にをるのだ。（九・二・一五）

增稅に意義づけよ

—ブレーキとしての效果—

床次、內田兩相の增稅反對表明で、また〳〵閣內の不統一が明るみへさらけ出され、非常時巡航船岡田丸の難航はさらに一段とその度を高めるに至つた。

尤も床次遞相の反對は、增稅そのものについてよりも、むしろその時期並に方法についてであり、

内田鐵相は、閣僚が增稅に一致賛成なら、敢て反對を固執しないといつてゐるところから見て、この兩相の反對で臨時利得稅が消し飛んでしまふだらうとは一寸考へられないが、少くともこの反對の表明は、將來の增稅計畫に太い牽制の一線を引いたもので、その意味において、健全財政のために藏相が死守するといつた赤字公債漸減方針は、いよ〳〵影の薄きを思はしめる。

たつた三千萬圓の增稅で、健全財政の顏を立てやうなどとは、餘りにも蟲のいゝ話。たとひ三千萬圓の增稅計畫は死守し得ても豫算の復活要求が抑へ切れなければ、折角蹴出した三千萬圓も、たゞ徒らに豫算膨脹へのお添へ物にされるだけのことで、健全財政どころか、增稅したゞけ却つて緊縮を裏切ることになる。

私は、毎度いふやうに、額は僅か三千萬圓であつても、それが際限なき財政膨脹に對する一つのブレーキだといふ意味で、その消極的效果に期待を持つのであるが、今やその意味さへ沒却されやうとしてゐるのを見、藤井藏相の手腕が、果して岡田首相のいはゆる『信賴』に値するかどうかいよ〳〵疑ひなきを得ざるものがある。

今では、藏相が立てるべき面目のカケラが、たゞ僅かに三千萬圓の增稅死守にかゝつてゐる、といはれても一言なき程度に、藏相の面目なるものは叩き潰されてしまつてゐるのだ。

だが、國民としては、たとひその額は三千萬圓であつても、その最後の一錢にまで出來るだけの意

義と效果とをもたしめる方法を考へる必要がある。私は、結局その增稅收入の支途を指定するのが一番安全かつ有效だらうと考へるが、藏相に果してその用意があるかどうか。せめて三千萬圓の增稅を無意味に膨脹豫算の中へ溶け込ませてしまはぬやう、藏相最善の努力を希望すると同時に、國民もまたその監視を怠るなと前杖をついておく。(九・一一・一七)

最後的な一環の脫落

―フランの前途ます〳〵險惡―

先月中旬ブラツセルに開かれた金ブロツク六ケ國代表者會議における『金本位維持の再決議』は、とに角それを一つの國際組織たらしめるといふ意識において、相互的道德感を印象せしめたには相違なからうが、歐洲からアメリカへの金流入はその後もなほ依然として繼續され、最近の一週間にはパリから積出された分だけでも五千萬ドルの巨額に上つてゐる。

すなはちその當時にも指摘しておいた通り、右の再決議が決して實質的共同戰線の稱呼に値するものにあらざりしことが、いよ〳〵明かにされつゝあるわけで、金ブロツクの危機が、最近さらにまた

搖り返し的に頓に濃化し來つたことが目につく。

ドイツの如きは、今日僅かに二%の金準備に嚙りついてゐるにすぎず、しかも依然たる入超貿易繼續の狀態にある以上、もはや金本位を云々するだけが無駄ではあるが、マルクの崩潰は暫くおくとしても、フランスを盟主とするいはゆる歐洲金ブロツクが、フランスの金融のみに賴つて、果してよくその國內の生活不安すなはち現に當面しつゝある貿易の逆調、資金の逃避、生產費の騰貴、失業者の增加、國庫收入の減少等の諸問題を、この上どこまで處理して行けるかゞ大問題なのである。オランダにおいても、スイスにおいても、ベルギーにおいても、すでに國內に金本位停止の聲が擧げられ、切下げ運動が起つてゐる。大勢的に見て、彼等が金本位防壘最後の一線にまで追詰められてゐるといふ事實は、もはや到底否認さるべくもなくなつてゐる。

しかも金ブロツクのどの一角が崩れても、金本位轉落といふ結果は同じことである。つまり金本位ブロツク連鎖中の一環の脫落が、最後的に凡てを決定すべき姿勢におかれてゐるのだ。

或は、フランス國民の大部分は、貯蓄と利息とで生活してゐる階層によつて占められてゐるので、國際的金融の變動、例へば金ブロツクの崩潰などがあつても、容易にフランの致命傷とはならぬであらうし、殊にヅーメルグ內閣の總辭職によつて拍車を加へられたフランス政局の危機も、一應喰止め得たかにも見えるので、その意味におけるフランスの强味が、金ブロツク諸國にも反映して、結局金

の危機を切拔け得るのではないかとの觀測を下してゐるものもある。

だが、私をしていはしむれば、フランスにおける金保有高の增加は、必ずしもフランの絕對信用を意味するものではなく、たゞ爲替戰爭を繞るドルとポンドとに對する不安の增嵩が、反射的に作用してゐるだけのことである。私は、むしろ今日の國際情勢の複雜性が、ますゝフランを險惡な事情に追詰むだらうことを考へると同時に、フランスの國民性が、金塊退藏をますゝ激成して、却て自ら金本位の墓穴を掘るだらうと見てゐる。

とに角、爲替の世界的大動搖の時代が、重ねて間もなくやつて來る。その結果採算の基礎は全く不明になるだらうし、金紙の開きに乘ずるゴールド・ラツシユの投機熱だけが爆發するだらう。……その意味で、これが導火線たる金ブロツクの龜裂が今專ら注目されてゐるのだ。(九・二・二〇)

原產標記と排日貨

—原產標記令の事實上の效果—

上海からの來報によれば、南京政府は、目下南京における全部の商品にレツテルの貼付を命じ、違

反者には罰金を以てこれに臨んでゐるさうである。

尤もこれは商品販賣の際に、支那商人にのみ適用されるものであり、政府もまた『國產品と外國品との區別を明かにするための必要…』と辯明してゐるが、それが原產地標記條令の形を變へた日貨排斥手段であるのは、餘りにも見え透いた事實であり、その擴大波及は、邦品にとり容易ならざる事態だといつてよい。

一昨年十二月公布された支那の原產國名標記條令には、その第一條において、原產國名を必ず支那語にて標記すべきことが規定されてゐるので、列國の猛烈な反對抗議を受けるに至つたが、昨年五月二十日の立法院會議は、遂に各國の希望を入れ、右條項に『但漢字にて標記困難なる場合には該輸入品原產地の國語を使用することを得』との但書を付してこれを修正し、さらに八月一日の實施豫定期日を九年一月一日まで延期したものである。

しかしこの但書の修正は『原產地の國語を使用する』といふ一見極めて公平な形式において、日本品を歐米品と區別するところを狙つたもので、この修正には、明かに合法的日本品排斥の魂膽が讀まれる。

尤もこの合法的區別待遇は、幸ひわが國からの再抗議により、なほ今日までその實施を留保されてはゐるが、南京政府が、今回さらに『國產品と外國品との區別』といふ名において、輸入とは關係なく、販賣に際してこの變則の標記條令を强制適用するに至つたのは、說明するまでもなく、無期延期中の原產地標記條令による日貨排斥の事實上の效果を狙つたもので、いはゞ事實上の原產地標記條令の復活——無斷實施である。

わが當局においても、この事態を重大視し、實情調査中だとのことだが、何ゆゑに原產地標記條令の實施が無期延期になつてゐるかの根本理由に鑑み、苟くもその精神を蹂躙するやうな區別的立法なり取扱ひなりには、斷々乎として反對せねばならぬ。大事に至らざるに先だち、機を逸せず、速かに善處して貰ひたいものである。(九・一一・二三)

生保界の新分野

—多年懸案の弱體保險制度—

わが生命保險界多年の懸案たる弱體保險制度の創設につき、いよ〳〵生保協會では、年內に新會社設立認可の申請をすることになつたとある。

そも〳〵弱體保險といふのは、普通の生命保險に加入することを拒絕されるやうな病身もの、短命

血族者等、要するに死亡率の高い人々を對象とする生命保險で、生命保險本來の主旨からいへば、かういふ弱體者こそ、最も大きな關心をもたれねばならぬはずなのである。

ところが、實際において、弱體者として契約不成立に終つてゐるものが、契約申込みの三分の一を占めてゐる有樣で、歐米の諸國に比し立ち遲れたりとはいへ、これらの弱體者を對象とする保險制度が、いよ〳〵實現圈内へはいつて來たことは、獨りわが保險界の進歩を表徵するに止まらず、社會的にもそこに極めて大きな意義が見出される。

今度實現されやうとする弱體保險の新會社設立要項は、大體生保協會が十年近い日子を費して作成した弱體死亡率表その他を中心に組立てられたもので、十分自信のある產物であるはずなのだが、當面の問題としては、試驗的にこれを經營することゝし資本金の如きも最初の計畫よりはズツと切下げて二百萬圓（四分の一拂込）程度にするものと見られてゐるのは、何分にも初めての經驗であるだけに、大事を取つての措置だとも解されやう。

だがもと〳〵わが國における弱體保險實施の機運促進は、むしろ生保會社の行詰つた新契約に新分野を開く意味においてなされたもので、たま〳〵わが國にその實施方を强調したミュンヘン弱體再保險會社のエンムデン博士の肚が、わが弱體保險をミュンヘン會社に再保することにあつたために、徒らに利益を外國に搾取されるよりは、わが國で再保すべしとの主張が現はれ、結局設立案が流產にな

つたといふ經緯があるのだ。

隨つてその後の調査委員會においても、その經營につき、各社經營案、プール案、單獨會社案などが色々錯綜した揚句、とに角獨占の弊を避けるために一社の最高株式引受額を制限する方法の下に、各社の引受けによる單獨會社の設立案に一致を見ることになつたので、これが實現すれば、一般生命保險から見離されてゐた全國數百萬の弱體者の生命が保險されると同時に、契約全體を同會社に再保することにより、懸案の弱小保險會社の整理にも役立つことになるので、一石二鳥の效果が期待されるわけである。

とに角、まさに生れ出でんとする胎兒のために、その幸先きを祝つておく。（九・一・二三）

高橋翁遂に出馬

―藏相の更迭と財界の明暗―

高橋翁の出馬……これで財界の見通しがハツキリついたといふので、市場では早速歡迎相場だ。だが、考へて見ると、實に變なものだ。同一内閣の藏相更迭が財界の明暗を畫するといふこともあ

り得ないことではないが、その更迭の原因が、岡田内閣の政策變更のためでもなければ、また前藏相の政策行詰りの結果でもなく、おまけに前藏相の推薦者が後任になつただけのことで、なぜ財界の空氣がかくも急變するのであるか。

私はそれを二つの意味に解釋する。その一は、一國の大藏大臣、殊にこの非常時の財政擔當者が如何に練達の士であつても、いはゆる事務家では駄目だといふこと。だからたとひ藤井氏の手によつて編成された豫算を後任者がそのまゝ忠實に實行するとしても、高橋翁のやうな財界ばかりでなく政界の第一人者が出れば安心出來るといふところが買はれるのである。

他の一つは、日本の財界それ自身が、大部分政府事業中心に動いてをり、景氣もまたそれを反映してゐるといふ關係から、藏相の手心一つといふところに、藏相その人が問題にさるべき心理が働いてゐるといふことである。これなどは、明かにわが財界の頼りなさを表白するもので、甚だ感心出來ぬ特質ではあるが、今それを問題にして見たところでどうにもならぬ。

今や臨時議會が開會中であり、藏相の政治的手腕に待たねばならぬものが山積してゐるが、高橋藏相なら、とに角收まるだらうとは誰しもの觀測であり、翁の健康も大丈夫だといふから、まづ〳〵結構だと申上げておく。その内には信頼出來るやうな後繼者も出て來るだらうし、また出て貰はねば困る話だ。

それにしても、私が一つ心配してゐるのは、例の黒田事件を續り、責任可分論を唱へて成らず、遂に『不德の致すところ……』で、齋藤内閣が總辭職したのだといふ事實である。換言すれば、黒田事件のまだ片づかぬ今日、翁の出馬が議會あたりで問題にならねば……と、倅格の藤井氏の後任として己れを空しうして出て來た翁のためにこれを憂ふる。(九・二一・二八)

被監督會社の重役

—藏相自らその主張を破る—

五日の勸銀臨時株主總會で、大藏省の佐野專賣局長官が同行の理事に就任することに決定した。事柄は單に特銀一理事の退職補充にすぎないが、とに角大藏當局が拔打的にその一局長を被監督銀行重役に推擧し、多士濟々幾多の人材を擁する勸銀當局をして遂にこれに屈服せしめたことは、少くとも高橋藏相が多年主張し來つたところの『被監督會社銀行重役に關係官吏を任命してはならぬ……』といふ大方針を裏切るもので、いはゞ綱紀弛緩の一つの現はれとも見られる。

銀行といはず、會社といはず、從來その監督者たる立場にあつた關係官吏が、そこの重役として入

込んでゐる例が非常に多い。しかし私は、常にこれを精神的、道德的には贈賄、收賄の一種の變形體だと見てゐる。

蓋し多くの場合、この官吏上りの重役は、會社なり銀行なりの希望といはんよりは、いはゆるお上からの天降りもので、ただ民間會社が、それをもつて、彼の在職中に受けた特別行爲に對するお禮心か、さもなくば、彼を通して今後の對役所關係に何等かの利益を豫定してのことであるからだ。

先の詰つた役人の古手が、しかも官吏時代の俸給などとは比較にもならぬ高級で迎へられたら、彼としても何かの傳心感はもつだらう。かくして綱紀弛緩の免疫性がはじまるのだ。

恐らく職務上、會社なり銀行なりの弱點を知り拔いてゐるだらうところの監督者が、そのまゝその會社、銀行に入り込むことが大ツぴらに許されては、在職中に僅かな金品を授受した廉で、收賄、贈賄の罪に問はれる官吏達は、餘りにも氣の毒な感じがする。むしろ法律の不公平さに驚きたいくらゐのものである。

私は、何も今度の推擧、選任に直接それを當てはめて考へようとは思はぬ。しかしたゞ關係官吏の被監督會社銀行の重役就任排擊を主張しつゝある高橋藏相の下において、しかも將來の藏相の呼び聲さへある馬場總裁を相手として、この事實の發生したことが如何にも目に立ち、殘念に思はれるがゆゑに例をそれに取つたまでのことである。

將來もあることだ。特に嚴重に警めたいものである。（九・二・七）

軍部の經濟的接觸

—旭川師團の新しい試み—

農林省經濟更生部が最近調査發表した所によると、近時わが農村經濟は、漸次多角化して行く一方自給經濟的傾向の著しく濃化しつゝあることを發見する。

七千萬石の豐作に愕いての減段案ではあつたが、今年度の產米が五千萬石そこ〳〵だと聞いては、このところ減段案も戸惑ひ苦笑ひの態である。しかし大體から見ると、從來の增產一本槍の農業經營方針に統制色のかゝつて來たことは見遁せぬ事實で、いはゆる增產計畫なるものも、少からざる多角經營の影響裡に、その進行が見られるやうになつて來た。

とに角、かくして米作一元、養蠶一元、若くは米蠶二元の農業が多角化されて行くといふことは、それだけ農家經濟における危險の分散を物語るもので、甚だ悅ばしい現象であるといつてよい。旱害冷害等にしても、作物の種類が色々配合されてをれば、被害の程度も自ら輕くて濟む場合もあらうと

いふものである。

しかしさらに進んで考へて見たいことは、作物の種類の變化や配合だけに止まらず、農家における農産物以外の手內職式副業の取入れについてゞある。

現に農家の副業が、米や蠶の値下りに際して、彼等の生活を助けてゐる實例は幾らもあるが、目下北海道の旭川師團が計畫中だといふ災害地方農民の救濟方法の如き、もしこれに一層の恒久性をもたせたならば、それが農家經濟に及ぼす效果の如何に大きからうかを、想像せしむるに十分なるものがある。

最初旭川師團では、これ等の地方から食糧を購入して、彼等農民の窮狀を潤ほさうといふのであつたが、これ等の農村は、すでに賣る物さへ持合さぬ狀態なので、こゝにその方針を一變し、師團から材料を供給して婦女子をしてシヤツ、ズボン下、肩章、襟章の類を作らせ、それを買上げることにしたほか、養兎家の處置に困つてゐた兎肉を買上げたり、古木を拂下げて製炭の上、納入せしめたり、その方策たるや、必ずしも凶作時の應急手段としてでなくとも、農村の對策を講ずる上に、十分考究に値するものである。

林陸相の議會での答辯によると『農村問題は直ちに國防に關係して來るので研究してゐる…』とあるが、かやうな軍隊と農家との直接接觸は、士氣振興の一助としても、相當考へられて然るべきを思

ふものである。

また陸相は、貴族院における淺田男の質問に應へて『昭和八年度以降、東北六縣地方に關係あるものを買上げるやうに努力してゐる…』と述べてゐるが、私は、陸軍がさらに進んで、彼等をして賣るべき何物かを繼續的にもたせる方法を積極的に講じてやつて貰ひたいものだと切望する。その意味において、私は、今度の旭川師團の救濟方法の成績が一刻も早く知りたいのだ。(九・一二・九)

カムフラーヂ財政

—注目すべき臨時費の恒久化—

對外的には、いはゆる國際危機が目前にチラついてをり、對內的には、農村の匡救が急を告げてゐる今日、何びとが財務の局に當らうとも、何億といふ赤字を乘り越えて、一足飛びに健全財政の大願成就覺束なきは解かり切つた話である。

とはいへ、それに絡まる經費の要求を無條件に容れてゐたのでは、惡性インフレーションの祟りを覿面に受けねばならず、せめてこの際健全財政への方針だけでも決定したいといふのが今日の情勢。

隨つてわが財界は、今や健全通貨政策とインフレーション政策との對立的雰圍氣の中に、その足場を見出すべく焦せらざるを得なくなつてゐるのだ。

要するに、現在のわが國は、健全通貨にもインフレーションにも徹底出來ない立場にあるので、これを爲政者の側からいへば如何にこの對立をカムフラーヂするかの問題にすぎないのである。赤字公債を增發しつゝ、なほ赤字漸減の方針を捨てない、といふ高橋藏相の議會における答辯こそは、全く正直なその告白だといつてよからう。

私は、高橋藏相の赤字公債增發可能論を鵜呑みにするものではないが、事現在に關する限り、わが財政の基礎が、赤字公債のためにすでに決定的な重壓を被つてゐるか否かには、なほ考慮の餘地の存することを明かに認める。

すなはちわが財政信用が、この上一文の赤字公債發行をも許さぬのだとは思はない。たゞ赤字公債の用途などには頓着なく、單に借りられるから借りるに何の不都合があるかといふ見方なり考へ方なりに不安を感ずるまでのことである。

この上、一億や二億赤字公債が殖えたとて、ためにわが財政が直ちに破綻の醜態を暴露するだらうとは夢にも思はぬ。殊にそれが臨時的支出に振向けられた場合において然りである。

われ〳〵の恐れるのは、その赤字公債——たとひ當初においては臨時的用途に供せられたものであ

つても——が、何時の間にやら恒久性を帶びて來るといふ關係である。それも減債並に利拂に對する恒久財源が確實に準備されてゞもゐるなら格別、それに對する保障のない限り、臨時費の恒久化を防ぐことが、財政基礎を强化する重要なる目標でなければならぬ。たゞ惡性インフレーショシがまだ起つてをらぬといふ事實だけから、健全財政主義の擁護をルースにしてはなるまい。常にまだ〳〵といつてゐる間に、遠慮なく化膿してゐる『危險』であるのだ。(九・三・一六)

刑務所製品と業者

—一般市場の影響に注意—

この二、三年來、全國各地の刑務所で、竹刀、面、籠手、垂、胴などの劍道武具の大量製造を始めたために、全國約百軒の武具製造業者を中心に數千の專門職人が非常な打擊を受けるとになつたが、最近にはます〳〵刑務所における製造規模が擴大の傾向にあるので、遂に業者の反對運動を捲起すに至り、來春早々全國大會を開くまでに進展具體化して來た。

業者の反對運動が『この先祖傳來の誇るべき特殊の仕事が刑務所にゐる人々の手に移されることは

わが武道精神に反する……』といふ建前になつてゐるのは、ちとどうかと思ふが、これを純粋な經濟的立場から見れば、彼等業者のためにも相當考へてやらねばならぬ根本問題の存在を否定し去るわけに行かぬであらう。

武道精神論からすれば『囚人もまた同じ日本國民であり、武具を縫ふ一針毎に報罪の誠と感激とが盛り上げられて行く以上囚人教育上却つて好結果を齎らす……』といふ議論も立派に成り立つ。私はなぜ業者が、精神論などに囚はれて、直截鮮明に、彼等の經濟的脅威感を訴へる道に出ないのかを怪しむ。

無論個々の業者の製品を以てしては、一時に大量の注文に應じ切れぬばかりか、技術においても被服本廠あたりの見本檢査に合格し得ぬものすらあるさうだから、現狀のまゝで、刑務所内における製作に反對する根據は案外薄弱であるとも思はれる。業者にしても、少くとも共同工場設置による自力更生策ぐらゐは講じて然るべきはずである。

今日刑務所において作られ商品化されてゐる品物にして、現に一般製造業者の抗議の的になつてゐるものが少からずある。そしてそれが必ずしも道德的見地からの非難攻擊でないことは、一應承知しておく必要があるはずだ。

刑務所製品に對する抗議は、常に例外なく、それが一般市價よりも遙かに低廉に供給されて、市場

を攪亂紛糾せしむることから發してゐる。刑務所において、囚人のために仕事を授け、以て將來の計を樹てゝやるのは誠に結構なことである。しかし刑務所における製作品が授產の範域を越え、その商品化が一般市場を脅威するやうになつては全く考へものである。

早い話が、一般市場における製品と刑務所における製品との間には資金、材料、賃銀をはじめ殆ど凡ての生產條件に相違があり、保管、運搬等についても、刑務所における製品は、一般に認められてゐる經濟上の約束に隨つてゐないのが普通である。これに對抗出來ぬのは、必ずしも一般業者が意氣地がないからばかりではないのである。

私は、無論業者の更生に對する一層の努力を希望するものであるが、それと同時に、また刑務所製品については、豫めその時期、地域、數量等を嚴重に制限し、これを一般業者に知らしむる方法を講ずるほか、賣値の如きも一般市場の影響を十分考慮して決定すべきはずのものだと信ずる。

（九・三・一八）

景氣の上昇力如何

—景氣の基調を整へる必要—

昭和七年以來、わが國の景氣を搖り動かし來つたものは、何といつても、輸出貿易の進展と軍需工業を中心とする產業界の活躍とであるが、この現象の原動力が財政の膨脹と爲替安とにあつたことは今さら說明を要せざるところであらう。

しかし今年に入つてからは、財政の關係にしても、漸くその財源調達方法に不安が意識されて來、十年度豫算には、臨時利得稅といふ——安價ではあるが、とに角健全財政論への申譯けのカケラが登場するに至つたやうな次第で、少くとも膨脹財政に對する手放しの禮讚には或種のブレーキが作用し始めたことを意識せしめられる。蓋し赤字公債の續發によつて支持された所謂好況の繼續性を、無條件に信ずることが怪しくなつて來たからである。

いふまでもなく、今日の景氣現象は、專ら不均衡財政の上に培はれてゐる。だから表面的にはその矛盾と缺陷とが掩はれてゐても、すべての客觀的事情は皆その根底において不安定性を帶びざるはない。つまり景氣は景氣でも、まだ大地にシッカリ足をつけてゐない景氣なのである。

だが、飽くまでもインフレーションの惡酒に醉ひしれたい連中は、それが生產的だらうと不生產的だらうと、そんなことには一向頓着なく、ひたすら膨脹財政の繼續進展をのみこれ祈つてゐる。恐らくそれが今度の通常議會にも反映するだらうと思はれるが、政府當局が豫算の多きを憂へず、議會においてその少きを辯じなければならぬやうな情勢では、國民の眞意は、議會政治において却つて裏切

られる。

今後なほ現在の景氣に上昇力があるのか、或は漸次それが緩漫化されて行くのか、この見通しは全く容易でない。思ふに行くところまで行つて潰れるか、本當の景氣の基調を整へるために、財政的立場がもつと擁護されるかの問題にすぎぬのだが、私は、とに角ハツキリその見定めをつけ得る今度の議會を、その意味で待ち設けてゐるのである。(九・三・二)

明日を賴めぬ人氣

—インフレーションの自轉—

歲末に春高人氣が煽られ、春になつてボケるといふのが、市場における殆ど毎年の定石であるが、今年はこゝまで暮れ迫つて、春高見越しの高潮どころか、いまだにそのきざしさへ見せぬのが特に目に立つ。

政治、外交、經濟の重大問題が、いづれも頭を揃へて未解決のまゝ明春へ持越される關係上、景氣の展望は極めて困難なものになつてゐるが、しかしまた見通しのつかぬところに妙味ありともいへぬ

ことはないわけで、程度の差こそあれ、見通し困難といふ點については、去年も一昨年も變りのなかつたことを思出してもよいはずだ。

無論まだ年内に皮肉相場がないとは斷言出來ぬが、しかしもしあつても、大勢的にそれに爆發性のないことだけは恐らく間違ひのない觀測だといつてよからう。蓋し增資擴張による株式の供給過多がすでに輸出景氣や軍需景氣の頸筋へ太い一線を畫するところまで來てゐるからである。

株式ばかりでなく、私は、最近の跛行景氣に刺戟された生產が、大衆の消化力を追ひ拔き、やがて間もなく物の餘る場面を眼前に展開し來るだらうことを信じてゐる。インフレーション經濟下において、物價の伸び得ない理由もそこにあるのだ。

とに角かくして原料高、製品安が舞臺を占領することになれば、財界の基調は厭でも惡化する。そしてそれから先きは、たゞインフレーション自轉の問題なのである。

ケメラー教授は、最近『アメリカは直ちに現在の政策から廻れ右をして、歲出を出來るだけ削減する一方、增稅を斷行するほかない……』との意見を發表して、アメリカ財界の注目を引いたが、これは要するに、政府のもつてゐる無限の起債力に制限を加へなければ、インフレーションの自轉による重大な結果を避け得ないからであつて、この點わが國にとつても思ひ合はされる節が大にある。

赤字公債も分量によりけり、それが銀行保有の債權の大部分を占めるやうな狀態になつたら、それ

自體がすでに惡性インフレーションを表明するもの、私は、ケメラー教授の警告を直ちにとつて以て明日のわが財界に贈りたい。せめて跛行景氣崩潰の土壇場まで行きつかぬうちに……と念じながら。

（九・三・二三）

解散は弱氣材料か

―財界に明朗性なき理由―

『來春の景氣如何』といふ課題に對しては、目下各方面に色々な觀測が行はれてゐるが、私は、たとひ豫期せぬ皮肉相場が現はれたとしても、大勢的に見れば、それに大した進展性のないことが、今日の財界の特色をなしてゐるのではないかと考へる。但し、それは『解散』あるがための結論ではないことをこゝに注意しておく。

何もかもがお預けのまゝ來月の議會を迎へやうといふのだ。だからそこに政治不安の暗流が默りこくつて薄氣味惡い色を漂はせてゐるのに不思議はない。尤も去勢された政黨と無力な內閣との間に何が起らうとも、その政治取引自體にはさほどの關心をもつ必要はないといへやうが、市場戰術の目標

が、今や專ら解散の有無におかれてゐるのは否定すべからざる事實であり、その見通しの付かぬことが、いはゆる人氣不安の内容を形作つてゐると解すべきだらう。

しかしこゝに最も注意を要するのは、もし解散があつた場合に、多數黨の榮冠がどこに落ちるのか知らないが、その多數黨なるものが果して本當の『國策』所有者であるかどうか、そしてその國策に對する實行力を持合せてゐるかどうかといふ點だらうと想像される。換言すれば、その多數黨が本當の國策遂行のために、岡田内閣に代つて政權を把握し得るかどうかといふ問題なのである。

今や内閣に國策なく、政黨にまた國策なしである。彼等が如何に自信のない政治取引に終始してゐるかは、過般の臨時議會の經過を一瞥すれば餘りにも明瞭な話で、政黨に徹底した更生感がなければたとひ岡田内閣はこれを倒し得たとしても、次の内閣が議會に多數を擁する政黨の手に移つて行くだらうとは、遽かに信ぜられぬ情勢にある。

隨つて解散とか總辭職とかによつて、政局の不安は一應解消されたにしても、次に來るものは、恐らく岡田内閣同樣、中心政策をもたない聯立的内閣以外のものではあるまじく、その意味において、政策の轉換から來る財界の動搖の如きは、恐らく想像するがほどのものはあり得まい。

實は、根本國策なき、内閣同士の交代そのものよりも、たゞ一人の大藏大臣の更迭が、それ以上の問題であり得る。何となれば、内閣自身には財政經濟政策といふものがなく、一閣員たる大藏大臣の

政策が、取りも直さず、内閣の政策にほかならぬのが今の政治だからである。だから同一内閣でも藏相が變れば政策が變り、内閣は變つても藏相が變らなければ政策に變化がないといふ奇現象が平氣で展示されてゐるのだ。

隨つて財界に動搖を來さしむる政治不安があるとすれば、それは却つて弱氣材料とされてゐる解散でも總辭職でもないかも知れぬ。財界が明朗性を缺く根本原因は自ら他にある。（九・三・二五）

十年度豫算の輪廓

—恐れ入つた公債漸減方針—

二十六日、貴衆兩院議員に交付された昭和十年度一般會計豫算綱要によると、前年度に比し、歳出總額において、約二千萬圓の減少を示してゐるが、收支の均衡は依然としてとれてゐないばかりでなく、歳入不足の補塡は、凡て遠慮なくこれを公債財源に仰ぐ建前のもとに、矢張り約七億五千萬圓の赤字公債發行が豫定されてゐる。

政府當局の説明によると、努めて公債の新規發行額の減少をはかつたとあるが、この一般會計の七

億四千九百餘萬圓のほかに、なほ追加豫算の交付公債及び特別會計に屬するもの合せて約八千六百萬圓があり、これを加算すれば、明年度豫算の公債發行額は優に八億四千萬圓を突破すべく、八年度並に九年度に比すれば多少ながら減額の跡はこれを認め得らるゝも、とにかく八十六億四千萬圓といふ尨大な既發公債あるが上の增發であることに想到すれば、一億そこ〳〵の減額で、公債漸減方針の顏を立てた積りの財務當局の氣の好さに寧ろ同情したくなる。

既發公債八十六億四千萬圓に、本年度未發分約四億圓、明年度分八億四千萬圓を合すれば、明年度末には、わが公債額は百億圓の大關門線突破に、あと幾許をも殘さゞる際どいところまで突き進む勘定であり、その利拂にだけでも四億圓以上の財源を必要とすることになる。四億といへば、優に租稅收入總額の半ばに當る。これでは健全財政の護符には、まだ當分お燈明も上がりさうにない。

とにかく明年度豫算の不徹底なことについては、恐らく豫算編成の局に當つた政府といへどもこれを認識せざるを得まいと思はれるが、私の興味は、むしろ在野黨がこの不備に對して、果してどれだけ非難の矢を浴びせかけ得るだらうかといふ點に集中されてゐる。

總豫算の半分弱を軍事費に傾倒しながら、國防に直接關係のない他の國策を財政的に顧みないといふ非難は、これを過般の臨時議會の空氣に徵しても、當然十年度豫算を繞つて、持上がるものと見ねばならぬが、要するに財源があるかないかの問題で、歲出の削減にも、財源の調達にも、何等自信ある政策をもたない在野黨である限り、私は、結局在野黨が、急所を突きながら、その急所を抉り得ないで、引きさがるのが落ちだらうと見る。尤も一億八千萬圓の爆彈決議の手前もあること、納まりやうにも色々曲折はあらうが、正直のところ、政治の表面だけは動いても、この分では、財政の實體には變りはあり得ないと見るのが本當ではなからうか。（九・一二・二八）

昭和九年も暮れ迫つて、猛烈執拗な鼻炎と氣管支炎とに冒された筆者は、越年とともに更に神經痛をも併發し、遂に八月に至るまで蟄居靜養を餘儀なくされ、その間執筆の機會を有ち得なかつたので、こゝに本書を刊行するに當り、十年初頭から再び執筆を始めた同十月一日に至るまで正味九ヶ月に亘る內外財界推移の輪廓を示し、前後の照應に便ならしむべく、その期間における關係主要出來事を摘錄し、以て本書を通讀される讀者のために、この時間的缺隙を補綴することにした。

昭和十年一月より九月に至る內外財界の動き

〔一　月〕

二　日　フランス銀行總裁更迭、モレー氏辭職しタンネリー氏就任、從來の通貨政策に變化なき旨を言明。

三　日　エチオピア政府より伊領ソマリーランドとの國境における紛爭を國際聯盟に提訴。

六　日　國民政府貨物標名規則を公布。

七　日　アメリカ大統領、九億ドルの軍事費と四十億ドルの復興及び救濟事業費を含む豫算教書を提出。

十七日　ザールは、人民投票の結果、三月一日よりドイツへ復歸と決定。

十八日　ユー・エス・スチール會社が一週五日勤務制を撤廢、一週六日制復歸を發表。

同　日　銑鐵共販會社とソ聯通商部代表との間に、一月以降十二月までにソ銑鐵十萬トン輸入の契約成り正式に調印。

同　日　商工大臣町田忠治氏民政黨總裁就任を受諾。

二十一日　農林省發表、九年度米收穫高五千百八十三萬九千六百二十九石、前年比較千八百九十八萬九千四百八十八石即ち二六%八の減少。

同　日　支那、ダンピング稅の範圍擴大を決定。

二十五日　衆議院本會議に於て廣田外相平和外交方針を力說『在任中戰爭なし』との所信を述ぶ。

二十八日　ニューヨークのトラック運轉手及び沖仲仕罷業を開始。

三十一日　米露間の舊債交渉決裂。

〔二　月〕

一　日　紡績聯合委員會に於て、四月以降六月までの操短率五分擴張を決定。

二　日　國民政府が、交通部借款整理案中に西原借款を含まざる旨聲明。

三　日　山崎農相、衆議院にて九年度農產物價格總額二十四億四千八百萬圓、前年比三億二千七百萬圓減と發表。

五　日　日本人排斥を目的とする外人土地法案をアリゾナ州下院に提出。

六　日　米棉の對獨輸出交渉不調に終る。

八　日　全國米穀商大會が米穀自治管理案に反對を決議。

十六日　對獨債權據置協定の有效期間を更に一ケ年延長。

同　日　北鐵買收資金調達成る（一）一億八千萬圓を限度とする滿洲國國債を發行（二）右公債は分割發行とし、現物拂物資及び從業員退職手當支拂の際必要に應じ發行す（三）公債擔保は北鐵全線を以てす（四）讓渡直後に要する約五千萬圓は一時滿洲國の對滿鐵借款の形式を以て滿鐵これを調達す。

十八日　アメリカ大審院は、金約款廢棄共同決議に對し、右廢棄は私的債務には有效、政府公債に關しては無效と判決したが、政府に金拂を要求する訴訟は行政裁判所これを受理する權限なしとあるため實質的には政府の勝利となる。

同　日　蘭印政府、ジャヴァ糖五割減產を決定發表。

〔三　月〕

二　日　日蘭海運會商遂に決裂。

二十三日　カナダ政府、關稅法改正實施、英帝國製品に對する一般的稅率を低下。

二十七日　日本の國際聯盟脫退效力發生。

二十八日　國民政府財政部は銀輸入奬勵のため、再輸出銀に對する七割五分課稅及び平衡稅免除規定を改正公布。

二十九日　ベルギー政府、金本位停止、ベルガ貨平價切下げ、爲替平衡資金設定を決定。

同　日　濠洲改正關稅實施。

〔四　月〕

一　日　臨時利得稅法施行、法人については昭和十年一月一日を含む事業年度より、個人については昭和十年分より適用。

七　日　佛、白、瑞、和の各國々立銀行總裁、バーゼルに參集、ベルガ貨平價切下げに基く新情勢對策を協議、金本位固持に協力すべきことを決定。

二十五日　アメリカ財務長官は前日銀買上値を七十七仙五七に引上げたが、なほ今後も買上げを續行し、銀相場が一ドル二十九仙に達するか又は銀保有高が金額に於て金保有高の三分の一に達するまで繼續の旨聲明。

同　日　國民政府、アメリカの銀政策緩和を懇請。

二十六日　ニューヨーク組合銀行は、六ケ月以內の定期預金利子を無利子とする旨發表。

〔五　月〕

七　日　加州下院委員會が排日的外人土地法案を握潰すに決定。

十一日　農林省發表、四月末現在春蠶掃立數量豫想六千九百七萬瓦、前年實數比較八百三十九萬二千瓦即ち一〇％八の減少。

十七日　在支帝國公使館を大使館に昇格。

十八日　蘭印政府、綿製品輸入制限令公布。

二十日　アメリカ財務省、外國銀貨輸入禁止の省令を公布。

二十二日　フランス政府金流出増大のためフラン貨防衛の財政獨裁權を要求。
二十三日　フランス銀行、公定割引歩合を二％五より三％に、二十五日四％に、二十八日六％に引上げ。
二十七日　アメリカ大審院、産業復興法第三條は違憲の旨判決。
二十九日　蘭印政府、衞生陶磁器類輸入制限令公布。
三十日　濱松春繭初取引、白繭平均相場四・〇六四圓（前年二・七六三圓）掛目三〇。
三十一日　フランス下院、財政獨裁權法案を否決、フランダン内閣總辭職。

〔六　月〕

七　日　イギリス内閣改造、ボルドウイン氏マグドナルド氏に代りて首相に就任。
八　日　イギリス政府、リースロス氏を支那財政視察のため派遣決定。
十七日　政府より内閣審議會に中央地方に通ずる財政改善根本方策を附議。
二十日　フランス銀行、公定割引歩合を六％より五％に引下げ。
二十二日　南洋海運强化のため、石原産業、日本郵船、大阪商船、南洋郵船の四社が日蘭航路の新會社設立を決定。

二十四日　ドイツ、ライヒスバンク、外債支拂停止を更に一ヶ年延長。
二十九日　關西、九州地方大水害。

〔七　月〕

三　日　ニューヨーク準銀と國際決濟銀行との間に五千萬ドルを限度とする歐洲金ブロック諸國援助資金設定協定成る。
四　日　フランス銀行、公定割引歩合を五％より四％に引下げ。
八　日　外務、農林兩省協議の結果、本米穀年度中に十萬石を限りシヤム米輸入許可。
十三日　米露通商協定成立。
十七日　人絹聯合會は八月十一日以降九月末まで義務輸出の一割をそのまゝとし、封緘を一割擴張して二割と決定。
十八日　フランス銀行、公定割引歩合を四％より三％五に引下げ。
二十日　カナダの邦品防遏に對し、報復として遂に通商擁護法を發動。
二十四日　カナダ政府、日本品に對し、從價三分の一の附加稅徵收を發令、八月五日より實施。
二十七日　高橋藏相、公債消化問題につき重大聲明發表。

〔八　月〕

五　日　カナダ政府、對日新關稅實施。

八　日　フランス銀行、公定割引步合を三%五より三%に引下げ。

九　日　蘭印政府、石鹼輸入制限令公布。

十一日　關西地方に豪雨再襲來、大阪府下の水禍被害三百八十二萬二千餘圓と發表。

十二日　陸軍省永田軍務局長遭難。

二十三日　ドイツ政府、十億マークの整理公債募集。

二十九日　第一回日滿經濟委員會を新京に開催。

三十一日　人絹聯合會、十月以降三ケ月間二割休錘（從來の輸出振替制廢止）を發表。

同　日　日滿爲替平價實現。

〔九　月〕

三　日　エチオピア國の利權契約に關し、スタンダード石油會社は、アメリカ政府當局の該契約は國際平和に障碍を與ふるなりとの提言に從ひ、エ國皇帝に對し契約取消を通告。

十二日　農林省發表、九月一日現在夏秋蠶掃立數量豫想八千百十萬二千瓦、前年實數比較二百三十四萬九千瓦即ち二%八の減少。

同　日　日露漁業條約改訂交渉につき、ロシヤ政府、日本の主張を拒否。

十七日　フイリツピン初代大統領選擧、ケソン氏當選。

十九日　濠洲親善使節來る

三十日　エチオピア皇帝對伊動員令に署名。

望みなき通貨安定

—明朗性を缺く歐洲の空氣—

九月二十八日の國際聯盟總會で、フランスの商相ボンネ氏の暫定通貨安定案が採擇されて以來、最近再び爲替安定問題に關する色々の噂が傳はり出したが、その主旨はとに角、實際問題としての實現性に至つては、なほいまだその目鼻さへも付いてはをらぬ。

その掛け聲の高きに似ず、この大問題を前にして、各國が一向現實に乘り出さうとしないのは、要するに伊エ問題をはじめ歐洲政局の不安動搖に押されてのこと。實はその壓力のために、通貨安定策への乘り出しどころか、不安擴大の無軌道的進轉をさへ如何ともし得ない實情なのである。

東阿の戰雲が案外呆氣なく收まりさうだといふので、市場では早くも戰爭人氣買ひの反動を見せてゐる。伊エの戰爭そのものだけについて見れば、或は力み損に終る懸念も多分にある。だが、唯さへ不明朗な全歐洲の空氣が伊エの衝突によつて攪拌された結果は、その戰爭期間の長短如何に拘はらず期せずして各國の軍備擴張熱を煽り立てることになつたので、それに拍車のかゝつてゐる限り、その派生的影響は、どの道抹殺出來ない關係に立つてゐる。

イギリスの如きは、すでに極めて大膽な軍擴計畫を發表し、ために食料品並に軍需品價格の投機化が懸念されるところまで突き進んでゐるではないか。

かくして不幸なる軍擴競爭が再登場する以上、莫大なる軍事費の放射が國際的に釀し出す通貨のデプレシエーションは當然約束されたことであり、その一角はすでに現實にわれ〳〵の眼前に展開されつゝある。

のみならず、他面には國際通商のチヤンネルを滅茶苦茶にする高率關稅、輸入割當などの經濟裝甲タンクの跳梁依然たるものがあり、その除却に至つては全くわれ〳〵の才覺を無意味なものにしてしまつてゐるので、かくては通貨の不安はたゞ募る一方、出來もせぬ通貨安定の相談など、結局するだけが野暮だといふ結論になる。

今どき金本位復歸の夢物語でもあるまいが、輸出が止つたら食つて行けぬ國民である以上、爲替の

潰滅と通商の障碍とは、われ〳〵日本國民にとつては、全く戰爭以上の脅威でなければならぬ。たゞ簡單に『それもおつき合ひだ……』とばかり濟ましてはをれまい。（一〇・一〇・一）

進退兩難の銀行

―腰骨のない財政策の祟り―

銀行の本質を一言にして掩へば、銀行は預金と貸付との利鞘を稼ぐ商賣だといふことになる。だから他人の金を安く預つて高く貸し得る間は、異議なしに銀行萬歲である。

しかし經濟界の運行は、銀行家が晝寢してゐても儲かるやうなそんな贅澤な御時勢ばかりを釀し出してはくれぬ。安く預つて安く貸したり、高く預つて高く貸したりするのはまだしも、時には高く預つて安く貸さねばならぬいのち取りの場面さへも飛び出して來る。そしてお氣の毒なことには、わが銀行界は、今や恰度その最惡の苦難に巡り合せて青息吐息の態なのである。

赤字財政の射ち出す不換紙幣は、廻り廻つてその假りの姿を銀行預金に現ずるのが落ちとされるが過剩の泡を吹いてゐる現下のわが產業界に、凡そ資金は緣なき衆生。そこで低金利の普遍化といふ態

のいゝ名前で、資金運用悪化の窮狀を塗り潰さねばならなくなる。つまり高利の貸出が低利の貸出へと置き替へられてゆくのである。

ところが預ける方の側を見ると、利率の低い當座預金が減つて、利率の高い定期預金へとドン〳〵移行してゐる。しかも低率な當座預金の減退に拘らず、預金全體としての增加には狂ひがないほど、高率預金だけが拔け目なく殖えてゐるのだ。

この關係は、銀行にとつては、いはゞ原料高の製品安で、まことにもつて辛いところなのだが、さりとて商賣をやめるわけにはゆかず、しかもウツカリするとほかの銀行や信託に油揚をさらはれやうといふのだから、いよ〳〵助からぬ。

かうなると正に國債樣々の念佛ものだが、實はこれとて定期預金が三分七厘のコストでは、拜んだ掌から悔し涙が滴れまいものでもなく、それにコスト引下げといふ最後の切り札さへ、郵便貯金の睨みかへしに會つては、自信どころの話でないといふのだから、どう見ても文字通りの進退兩難、業績惡化は蓋しその謬らざる結論であらう。

だが、これは本來銀行のみが課せらるべき苦難ではないはずである。また低金利それ自體が惡いのでもない。歸するところ低金利の進行に圓滑性をもたせ得ない大藏並に日銀當局の指導方針の問題だといふべきであり、もとを質せば、腰骨のない財政策が祟つてゐるのだ。（一〇・一〇・八）

リラ低落の可然性

―相對的には圓貨の騰貴―

國際聯盟制裁統制委員會は十四日墺、匈兩國代表の留保のほか壓倒的大多數をもつて對伊金融斷交案を承認し、さらに引續き通商斷交案をも出來るだけ速かに成立せしむべく、今頻りにその工作を急いでゐる。

右通商斷交のため、たゞさへ窮屈な國際通商は、さらにそれだけ相通の範圍を狹窄される道理であるが、しかしそれは聯盟下にある各國についての話であつて、わが國の悉く與からざるところ、しかもわが國だけの立場からいへば、軍需品は、問題外としても、とに角イタリー品が大つぴらに世界市場に出廻らなくなるだけでも、戰爭の續く限り、競爭國としてのチヤンスは厭でも轉がり込むわけである。そしてそれが國內の軍需工業中心の活況と結び付くところに日本景氣の朗かな見通しがあつてよいのだ。だが、こゝに一つの油斷してならぬ事態がある。爲替問題の歸趨如何といふのがそれ。

たとひ伊エ戰爭は、東アフリカ以外に擴大されぬとしても、イタリーにとつてこの遠征が如何に財

政的に重荷であるかはすでに廣く知れわたつた事實であり、その上聯盟から凡ての融資、クレヂツト設定、公債應募、債務辨濟禁止の制裁を受けたとなると、時の經過は、たゞリラ貨慘落の段階を刻んでゐるにすぎざるを思はしめる。

或はイタリーの對エチオピア作戰が有利に展開し、エチオピアにおける相當の利權獲得には成功するかも知れぬが、それとて實は今後における軍備の擴充費と開發資金の激增とを約束するものであつて、そのためにリラ低落の可然性がその撚りを戻すだらうとは到底想像し得られぬ。かくして問題はそのリラの慘落が歐洲の爲替市場にどう響くかに移つて行く。

危機また危機、今や殘されたたゞ一つの痙攣に怯えながら辛うじてその崩壞を支へてゐるのが歐洲金本位ブロックの現在の姿である。『斷交』の二字に隱れて、彼等に果して來るべきリラの暴落を凌ぎ切るだけの力があるだらうか。私は、歐洲における貨幣價値の低落再現は今や必至の運命だと見る。すなはちこれをわが國の立場からいへば、リラの轉落に發した歐洲諸國における貨幣價値下落の全般化が相對的に圓貨を騰貴せしめることになり、多分に爲替安の波に乘つてゐたわが貿易情勢にどんな逆轉的作用が活らき出さぬとも限らないといふことになる。

無論爲替の再動搖が起つたからとて、何もそれだけが日本の景氣を引摺る動因ではあり得ない。私は、たゞそれだけを以て直ちに日本景氣を悲觀しやうとは思はぬ。しかし日本の財界が有頂天になれ

るやうなそんな好都合な環境ばかりが戰爭から生れて來るわけのものでないことも一應は心得ておくべきだらう。

それにしても、金本位の盟主フランスにとつては、それが自國經濟の死活の大問題であるだけに、わが國のやうな第三者的餘裕などはこの際到底見出せまいし、さりとてイタリー苛めが結局自ら墓穴を掘ることだと知つたら、迂濶に職盟の舟にも乘合せられぬ仕誼であらう。（一〇・一〇・一六）

貿易と二つの姿相

―大戰以來の劃期的記錄―

本年のわが對外貿易は最近ますゝ好調を辿り、內地關係だけについて見れば、『十月上旬累計において出超』といふ大戰以來十數年ぶりの劃期的記錄が、本年初頭においてなされた如何なる豫想をも一蹴するの勢ひを示してゐる。

本年初頭において、わが對外貿易豫想が一般に悲觀的であつたのは、主として邦品を目の敵にする各國の輸入禁止、制限が相踵ぎ、その重壓下にあつて、舊市場の維持並に新市場の開拓が懸念された

結果で、樂觀論者であつた私にしても『昨年並み』以上には、進んで手を振るだけの勇氣の持合せはなかつた。

しかし擧國的な工夫と努力とが遂にこの難關突破の成功を齎した。不斷の工夫と努力とがわが貿易の彈力性を護る限り、恐らくこの勢ひはなほ當分續くであらうが、とに角相手あつての貿易である以上、來るべき環境の變化に對し注意を怠るべきでないのはいふまでもない。

伊エ戰爭がどんな納まりになるかはもとより豫斷の限りでない。しかしたとひそれがどんな納まり方をしやうとも、この戰爭が吹込んだ帝國主義的な音階とそれが染め出した軍擴的な色彩とは、今後なほ一層强化され濃化されて歐洲各國の政策の上に踊り出して來るに相違なく、隨つて自給經濟、ブロック經濟の補强がいよ〳〵國際通商を歪曲し、畸形化するに至るだらうことが氣遣はれる。

尤もこの通商障碍は、その裏にはたらく軍擴インフレーションによる政府の購買力作出のために、國內景氣の消長とは必ずしも一致せぬかも知れぬが、貿易自體の立場からすれば、貿易が國民經濟の第一義的存在であるわが國に取つては、他のいづれの諸國よりも一層それに辛さを感ぜざるを得ないわけである。

しかしまた國によつては、その輸入制限も今や『强行』のその第一期を過ぎて、漸く互惠的、求償的協定への途が考へられるに至つてゐる向きもあり、決して貿易の前途が惡材料のみに圍繞されてゐるわけではなく、新工夫と新努力との存するところ、それに物をいはせ得る場面は、なほこれを見出すこと不可能ではあるまい。

殊にわが通商擁護法を報復的に發動せしめざるを得なかつたカナダの邦品虐待の如きも、同國今回の總選擧における保守黨現政府の全敗、自由黨の壓倒的勝利により、政變の有無に拘らず、現狀緩和に大に希望をもてるやうになつて來たし、そしてカナダにおける貿易緩和は、主義の放送だけで一向實效を擧げようとしないアメリカの貿易態度にも、相當有效な影響を與へるだらうとの期待ももてるやうである。

……だが、各國はまだ確かに迷つてゐる……。貿易で生きようといふわが國民の最も頭をはたらかさねばならぬ時なのだ。(一〇・一〇・一七)

生糸と米國景氣

—注目すべきゲー氏の警告—

去る四日九百圓臺を出現した清算生絲は、その後足踏みの一服狀態を示してゐたが、最近再び素晴

らしい急騰歩調に移り、いよ〳〵待望の千圓相場もその實現近きにあるを思はしめてゐる。

昨年來の生絲減産がこの好調の根本原因であることは、さきにも指摘しておいた通りであつて、相場の昂騰は一部支那絲の割込みを許すことになるだらうとはいへ、現に滯貨生絲拂下げ要望の聲が擧つてゐるのを見ても、需給の基調が依然相場の硬化を裏書きしてゐることはこれを察し得る。

尤も最近における相場の急奔騰は、本年の最高記錄を示現したニューヨーク株式の活況を反映した結果で、それにはアメリカの秋景氣を期待する意味が多分に盛られてゐる。もしこの見通しに狂ひがなければ、たとひ國内的條件は不變であつても、生絲相場の前途にはさらに一層の確信がもてるわけである。

今度のアメリカ景氣が從來のそれよりも遙に底力を湛へてゐるといふ觀察には、内外とも大して異論はないやうである。だからわが生絲としては、い〻汐先きにブツかつてゐるのだといふことになる。そして問題は、これからのアメリカ景氣の動き方にあるのだ。

最近のアメリカ景氣を打診すると、その足取りには多少の相違はあつても、とに角株價指數も物價指數もともに金本位停止後における最高峰を劃してをり、今のところ別に不安らしい不安は伴つてをらぬのであるが、ニューヨーク株式取引所の理事長ゲー氏が、これに對し『なほ警戒圏内にある‥‥』との意見を發表してゐるのは、時節柄注目されて然るべきを思ふものである。

ゲー氏のこの警告は、恐らくなほアメリカの經濟界に横はる生産機構の缺陷を氣にしてのことだらうと察せられるが、物價昂騰の反面を語る生産狀態の不良が、貿易逆調の根本原因だと見て來ると、今度の景氣の伸展可能性も相當割引さるべきであるかも知れない。

それにアメリカの財界は、今やこれまでのいろ〳〵のインフレ的刺戟を清算せねばならなくなつてゐる關係上、その結果、隨所に矛盾訂正の弱點を暴露し來るべきは明かな事實で、最近見られるところの景氣の大勢的上昇傾向が、果してこれをイグノアして素通り出來るかどうか、確かに問題ではあり得る。

とに角アメリカの財界にとつては、將來が餘りにも過去の延長でなさ過ぎるといふことを、景氣に飛付く前に、一應考へておく方が安全である。(一〇・一〇・一九)

經濟閉鎖の責任者

―國際繁榮に弓を引く米國―

日本との經濟關係調整のために、目下わが國へ來てゐる使節に、フイリツピンの全國商業會議所會

頭アギナルド氏があり、さきにレーサム外相と一しよに來たことのある濠洲のロイド商務官があり、さらにまた吳鼎昌氏を團長とする中華民國の實業團があるなど、日本との貿易關係は、行詰れば行詰るほどその重要性に對する認識が相手國においても增大するらしく、今やその難關切拔けの足掻きが隨所に展開されてゐる。

近く開かれようとしてゐる日埃會商にしても、來月開催の太平洋貿易會議に對するアメリカ商業會議所西部團體からの日本委員出席の招請にしても、各國が、その收穫はとに角として、たゞヂツとしてをられぬといふ氣持に支配されてゐることだけは窺ひ察するに難くあるまいと思ふ。それだけに私はアメリカの態度がなほ癪にさはる。

大戰を蹈み臺にして、一大債務國から一躍一大債權國になり濟ましたアメリカの謬つた關稅政策が全世界を死びと色の不景氣に萎びあがらせた主力原因であつたことは、今さら冗說を要せざるところであるが、この債權國としての立場を無視したアメリカの關稅政策の過誤については、アメリカの識者も夙にこれを認めてゐるのであつて、これが轉向に對する正しい叫びも幾度か彼等の口を衝いて出たのであつた。

そしてその最も代表的なものに國務長官ハル氏の意見がある。ハル氏は、去る十五日の國際政局討論大會の放送においても『戰爭によつて世界の經濟的疾患を救濟することは出來ない。國際平和と繁

榮とを確立するには國際貿易の力强い再建、通貨安定の漸進的恢復を實現し、合理的條件に基づき重要原料品を各國に配分することが必要である…』旨を堂々と喝破してゐる。

その言やまことによし。それには確かに不公平な經濟繩張りの下に虐げられながらも世界の平和を念願しつゝある各國民の胸底の琴線に觸れて高鳴るものがある。しかし實をいへば、それこそアメリカがまづ實踐せねばならぬところの自家訓にほかならぬのだ。私をして忌憚なく言はしむれば、堂々とこの正道を說くハル氏の明智は、その實それを實行に移さうとせぬ彼の出鱈目と無力とを却つて光らすに役立つてゐるだけのことである。

對米債務の商品支拂を拒絕して賠償金並に戰債の履行を不可能ならしめたのも、ロンドン會商における通貨協定を一蹴してイギリスに煮え湯を呑ませ、しかも世界一の金持の範を皮肉にも金本位を眞つ先きに離脫することによつて垂れたのも、また有り餘る資源の公平な配分に耳を掩ひながら、移民に閉め立てを喰はしてゐるのも皆アメリカではなかつたか。

ハル氏のいはゆる『國際平和と繁榮』にアメリカほど大きな弓を引いてゐる國は他にないのである。今さらの申譯や罪滅しでもあるまいが、アメリカ自身に過去を淸算する本心がなければ、ハル氏が、排斥する『戰爭』のみが、繰返し〳〵唆り立てられるのを如何ともすることが出來まい。今度の總選擧に大捷を博したカナダ自由黨の首領キング氏の貿易恢復聲明の方が遙かに實現性に富んでゐると考

へられるだけでも、アメリカの顔をもう一度見返へしたくなる。(10・10・10)

嵐を孕ましむるもの

―輸出と國民的膨脹の必然性―

方法論としては、いろ〳〵の非難もあるだらうが、伊エの開戰もこれを實質的に檢討すれば、矢張り新興國イタリーによつて點火された現狀打破運動の一つの爆發と見るべきであつて、イタリーの戰爭相手に擇ばれたエチオピアこそ、英佛をはじめ、所謂現狀維持國なるもの〻身代りに立たされてゐるやうなものである。

過去においてすでに十分なる植民地の獲得に成功した諸國はいづれも現狀至上主義者であり、新興勢力の來つてその繩張りを侵さゞらんことにのみ汲々たる有樣であるが、さればとて一方國内に盛り上る過剩人口と鬱勃たる國力との捌け口を見出し得ない所謂新興國の分け前要求を無碍に壓迫することの如何に危險であるかは、彼等といへども知らぬはずがなく、さればこそこれ等の新興國が相次いで現狀維持國の金城とたのむ國際聯盟から脱退しまたは脱退せんとしつ〻ある最近の事態に狼狽禁ず

る能はざるものがあるのである。

しかし何といつても勘定高で老獪な各國揃ひのこと、出來るだけは聯盟の障遮壁にかくれて、お互に自らの犧牲を回避しようとこれ努めてゐる。だが、實はそれが危險極まる綱渡りなのだ。かくして一觸即發の危機がさらに隨所に準備されて行くだけのことに過ぎぬからである。

いはゆる新興國の希望が達成されるまでに今後何年かゝるかそれは豫想出來ない。しかし今日すでに點火されてゐる新興國の現狀打破運動が日一日と熾烈の度を加へて行くだらうことは極めて容易に觀測出來る事柄であつて、ウイルソン前大統領の懷刀といはれるハウス大佐の植民地再分割を基調とする新國際平和論も、イギリス外相ホーア氏の資源分配調節論も、畢竟するに當然落ち來るべき雷を豫期しての避雷針にほかならぬのである。

これをわが新興日本について見よ、その人口膨脹に基くやむなき邦人の進出に對し、アメリカといはず、カナダといはず、濠洲といはず、いづれもその廣漠たる土地を閉鎖してわが移民の捌け口を遮蔽してしまつてゐるではないか。しかしそれでも日本はおとなしかつた。別に喧嘩もせず、しからばといふので、内に過大な人口を養べく産業立國の旗印のもとに、一意輸出貿易の伸展に精進したものである。しかるに何事ぞ、彼等は今やその商品輸出をも防遏して、遂にわが國民的膨脹の必然性を根本的に否定せんとしてゐるではないか。かくの如くにして、現狀打破以外に、日本が世界の新平和機

構の組成に參加すべき手段は何も殘されぬことになつてしまつた。

もとより現狀打破にも色々ある。日本の立場からいへば、苟くも今後におけるわが發展の根本基調を無視する不當無理解な白人種の思想なり政策なりに對しては、飽くまでこれを突破せねばならぬのであるが、現在各國のとりつゝある政策中、わが國が最も手近かにしかも平和的にその轉向を要求したいのは關稅の引下げである。少くとも對邦品差別關稅の如き不當の壓迫がなければ、わが國民は國際團體の一員として極めて平和にしかも優越的に生活して行くべき道を心得てゐる。

故らに嵐を孕ましむるものがあれば、それはわれ等の責任ではない。(一〇・一〇・二三)

方針なら方針らしく

―異常なる公債の累積膨脹―

明年度豫算に對する各省の要求を綜合すると、既定經費の削減は絕無の狀態にあり、隨つて基準豫算として計上さるべきもの十六億八千萬圓、『既定經費に思ひ切つた整理を加へる……』といふ大藏當局の豫算編成方針などは根こそぎ一蹴されてゐるほか、さらに新規經費の要求額が十一億二千萬圓と

いふ尨大な數字に上り、總額において彼れこれ二十八億圓を突破するものと見られてゐる。

これを大藏當局が揭げた『十一年度豫算總額は十年度豫算の程度すなはち二十二億千五百萬圓見當に喰止める』といふ豫算編成指針と對比して、まづその懸隔の餘りに大きなのに驚かされる次第であるが、しかも大藏事務當局の査定などは各省の强硬な態度の前に殆ど何等の權威もなく、豫算編成方針の如きは今や全く一片のデツド・レターたらんとしてゐる。高橋藏相が二十二日の閣議において、改めて明年度豫算の編成につき各省の反省と協力とを要請したといふのは、恐らく豫算編成工作途上における財務當局の僞らざる悲鳴だつたに相違ない。

なほ高橋藏相は、閣議の席上、わが財政を健全化し、これに恒久的安定性を與へるには、赤字公債の漸減方針を貫徹せねばならず、そのため明年度は歲入の自然增收約七千萬圓を目安として赤字公債の發行を縮小し約七億圓見當に止めたい旨を述べてゐるが、それがためには少くとも各省の新規要求を半額以下の五億圓以內に切落さねばならぬ勘定であり、國防費の全計畫を優先的に承認する建前において、果してその實現が可能視さるべきやに大疑問がある。現下の形勢では、赤字公債の發行限度が七億圓以內であらうなどとは遽かに信ぜられざる假定中の假定にすぎない。

靑木理財局長は、東京手形交換所財政研究會の會合において、健全財政と赤字公債とは必ずしも矛盾するものでないことを說いてゐる。或は然らん、しかしそれも程度の問題である。赤字公債が一般

財界に滯りなく消化され、日銀の通貨政策にもその機能に故障がなく、惡性インフレーションの懸念もない限度においてならば、單に赤字公債なるのゆゑを以て一概にこれを排斥し去るには當らぬことであるけれども、一方公債の漸減といふことは、いつ如何なる內閣のもとにおいても當然採らるべき常道であるに拘らず、これに向つて特に主義だの政策だのといはねばならなくなつたといふ事實に徵しても、過去數年間における公債の異常なる累積膨脹がすでに問題視さるべき限度に迫つてゐることを知るべきであり、こゝに新たなる視角をもつてする公債漸減方針の再檢討が要求されて來てゐるのである。

過去數年間の豫算編成の跡を顧れば、それは赤字公債增發の可否善惡論の上に立つての話ではなく全くそれを超越した『足らぬから足らぬだけは……』といふたゞ單に方便の問題にすぎなかつたことを知るだらう。そしてたゞ後から氣休めの理窟を付けてゐるまでのことなのだ。

『方針』なら『方針』らしいものを、今度こそは見せて貰ひたいのである。(一〇・一〇・二四)

支那よ公正なれ

—『經濟提携』は唱歌に非ず—

外務省の來栖通商局長が、二十四日大阪經濟會の午餐會席上で、わが國の對外貿易事情に關する一場の講演をやつたが、その末段において、同局長は對支貿易の重要性とその將來性とに言及し、特に大阪財界人の注意と努力とに待つ所多きを縷說した。

來栖氏は、ある支那要人の日支親善、經濟提携論に答へて、たゞ單にそれを唱へるだけでは、それは恰も宴會場でミュージックを聽くやうなもの、われ〳〵の前にはまだオードヴルもスープも運ばれてゐないといつたと語つてゐたが、全くその通りである。『經濟提携』が唱歌にあらずして、商賣であるゆゑんが彼等によつてサツパリ示されてゐないのだ。

一時三億圓以上に上つた對支貿易額が最近漸く一億圓を算するにすぎないのは何のためであるか。要するに彼等支那國民の間に拔け切らぬ排日の思想があり、それが關稅の上にも差別的に現はれてゐる始末だからである。日支親善すべく提携すべくんば、まづこの足場を整へ來ることが絕對條件であり、先決問題である。就中一番いけないことは、支那が表面如何にも公正を裝ひながら、その實、邦品に對し關稅による極めて不公正なる排日工作を行つてゐるといふ事實である。

すなはち支那の現行關稅率なるものは、同國が多年採用し來つた從價關稅を一擧に從量關稅に改訂したもので、そのカラクリにおいて、たとひ表面は同率であつても、低價な日本品と高價な歐米品との間に、實質的には著るしき差別待遇を設けてゐるのみならず、國民政府は、さらに主として日本の

みから輸入せられる品種に對しては、他の品種に對するよりも遙かに高率の從量税を設定してゐるのである。

しかもその差別の如何に沒義道にして非友誼的なものであるかは、現行關税率を從價税に換算して見れば一目瞭然たるものがある。日本商工會議所の調査によれば、從價税に換算の結果は、毛織物＝歐米品二割二分、日本品八割八分、マカロニー＝イタリー品三割五分、日本製干うどん十七割乃至二十二割、蜜柑＝アメリカオレンヂ一割、日本蜜柑十二割といふまるで桁違ひの差別待遇であり、また日本の特殊品にあつては、酒三十三割、貝柱およびするめ十三割、干鱈十四割となつてゐる。

これでは眞面目に商賣など出來ぬのが本當である。國民政府としては、日支經濟提携のお題目を唱へる前に、まづこの高率な關税を潛るべく如何に多くの密輸入が支那人の手によつてなされつゝあるかを省みるがよい。高い關税が豐かな財政收入を結果してゐないことは、支那にとつて果して慶ぶべき事象であらうか。

先日來た支那實業視察團の吳團長に、支那はなぜ手近にある安い品物を買うとはせぬのか、それを買ふことが財政的にも經濟的にも支那を幸福にする所以ではないかと質問したら、その原因の一つは認識不足であり、その二は一部國民の思想的背景に基くものだと應へた。日本の工業に對する認識不足はこちらから訓へることも出來やうが、排日思想をやめるかやめぬかは專ら支那自身の問題である。

日支の親善も提携も支那にその反省が出來た上での話である。私には、求めて損をしてゐる支那國民の氣が知れぬ。（一〇・一〇・二五）

カナダ新内閣の使命

―專斷的關税清算の聲明―

カナダ政府は、一九三二年五月金の輸出禁止を實施すると同時に、國内の產業保護を名として輸入税法を改正重課するに至つたが、さらにわが國に對しては、カナダ・ドル相場自體の低落に拘らず、圓貨の法定平價たる四九ドル八五セントを基準とし、これと現在の爲替相場（すなはち二九ドル前後）との差額に對してダンピング税を普通輸入税以外に徵收するほか、勝手に商品公定相場を定めて輸入品に對しその差額に課税し、剩へ商品價格の三割を包裝費と認定してその一割を包裝費税として、また公定相場の六分を販賣税として、更に公定相場の三分を消費税として重複課税してゐるのである。

殊にオツタワ協定の成立後においては、英帝國諸國の商品が一般税率よりも遙かに低率の特惠關税を課せられることになつたので、その關係に於てもわが商品は相對的に非常に不利な立場におかれ、

かくしてわが對カナダ輸出は逐年萎縮の一路を辿るのほかなかつたのである。然るに一方わが國のカナダ特產物に對する需要は年々增大の趨勢にあり、最近においては、輸入六、輸出一といふ大逆調の片貿易に陷るところまで押進んで來てゐる。

しかしベネツト政府は、わが國からの當然の抗議や緩和懇請にも一向その耳をかさうとはしなかつた。そこでわが國においても、やむなく報復的に通商擁護法を發動せしむるに至つたのであるが、もと〳〵わが國は英、米、蘭につぐカナダの大得意であるだけに、日本からの注文杜絕は、カナダの木材業者、製紙業者、パルプ業者、小麥業者、鉛業者等にとつて大脅威であること說明するまでもなく、國內產業保護の看板にも拘らず、ベネツト內閣が遂に國民の支持を失ふことにもなつたのである。すなはち去る十四日の總選擧において、カナダの保守黨現內閣が敗退し、いよ〳〵キング氏を首班とする自由黨內閣が國民の輿望を負うて出現することになつたことが、この間の消息を遺憾なく物語つてゐる。

キング氏は、この總選擧に壓倒的勝利を占めたその翌十五日の聲明において、對日通商政策は互惠主義をもつてその基調とすべく、過度の關稅および專斷的稅制の決して國利を伸暢し民福を增進するゆゑんにあらざることを高調し、かくて過去五年にわたるベネツト保守黨內閣の獨斷的關稅政策を淸算調整すべき基礎を明かにしてゐるが、それはわが國のもとより希望するところであり、通商擁護法

の發動停止の如きは勿論のこと、次第によつては、カナダの特產品に對し、さらに關稅上の考慮を加へることも考へられよう。

とに角、わが國としては、カナダからの輸入品は多少の犧牲を忍びさへすれば、他にその代替物を求め得る種類のもので、いはゞ賣らんがために買つてゐるのだといつてもよい。少くとも前に述べたやうな現在の不當にして苛酷極まる對日通商政策の前に、日本の膝を屈せしめようなどといふことが大變な間違ひなのである。

私は、キング氏を首班とする自由黨新內閣が、速かに現行制度に適正なる檢討を加へ、もつて親善友好關係に卽した通商を促進し、貿易行詰り打開の範を各國に示すに至らんことを望んでやまぬ。

（一〇・一〇・二五）

社會事業と其指標

—救濟よりも事前の防止—

二十三日から二十六日まで、東京に、國民生活安定への道を協議研究すべく、全國社會事業家の大

會が開かれ、畏くも高松總裁宮殿下の御熱心なる御力添へを賜つたが、私はこの機に際し、この獻身的事業に從事してゐる諸氏に深甚の敬意を致すと同時に、この事業の今後における多望の收獲に衷心からの祈念を捧げるものである。

現に二百萬を超ゆるいはゆるカード階級の人々を擁し、働きたくとも職を得ずして生活苦に喘ぐもの、病苦のために救護を必要とするものが隨所に發見されるといふのは、光輝ある新興日本の裏面における一つの暗影として、如何にも嘆かはしいことである。

政府においても、救護法の制定をはじめもろ〳〵の社會施設對策に乘り出してはゐるが、何分にもそれに十分の國費を割くことが出來ぬために實效を擧ぐるに難く、地方團體もまたその財政の疲弊に祟られて殆ど雛形以上の何ものをも準備しかねるといふのが今日の實情である。かくしてこの重大な社會事業が殆ど篤志家の寄附に委せられざるを得なくなつてゐるのだ。

富豪の財產を社會的に有意義に利用せしめるといふのは最も必要なことである。わが國においても最近財產家のこの種社會事業に乘り出すもの〻增加しつ〻あるのはまことに慶すべき現象であるが、何といつてもアメリカあたりに較べると、富豪の數においても財產額においても桁違ひの差異があるので、その事業の規模においても自ら同日に談じ得ざるものがある。

隨つてそれだけわが國に於ては、いはゆる富豪階級の一層の奮發を望まねばならぬわけであるが、

それと同時に、國家としては、これらの篤志家に酬ゆるに遺漏なき用意が必要であり、殊に無給若くは殆どそれに近い給料で働いてゐる各種社會事業從業員の待遇問題に考慮を施すことが、將來ます〳〵その重要性を加へ來るべきこの事業に有爲の人物を吸收する重要基礎工事であることをも察せねばなるまい。

さらになほこの問題に關聯して一言しておきたいのは、失業者に對する救濟資金制並に保險性の必要は今さら縷說を要せぬところであるけれども、過日も指摘したやうに、これらの制度にのみこだはつてゐると、却つて國民精神を弛緩墮落せしめるやうな危險をも伴つて來るといふ虞れがある。要は事後の救濟よりも事前の防止にある。私は、世の社會事業家の指標が今一層その方向に向けられて然るべきを思ふものである。

困つてゐるものに職を與へたい。だから職業紹介方法にも授產ならびに職業補導方法にもなほ一段の改善工夫が必要であるのだ。しかし實は紹介機關が如何に完備しても、肝腎の與へるべき職業そのものがなくては何の役にも立たぬことである。國家も社會事業家も、事後策と同時に、職業を殖やすといふ積極策に今一歩踏み出すことを忘れてはなるまい。(一〇・一〇・二七)

教員俸給の不拂增加

―臨時救濟で滿足出來るか―

市町村の經費は、その財政の不如意に拘らず、逐年膨脹また膨脹、そのため承知しながらも起債の無理を重ねざるを得ない狀態に陷つてゐるが、しかもこれらの地方債の多くは、生產投資とはおよそ緣の遠い災害復舊事業などに消費されてしまふので、回收償還の不能に陷るもの比々みなこれ、かくして財政の窮乏は歲とともにます〳〵深刻に堀下げられて行く。

殊に近年各地方に頻發する災害は、市町村にとり、一面それ自體が復舊費の捻出を必要とする當面の大問題であるに止まらず、他面それに原因する減免稅或は餘儀なき稅金滯納などのため、收入上の大缺陷に泣かねばならず、どの道このまゝでは地方財政の破綻は避け難き運命だといふのほかない。地方財政調整交付金制度設定の議が內閣審議會の答申案に現はれ來つたのも、いはゞその根本的對策の一端にやつと觸れ來つたといふまでのことである。

市町村の經費中一番目の上にあがるのは何といつても教育費である。現に國庫は、數次の增額によ

り、市町村義務教育費補助のために八千五百萬圓の支出を負擔してゐるけれども、最近文部省の調査したところによると、本年六月末における全國の教員俸給未拂狀況は、七百九十二ケ町村、九十六萬八千六百六十八圓三十錢で、昨年同期よりもさらに二百十三ケ町村、三十三萬三千十九圓六十錢增といふ情けない數字を示してゐる。

小學校の教員にしても、霞を喰つて生きてゐられるわけのものではなく、しかも彼等には彼等が養はねばならぬところの家族がある。全國の八百に近き町村が教員俸給未拂の狀態にあるといふが如きは、全く國家の由々しき大問題だといはねばなるまい。國民教育の第一線に立つ教員に給料も拂はないで、教育の效果を云々するなどは餘りにも烏滸がましい。

文部省もこれには餘程參つたらしく、小學教育改善の先行條件として教員俸給の未拂を防止根絕すべく、來年度豫算に小學校教育費臨時國庫補助千二百萬圓を計上してゐるが、內閣審査會案によるとこれは前記地方財政調整交付金二千萬圓中に包含されることになる。

だが、小學校教育臨時補助法によるものは、兒童數、教員數など特殊の目標によつて配分交付される仕組みになつてゐるに反し、審議會の調整交付金は專ら市町村稅の負擔輕減をその直接目的とし、その配分もまた單に人口によつて決定されることになつてゐるが故に、右臨時補助法の主旨がどの程度に調整交付金制度中に織込まれるかにこの問題の全部がかゝつてゐるといつてよい。

それにしても心細いのは、市町村の財政窮乏が一年で立直るわけのものでなく、災害にしても今後にその絶無を期し得ないとしたら、『臨時』などと銘打つて僅かな補助金で、よくその目的が達成されるだらうかといふことだ。趣旨は結構だが燒石に水でなければ幸ひである。(一〇・一〇・三〇)

國幣を圓にリンク

―今後の信用樹立が肝要―

滿洲國の幣制を金本位にするか銀本位にするかは、その建國當時頗る熱心に論議された重要問題の一つであつた。日滿經濟ブロック達成の建前からすれば、多少の危險を冒しても一氣に金本位に則りまづもつて日滿通貨の完全なる連繫を企圖すべきだとの論も成り立つわけであるが、何分にもその當時は舊軍閥政權時代の極度に紊亂した幣制を繼承した直後のことではあり、殊に國民生活の程度からいつても、彼等が久しきに亘つて親しみ馴れた銀の觀念を急激に彼等から取上げることの不安動搖をも考へてやらねばならず、少くとも通貨統一成るの日まではといふので、一まづ銀本位に落つくことになつたのは大體妥當の措置であつたといつてよい。

しかし滿洲國の貨幣法は、銀本位であると同時に、他日金本位への移行をも可能ならしめるやう餘地を存して仕組まれてあり、決して日本との關係において圓貨にリンクすることの理想を捨てゝはをらぬのである。

幸ひにも滿洲國の通貨政策は、その後極めて順調に推移し、さしも紊亂を極めた通貨に大體統一體系を與ふるところまで進んで來たのは、まづ建國第一期における成功と認めて然るべきものである。

滿洲國の通貨統一、そして次に來るものが日滿爲替の安定策であるべきは、思ふに當然の成り行きである。蓋し日滿經濟ブロック强化の前提條件としても、また今後滿洲における產業開發に資金を吸收する上からいつても、一にこの基本的條件の解決をそのターニング・ポイントとするからである。

滿洲國の當局は、漸次その通貨政策をこの基準に導かんとする意圖のもとに、かなり以前からその準備を續けつゝあつたのであるが、たま〳〵アメリカの銀政策の煽りを受けて銀塊相場の動搖著しく一方國幣圓統一が實現した今日、銀を基準として上海爲替相場に操られることは、必要に迫られてゐる資金吸收上滿洲國の甚だ苦痛とするところであり、旁々この際國幣を日本の金圓にリンクする方針に改め、最近においては、その安定工作がとに角パーを維持するだけの成功を示すに至つてゐるのである。

しかし何といつても永い間銀に馴れた滿洲國民であるだけに、いよ〳〵その國幣を日本圓にリンク

せしむるについては、またそれ相當にその方面の對策を忘れてならぬのは勿論、爲替安定維持の方針にも萬遺漏なきを期せねどならぬわけである。

最近日滿兩國當局間に右方針樹立に關する圓滿な結論を得たとのことであるが、要するに滿洲に安定維持の實力がない場合には日本が援助してやるといふことであるに相違なく、建國途上物要り勝ちな滿洲國の入超增に對し日本からの資金流入を待つといふことなのだ。

だが、問題は結局滿洲國が產業の開發に成功し、他面金融機關を設備して、國力の充實による信用を打ち樹てるといふことでなければならぬ。同國當局者の一層の奮勵努力を望む。(一〇・二・一)

豫算基調の再吟味

―經費の恒久化とその財源―

昭和七年度の豫算が滿洲事變を契機としていはゆる非常時的大膨脹を來したことは、わが基本國策を遂行する上に蓋しやむなき成り行きであつたが、それは當時の荒木陸相が『この滿洲事變を對象とする財政膨脹は、精々兩三年後には解消する……』と言明したことでも解かるやうに、その意味での

非常時財政としての特色をハツキリもつてゐたのである。

ところがその後この荒木陸相の豫言は完全に裏切られ、今日では逐年增加するばかりのこの經費の平常化などは一寸考へられなくなつて來た。それどころか、最近には更に北支事件の雲行き甚だ險惡なるあり、この方面だけでも、その物要りは最早や復原どころの騷ぎでないといふのが一般の常識となつてゐる。

また海軍の方面について見ても、今日の軍縮會議なるものは、その實各國の『軍擴辯護會議』の異名たるにすぎず、イギリス首相、アメリカ大統領らの口占に照らしても、大勢は明かに軍縮とは正反對の方向に驀進を續けてゐる。

すなはちわが財政は、農村匡救をはじめ國內に於ける緊急諸對策に要する巨額の經費を離れて考へて見ても、基準豫算十六億八千萬圓などといふ時代はすでに恒久的に去つてしまつてゐるので、强ひてそれにこだはり、解消復原の望みのない經費に對し何時までも非常時顏をしてゐるがゆゑに、豫算の四割にも達する額を不合理極まる赤字公債で賄はざるを得なくなつてゐるのだ。換言すれば、すでに非常時的特色を失ひ殆ど恒久化してゐる經費に對する赤字公債增發を、たゞ『非常時』の名において自ら慰め許さうと藻掻いてゐるだけの話である。

來年度豫算に對する各省の新規要求額十一億二千萬圓、その全部を削除して見たところで、自然增

收だけを頼りに借金なしの豫算は組める譯合ひのものでない。自然增收に加ふるに特別會計からの遣り繰り算段を以てしてもやつと一億圓を蹴出せるかどうかである。そんなことで前年度公債七億七千萬圓に、大藏當局聲明するところの『漸減方針』がどれだけの望みをかけ得ようといふのだ。十一億二千萬圓の要求に對し六億五千萬圓以上削らなければ、赤字公債は減るどころか、逆に前年度よりも殖えるほかはない。

國運の進展とともに費用の膨脹は避け難い運命と見られる。だから少くとも復原性のなくなつた經費に對しては、いゝ加減にその恒久性を認めて豫算の平常化を計る必要がある。そこで恒久財源としての增稅が當然問題になつて來るのだ。そしてそれによつて赤字公債の漸減も可能にならうといふものである。抑へることの出來ない經費を前において、たゞ徒らに赤字公債の漸減を唱へて見たところで結局何の意味をもなさぬことである。

高橋藏相はじめ財務當局は、口癖のやうに今日は增稅の時期でないといふけれど、そのいひなりに內外の政治經濟情勢がスツカリ平常化するのを見屆けてゐた日には、稅制整理の時期などは未來永劫廻つて來るはずがなく、たゞ赤字公債の增發が非常時財政の名に於いて、ズル〳〵と續くだけの話である。

財務當局者は、事實がすでに明かに非常時財政の再認識を要求してゐるといふことを今日になつて

もまだ信じ得ないのだらうか。（一〇・二一・六）

歸農運動と生活慾

―フランスの歸農資金法案―

わが國の人口は年々八、九十萬づゝも增加してゐるといはれるが、その實、農村における人口は殆ど不動の狀態にあり、右の增加は獨り都會地における特殊の現象として意識され、しかも各國の御多分に漏れず、小都市よりも中都市において、さらに中都市よりも大都市において、人口增加の趨勢が一層顯著に現はれてゐることを發見する。

しかしこの事實は決して農村における人口自然增加の停止を意味するものではない。否農村における自然增加は都會地殊に大都市に比較すればむしろ遙かに大である。すなはち都市における人口增加なるものは要するに離村農民が外來的人口として直接、間接に都市に流入することの結果にほかならぬのである。

資本主義經濟のもとにおいて、農村人口が漸減的傾向を示しつゝあるのは、殆ど各國共通の現象だ

といつてよい。しかし純粋な産業的立場を離れて考へて見ても、少くともわが日本民族としては、或は民族團結のために、或は國民の堅實なる氣風維持のために、或はまた國防上の必要のために、特定の割合において農村人口が常に維持されることが極めて望ましいのであつて、そのために都市における失業者を如何にして農村に吸收するかが重要政策の一つとして考へられざるを得ないのである。

最近フランスの勞働相フロツサール氏は、産業豫備軍の重壓緩和のために、失業者の歸農を奬勵すべく自らその運動の陣頭に立つと同時に、一方議會に提出すべき『歸農資金法案』の立案を急いでゐるとのことであるが、同法案の主旨とするところは、勞働力の都市集中を阻止し、彼等をして再び土に歸ることを可能ならしむるため、歸還期間に要する彼等並にその家族の食費を負擔し、運賃を無料とするほか、三ケ月分を超えざる範圍において新生活開始に要する資金を失業救濟資金中から支出しようといふのであり、人口三千以下の農村に親戚あり家あるものは絶對に歸農せねばならぬとされてゐる。

私は、わが國においても、何かこの種の社會的立法が要求されてゐるのではないかと思ふが、それはとに角、本當に考へなければならぬのは、彼等を歸農せしめさへすれば、それでもはやあとに問題は殘らないのかといふ點である。それには彼等をして歸村せしめると同時に、少くとも彼等を離村せしめたその原因に遡つてこれを閉塞するの用意を伴はねばならぬはずである。

農民の離村が、主として（一）農業勞働者の收得には、一年を通じてその分配に著しき不均衡があり、しかもその賃銀が他種勞働者よりも低率であること（二）農村生活が餘りにも單調であつて、農村青年の社會的、文化的生活慾を充すべくもないこと（三）彼等が現在の封建的、家長權的關係に慊焉たらざるものゝあること（四）經濟的、社會的向上の機會に惠まれざることなどのために起るのだとしたら、それを如何にして償ふかといふことがまづその先決問題でなければなるまい。

農民を蹈み臺にして今日の大發展を遂げたわが國ではないか。農民にして見れば、國威が揚がれば揚がるほど、その酬いられることの薄きを嘆ずるに相違ないのだ。（一〇・二・七）

米國銀政策の亡靈

—支那新幣制の悲喜劇—

國民政府は幣制變革の實施に伴ひ、各銀行、錢莊手持銀の封印を行ひ、極力現銀の集中および法定紙幣流通の徹底に腐心してゐるが、何分にも支那人間に現銀の密賣買が頻りに行はれ、銀紙の打歩が早くも公然の秘密として認められてゐる始末なので、ロンドン市場に比し四割方も有利な相場を見せ

てゐる上海現銀は、勢ひ密輸と退藏とに向つて、利に敏い支那人にその算盤を彈かしめてゐる。

なるほど段取りとしては、二年後には中央銀行に兌換券の發行權を獨占せしめることになつてゐるので、或は將來支那が銀貨本位に復歸すべき機會の到來を信ずるものもあるかも知れぬが、露骨にこれを評すれば、たとひその機會の到來に希望はかけられてゐるとしても、支那の今日の財政窮狀を以てして、一旦スタートを切つたこの不換紙幣を增發の運命に導くことなしに、果してその時期まで完全にこれを管理し續け得るだらうかに大疑問がある。

私には遺憾ながら今日の支那にそれだけの財政能力があらうとは信ぜられぬのみか、さらにその通貨價値のパウンドへのリンクを敢てした點から見ても、今度の新政策は、むしろ銀本位を捨てるといふ意味において、その兌換停止に一役受持たせたのだと解釋するのが本當であるやうだ。そしてそれにはアメリカの銀價吊上げ政策が大きな因緣をもつてゐることを見逃せない。

アメリカが、國際經濟の大動搖をも顧みず、銀の國有令を發して銀の大量買上策を斷行するに至つたのは、專ら銀價の値上りを狙つた同國內における所謂銀ブロックの强要によつたものであるが、銀の買上げによる銀價の昂騰は、銀貨國たる支那の購買力を增進せしめ、行詰つたアメリカの貿易に活路を開かしめるといふことが、その理由として擧げられてゐた。

しかしその結果は、當時すでに指摘しておいた通り、たゞ支那から巨額の銀をアメリカに流出せしめるに役立つたゞけのことであつた。そして遂には銀の輸出に課稅までしたけれとも、矢張りその大勢はこれを阻止すべくもなかつたのである。すなはち支那の採つた今度の通貨政策は、要するにこの窮狀に對する背に腹は代へられぬ捨て鉢的な考への結晶と見るべきもの。アメリカにして見れば、飛んだ悲喜劇の筋書きを書きおろしたものである。

ワシントン・ポスト紙は五日のその社說で『上院の銀派議員は、支那の購買力を增大させると主張して銀價の昂騰を策したが、それが如何なる結果を招來したかを眺めて、その重大失敗に赤面するだけの眞面目さをもつて欲しい』と銀ブロック一派に痛棒を喰はしてゐる。(10・二・八)

減產指導と自力更生

—新規用途開拓の重要性—

農林省では、十一、十二の兩日、全國各府縣の蠶絲課長その他關係職員を招集して來年度の產繭處理並に養蠶經營に對する指導會を開催したが、その要點は專ら增產の手控へおよび桑園整理の徹底といふことにあつたといはれる。

アメリカの恐慌による消費の減退と人絹の異常なる發達とに押され、近年甚だしき悲境に沈淪しつゝあつた養蠶經營が、本年に入つてその頽勢を盛り返し黒字に轉向するに至つたのは、主として減産に基く需給關係の好轉をその基調とするものである以上、もし繭價高に刺戟されて再び增産を招來するにおいては忽ち黒字の基礎に動搖を來すべきこと火を見るよりも瞭かである。

隨つて農林省が、蠶繭の根本對策として增産回避を指導しつゝあるのはまことに尤もな話で、その點全く異議の存せざるところである。しかし減産指導のし放しで能事畢れりとなすならば、私はそれに與しない。當局は一方において頻りに農村の自力更生を說いてゐる。しかし農家が自力更生をしようといふ場合、實際問題として、增産計畫以外にどこに取りつく島があらうといふのだ。增産こそは農家の僞らざる心理である。彼等はそのためにならば何時でも喜んでその技術に動員して自らの能力を試みるであらう。たとひ減産の適時性はこれを承知しながらも、それに徹することの難きゆゑんである。

價格が同一だとすれば、增産は確かに收入增加を意味する。農家の大多數はその假定において增産の結果を夢見たがる傾向があると非難する向きもあるが、實はそれが專業である限り、價格が安ければ安いほど、豫定收入にありつくため增産の必要があるのであり、それがまた第二、第三の增産を餘儀なくせしむる價格下落を煽ることになる。しかし農家が自分自身のことを考へ自分の村だけのことを考へるとしたら、その結果はどうしてもさうならざるを得ないのである。

だから詮ずるところ增産も減産も確固たる國策のもとに全國的にこれを統制規律せざる限り、有效にして公平なる結果は得らるべくもなく、事實問題として、繭價調節のための減産指導と自力更生のための增産指導との喰違ひから果してどんな畸形兒が生れるか、寧ろ滑稽にさへ思はれる。

私は、徹底的な減産などは出來るものでないと信じてゐる。それがまた國家のため農家のため終局の勝利であるや否やも問題である。だから減産指導も結構だが、同時に生絲の新用途開拓指導の重要性を忘れぬやうにと注文する。フランスのシヤルドンネが創めて人絹を作り出してから、人絹が相次ぐ新用途の開拓によつて最初に受けた輕蔑を一掃するに至つたことを考へたならば、生絲とてもその彈力性、防水性、保溫性、耐久性等の特質分化により、なほさらに開かるべき新用途の分野に事を缺くまいと思ふが如何。（一〇・一一・二）

解散と財界人の興味

—景氣の基調には變化なし—

來議會が解散になるともならぬとも、そこが水ものゝ政治のわからぬところだが、どうせ解散と見

極めをつけて豫算の編成にサツパリ氣乘りのしてない閣僚があつたり、提出法案の前途多難を見越し自分の立場をよくするために心祕かに解散を希望してゐる閣僚があつたり、內閣の空氣は今のところまづ解散八分といふところらしい。

兒玉拓相は『解散の名目は何とでもつけられる』といつてゐるが、實をいへばそんな勝手な名目で議會を解散し、それで選擧をやらせるなどゝいふことが國民を愚にするものでなくて何だらう。絕對多數を擁する野黨を向ふへ廻して政策が行へぬといふのなら、立派に解散の名目が立つ。しかしかくして國民の信任を問ふた結果、野黨が再び多數を占めた場合には內閣がやめなければならぬのは當然の話である。ところが今の政情では果して多數黨に政權が廻はるかどうか怪しいものだ。としたら、どんな內閣が出來ようとも、多數黨に渡りをつけぬことには政策は矢張り行へない道理である。

政權と多數黨とを別々に考へねばならぬところに現下の憲政線上まさに異狀ありだが、國民にして見れば折角投票して多數黨を作りあげても、それが政權と緣のなき存在では何のために選擧したのか一向解らぬことになる。如何に選擧手段を肅正してもそれでは選擧の目的は達せられぬ。

私にいはせれば、內閣が多數黨をその與黨とし得なかつた瞬間に解散の理由は完備してゐたのだ。それだのに前議會では野黨が多數を擁しながら解散回避の建前で內閣に厭がらせをやつたに過ぎなかつた。尤も現在のまゝでは野黨の挑戰といふことからが意味をなさない。內閣を倒して自分の政策を

行はうといふのではないからである。その自信がなくて何の挑戰ぞやといひたい。解散はなくとも來年はどの道總選擧をやらねばならぬのだが、とに角國民は大いに考へさせられるわけである。

無論解散になれば豫算は不成立、そして前年度豫算蹈襲といふことになるので、財界としてはその邊の呼吸も一應心得ておくべしであるが、大觀すれば、どちらにしても今日の景氣の基調をなしてゐる赤字財政中心のインフレーションの發展性に別に變化を見せるわけではないので、そのコントロールに破綻を來さぬ限り、今日株高、物價高が指示してゐる上昇景氣の根據には當分狂ひは來たすまいと思はれる。

私は、今度の選擧には財界人が屹度冷淡であらうことを想像すると同時に、慾ひに景氣らしいものにブツかつてゐることを、却てわが憲政の發達のために憾みたいくらゐのものである。解散の取沙汰を耳にしながら一般國民が一向緊張せぬのも強ち肅正の祟りとばかりはいへまい。(一〇・二・二六)

一歩は一歩づゝ

—フラン貨を繞る財政不安—

フラン貨の危機切拔けのための財政全權を政府に賦與して、六月から三ケ月間の休會に入つたまゝ

その後開會が延び〳〵になつてゐたフランス議會が、いよ〳〵この二十八日に再會することゝなつたが、この休會明けを眺めてフランスの金本位制崩潰氣構へが再び濃厚化するに至つたことは、たとひそれが今に始まつた問題ではないにしても、さらに一應の勘考には値する。

フランスが何ゆゑに世界の大勢に背を向けて、今日まで金本位制の殘壘を死守し來つたかは、大戰後における惡性インフレーションの慘禍が、如何にまだ生々しくフランス國民の腦裡に烙きつけられてゐるかといふ事實を知るほどのものには容易に首肯ける事柄であり、またラヴァル內閣が財政全權に基き、六月この方五百に餘る緊急令の陣を布いて死もの狂ひの防戰をやつた態度も諒解出來るが、如何にそれが强烈なフランス國民の要望であり信念であるにせよ、もと〳〵金があつての金本位制であり、その金が賴めなくなつてはまた如何ともすべからざる筋合の事柄であることも解かり切つた話である。

フランスが本月に入つてから二週間の間に喪つた金だけでも十六億フラン以上に上るといはれ、フランス銀行の金準備は過去四年間における最低額を示すに至つてゐるが、フランスからの金の流出は最近における矢繼ぎ早やの金利引上げおよび爲替平衡資金の出動に拘らず、依然としてその傾向を更めず、フラン貨の轉落防止はます〳〵その困難の度を高めつゝある。

これには勿論最近に於ける議會の形勢急變のために政府の出した五百に餘る前記緊急令に對する議

會の事後承諾が怪しくなるし、來年度豫算にも成算が立たなくなるなど、ラヴァル內閣の危機が傳へられるに至つたことがその直接原因をなしてゐる。しかしまたそれと共に少くとも現狀のまゝでは財界の惡化を救濟することが出來ず、しかもその苦境が世界的景氣恢復の云々されてゐる折柄、對蹠的にます〳〵擴大視されるに至つたことをも見逃してはなるまい。とに角かゝる情勢のもとにおいて、フランスからの金の流出がどんな成り行きを示すことになるか、それが問題なのである。

尤もラヴァル內閣倒壞後における新內閣組織の困難であることが、ラヴァル內閣の强味だとも見られてゐるが、また他面から見れば、それだけにたとひ一時を糊塗し得ても危機は依然として解消されぬ道理であり、かゝる事態が繰返されてゐる間には、厭でも金本位の本丸明け渡しを餘儀なくされる時機に追込まれるに相違ないとも考へられる。

好むと好まざるとは別として、フラン貨の切下げによつて世界の大勢に合流せぬ限り、今日の場合フランスに經濟不況對策のあるはずがない。私は、フランスが今日まで危機から危機へと泳ぎながらこの苦境に喘ぎつゝ、なほ金本位制にしがみついて來たことを寧ろ驚嘆する。しかし一歩は一歩づゝそれが斷末魔への引導であつたことに變りはなかつたし、また變りはないのである。(一〇・一一・二七)

我人口一億に迫る

―平和的進出拒絶の危險―

去る十月一日、全國一齊に行はれた國勢調査の結果によると、帝國全版圖の人口總數は九千七百六十九萬四千六百二十八人、もしそれこれに關東州および滿鐵附屬地並に南洋諸島の人口をも加算すれば一億を割ること僅かに四十四萬七千人であり、昭和五年における前回の調査當時に比し、最近五年間に七百萬人の激增ぶりを示してゐる。

これを內地だけについて見ても、過去五年間の一年平均增加人口は九十六萬人を超え、縣にすれば大分縣、市にすれば神戸市に相當するものが毎年一つづゝボコン〳〵と殖えて來た勘定である。

かくしてわが國は、人口の點では正確な數字のない支那とインドとを除き、世界中でも露、米に亞ぐ第三位の大國なのであるが、悲しいことには露、米のやうな廣大な領域に惠まれぬために、世界中稀れに見る高率な密度において、貧弱な天然資源を啣ちつゝ、この民族的躍進の勢ひを極めて狹隘な國土の內に徒らに燻ぶらせてをらねばならぬ立場におかれてゐた。だが、わが國における過剩人口の

問題はすでに明らかに危險信號のもとにある。今にしてなほ歐米の諸國が、わが國民の平和的進出の前に、その領域なり植民地なり資源なりの開放を冷眼視し拒むにおいては、わが國民は自らその生存權を主張するために、あらゆる手段に訴へねばならなくなるに極つてゐる。英米の識者間に、世界資源の再分割論が起りつゝある所以だらうと思ふ。

わが國の人口密度は、今度の調査によれば、一方里につき二千七百九十二人とあるが、それよりも密度の高い國といへば、世界中を見廻してたゞ白、蘭、英三國の本國あるのみ、しかもこれらの諸國は或は東南洋に或はアフリカに廣漠なる植民地を領有し敢て民族的發展の捌け口には困らないのだ。もし世界の各國がこの抑止すべからざる日本の異常なる人口膨脹に目を掩ひ耳を塞ぎ、自然にしてかつ圓滑なる平和的解決策を自ら考へることを敢てしなければ、日本はその國家百年の大策のために、手近かの太平洋に日本の人口密度に比しその五十分の一、百分の一にも足らざる人口稀薄な土地が隨所にあることを、改めて想ひ出すのほかはあるまい。

しかもこの際最も注意さるべき事實は、人口の增加と國力の進展との合致が今日の日本においてハツキリ見出されるといふ點である。人口の增加は必ずしも國力の發展を意味するとは限らない。過剩人口の重荷のために國力が却て困憊萎縮せざるを得ない場合もある。世界各國は、今日まで專らさうした例だけを見續けて來たのだ。彼等が晏閑としてその植民地の上に眠つてをられたのもそれがため

であつたはずである。

豐富な人口が、低廉なる勞力を意味した場合はザラにあるけれども、それが卓越優秀な技術の廣大なる涵養池であつた場合は殆ど見られなかつた。否むしろ少數の優秀民族の手に支配力が握られてゐたのだ。だが今や『日本』といふ特異の存在を見直さねばならぬ時が來てゐるのである。(一〇・二・二八)

理不盡な財源捻出

―無視された産業上の影響―

前議會からの行懸り上、町田商相の面目問題もさることながら、商業組合、工業組合、輸出組合の中央金融機關たる商工中央金庫案が成立するに至つたことは、とに角わが組合主義の發達のために慶ばしいことである。

ところが今度それがいよ〳〵成立するに至つた經緯を見ると、何と驚いたことには、日本製鐵の來期配當を一分增配せしめ、そこから浮ぶ二百八十餘萬圓の政府の配當增をその財源に振當てようといふのださうな。

私は、商工中央金庫の設立は結構だと思つてゐる。だから私が問題とするのは、商工中央金庫そのものではなくて、當局者がその設立のために選んだ財源捻出の手段についてゞある。何となればこの日鐵增配のことたるや、事わが製鐵國策の根本義に關することであり、しかも前期よりも前々期よりも低下した本年上半期の收益を前にして輕々に決定し得べき筋合の事柄ではないからである。

そも〳〵政府が日鐵といふ大合同會社を設立せしめたのは、一に鐵鋼自給方針の確立と市價の低下を目的としたもので、隨つて配當の如きは努めてこれを抑制し、以て擴張資金の充實、內容の堅實化を計らなければならぬはずなのである。私は、今にして俄かに六期据置きの言明を反古にし、同社の配當を政治取引の犧牲たらしむべき理由を發見するに苦む。そんな無理なそして亂暴な他を省みない政府の御都合だけの財源漁りなどを敢てするくらゐならば、なぜ赤字公債の前に正直にお辭儀をするか、それとも正々堂々增稅の陣を布いて財政家たるの本領に徹しないか。

事柄は違ふが、農林省が、來年度豫算における農村經濟更生特別助成計畫のために、滯貨生絲處分による二百萬圓を新財源としてゐるのなども矢張り同じ手筋だと見てよからう。

つまりこれによつて、來年度の處分額は十年度の賣却額六百十六萬圓よりもさらに二百萬圓方擴張されるものと見るべきだらうが、何分にも滯貨生絲市價壓迫が斯界の癌腫として懸念されてゐる折柄だけにそれが醸し出す不安人氣についても財政問題を離れて十分の考慮が當然要求さるべきである。

殊に政府が賣るといつても、その實行は、生絲買收法に新用途並に販路開拓の場合と限られてをり隨つて政府は專ら買入申込みによるといふ受動的立場にある關係上、或はその處分の實績が豫定の金額に達せざる場合をも想像し得べく、少くともこれを確定財源とすることには財政上相當厄介な問題があらうと思はれる。

これを要するに、この種の財源捻出は、いづれもその反面に容易ならざる產業上の影響を伴つてゐるので、無茶押しをすれば折角の計畫もその效果が消されてしまふ。こんなことを財政技術などと心得て貰つたら飛んでもないことである。(二〇・二・三〇)

農村經濟と景氣

—依然たる購買力偏倚の傾向—

最近わが財界が頓にその明るさを增すに至つた原因の一つに、農村方面における米高、繭高の事實を擧げることは必ずしも不當ではない。少くともこの間の關係は、從來減少の一途を辿つてゐた勸銀の農村への新規貸付が最近幾分增加に轉じて來たといふ現象によつて裏書きされる。それが多少とも

農村における購買力の增加を意味するものと解せられるからである。

しかしこの事實は目して以て農村における經濟更生事業の成功とするに足るだらうか。行詰つた多くの農村が、經濟更生の刺戟を受けてとに角動き出したことは事實であるが、少しく踏み込んでこれを觀察すると、多くはたゞ更生計畫の雛形を作つたといふに止まり、赤字に喘ぎ、破綻に瀕せる個々の農家には殆どその意味さへ徹底してゐなかつたといふのがその眞相である。

殊に私の案ずるのは、折角の米高、繭高も、一面においては生產額の減少に制約され、さらに折柄の肥料價格の昂騰に加ふるに、水害、風害、冷害の直接間接損害をも被つてゐるといふ關係があり、この米高、繭高が、舊債一部の充當以外に果してどれほどの新購買力を形作り得たらうかといふことである。

世には燒け太りといふこともある。大火、大洪水、大地震等の後には恰も戰爭後において見られるやうな復興景氣が追隨するのを例とするからである。要するにこれらの大災厄の後には算盤拔きの救濟インフレーションが敢行され、それを繞る需要の興起が一時に生產、消費を貫く全過程を動員するに至るからであるが—不幸にしてといつては語弊があるけれど—とに角最近の風水害、冷害には、それに復興景氣を期待し得るほどの大きさがない。隨つて農村としては、實は燒け太る希望もなしに、たゞ損害に晒されてゐるに過ぎないのだ。農村の新購買力にはその方面からも期待はかけられぬ。

かくして農家の負擔は年とゝもに增大する一方であるが、支拂に必要な現金の調達は極めて困難な事情におかれてゐる。勸銀の貸出しが多少殖えた位のことではどうにもなるものでない。それが對策は、どうしても根本的に富の偏倚現象に對して打ち建てられるほかはなく、それがためには價格社會における農家の勢力强化並に農產物の特殊性がもつ販賣上の弱味、必需品購入に當つての立場上の不利を、如何にして解消すべきかゞ考へられねばならぬのである。今日の米高、繭高は決して農民が自ら積極的に贏ち得た收穫ではない。私は、それが意識化されない間は、本當の農村景氣などは湧くはずのものでないと考へる。

今日都鄙における購買力偏倚の傾向はなほ依然として續いてゐる。行詰つた商工資本家は、その利益再捻出のために農產物の下落と工產物の騰貴とを人爲的に策して成功すべき機會をなほ握つてゐるのだ。その度にその煽りを食つて、農業生產增大のために投じた諸經費は擧げて固定負債化の運命を辿りつゝある。米高、繭高が景氣の上つつらでも搔き起し得たら、むしろ拾ひものであらうか。

（一〇・二三・四）

『日印協約』の改訂

―改訂の要求は當然の權利―

現行日印協約は昭和十二年三月末日を以て終了することになるので、その豫告期間たる六ヶ月前すなはち來年九月までに、これが改訂の意思表示をする必要があり、その準備のためわが綿業團體ではこの程委員會を組織して專らこれに當らしめることになつた。

折衝七ヶ月にわたつた困難な會商ではあつたが、その結果は必ずしもわが國民を滿足せしむるものではなかつた。當時の澤田代表は、『條約の影響するところ極めて廣範圍にわたる事實に鑑み、贊否の議論の喧ましいのは寧ろ當然のことゝいはねばならぬ……』と述べてゐるけれども、同協約には、誰が見ても明かに不公正に日本の利益を害すると思量せられる幾多の條項を含んでをり、これに對する改訂の要求は當然の權利として殘されてゐるものといつてよからう。

例へば、イギリスよりも遙かに多量の印棉を輸入するわが國に對し、逆にイギリスの倍額に當る五

割の綿布關税を差別的にかけてゐるが如き、低廉なる日本綿布を待つに從量税を以てするが如き、更にまた棉花と綿布とのバーターに人絹や雜貨を關聯せしむるが如き、悉く皆しからざるはないがその他の點についても、わが國は、或は品種別の比率において、或はバーターの數量において、或はまた年度制の決定において、殆ど忍ぶべからざるものを、いはゆる『經濟提撕の捨て石』として、一時の犧牲を忍んでゐるのである。

しかしいつまでも一方的犧牲の基礎の上に協約は存立し得るものではない。來るべき次の機會をわが國が特に重大視せざるを得ない所以なのである。

イギリス化學工業界の權威として知られるマクゴーガン氏は、その日本産業視察の結果につき『日本の競爭を緩和する最も有效な對策は日英産業家の接近にある。日本がその國情上、海外に市場を求めて將來に備へんとするのは當然のことなのだから、イギリスの産業家は日本と平等なる市場分配に到達するやう努力すべきである』と講演してゐるが、實をいへば、この氣持こそ、イギリスが日印會商においても、日英會商においても、將また日埃會商においても當然持合せなければならぬ所のもの、このスタートが確保されざる限り、會商などは何度やり直しても寸益もないことを私は確信する。

日印協定の成立によつて、ボア商相が日本をして印棉不買を撤回せしめ、綿製品には輸入割當と種

別統制とを行ふことゝし、かつ爲替條項をも認めさせたことに對し、イギリス側がそれを謳歌したといふ事實は果して何を意味するか。その當時紡聯の協議會で庄司氏が『暗涙をのんで忍從』といつたことを今さらのやうに想ひ出す。

一歩を讓ることは百歩を讓ることなのだ。世には損して得をとれといふこともあるが、不合理な讓歩はたゞ損をとるだけである。來るべき更改期に出直すだけの十分の準備を希望してやまない。

（一〇・一三・五）

公債消化と金利策

―當局の態度極めて不鮮明―

去る三日の關西銀行大會における深井日銀總裁の演説中、公債消化の問題につき『最近日銀手持公債の賣行きは昨年の同時期に比し減少してゐるが、これは現下の金融事情によるもので、政府資金の撒布續行に隨ひさらに公債續行きの增加を見るであらう』といふ一節がある。

これは、それと同じ機會に藏相が『從前國債の消化は主として大銀行のみがこれに當つてゐたが、

最近においては地方銀行にして國債の買入をなすものが漸次增加するに至り、さらに一般民衆の國債保有高も次第に增加しつゝある』と述べてゐるのと相對應して、近時における短資の引締りをホンの一時的現象であるとなし、公債消化の培養池の水嵩さには變化のないことを主張してゐるものと見られる。

財政運用の樞軸が巨額の赤字公債におかれてゐる以上、それが圓滑に消化されるか否かは實に惡性インフレーションの信號旗を揭げるか否かの重大な分岐點をなしてゐる。大藏並に日銀當局の自信によもや狂ひはあるまいが、それにしても、この公債消化力の繼續性と重大關係に立つ金利政策の運用に徹底し得ないのは何ゆゑだらうか。私はむしろその不明朗な態度が財界に及ぼしてゐる影響を重視したい。

なぜならば、一方には採算惡化に惱む市中銀行があり勢ひ手許準備をその極限まで縮小して公債に放資しゐるので、もはやこれ以上の手許準備の壓搾が許されぬ關係上、これに今後の公債消化を期待するのは無理であるし、さればといつて銀行採算の良化を低金利の放擲に求めれば忽ち御本尊の赤字財政の遂行に御難を招くといふ次第。この痛し痒しの立場におされて、金融界は畸形化するに至つてゐるからである。

とに角黑字だらうが赤字だらうが莫大な政府資金がバラ撒かれるのだから、金融の大勢が緩漫であらうことは、日銀總裁の說明を聞くまでもなく容易に首肯ける成り行きである。しかしすでに手許現金を出來るだけ縮小してゐる銀行にとつては、短資の引締りは蓋し必至の勢ひであつて、そこに金融大勢との喰違ひが見られる。しかもこれは銀行の採算が好轉せぬ限り解消さるべくもない現象であるだけに、日銀總裁のいはゆる『一時的現象』の根據も聊か怪しくなつて來さうである。

だが、日銀が過日の市中銀行のコール協定率引上げに反對したのは、要するにその引上げの一般金利に對する影響を虞れた結果であつて、それによつて低金利政策を放棄したものでないことを暗默に知らせてゐる。總裁が銀行家に對して『善處』を要望した意味も恐らくその範圍を出でてはをるまい。

とはいへ、政府並に日銀當局のこの點に關する意思表示は今日まで極めて不鮮明である。かくの如くにして、なほよく市中銀行を公債消化の進行に努力せしむべく、根本的な經營の合理化にこれを導き得るかどうかに、私は疑ひをさしはさむ。(一〇・三・七)

質屋規則の改正議

—公營質屋の近代的意義—

明治二十八年に出來たまゝ四十年間ほつたらかしの質屋取締規則を、いよ〳〵改正することになつたさうだが、その腹案なるものによると、現行規則に規定のない十圓以上の貸借利子を、十圓以上五十圓まで年三割、五十圓以上百圓まで二割四分、百圓以上五百圓まで二割、五百圓以上千圓まで一割二分、千圓以上一割とするといふのがその骨子であるらしい。

東京市の例をとると、公營質屋も民營質屋もその一口の平均融通高は大體五圓といはれてゐるが、その標準で行くと、利用者の最も多いと見られる一圓以上五圓以下の年三割六分、五圓以上十圓以下及び十圓以上五十圓以下の年三割は、經濟能力の遙かに上だらうと思惟される千圓以上の一割といふのと比較して、果して當を得た利率の定め方であるかどうか。さういつた點にはなほ愼重な研究が要求されるとしても、とに角何らの規定もなきがために弊害だらけだつた從來の事情に省れば遲蒔きながらこの改正着手の意味は認められる。

過日、本欄において『質屋と利息制限』の題下に、民間業者研究會の主題となつた『利息が高いこと』『比較的高價なものゝみを扱ひたがる』といふ民間業者の缺點を援用指摘したところ、民間業者その他から二三抗議的注意を戴いた。年々少からざる閉店者を出してゐるといふ事實が、當業者の立場につき、何を物語つてゐるか、それは說明するまでもなく明かなところである。私も、その點については深甚の同情を表するに吝かでない。

しかしもう一歩進めて考へて見ると、それは時代の變化が民間業者の營業を次第に不適當ならしめてゐるのだといふことにもなる。早い話が、經濟能力の低いものをまつに却て高利を以てせねばならぬといふが如き、當業者から見れば、煩瑣にして危險率の高い小口に對する當然の要求だといはねばならぬのであるが、實はこの事實こそ庶民金融機關として利益を目的とせぬ公營質屋の出現に近代的意義をもたしむるゆゑんなのであつて、私は、法規の改正によつて民營質屋のます〳〵公營質屋に接近せんことを希望すると同時に、出來得べくんば公營質屋の增設普及を民間質屋の廢止にまで押進めたいものだと考へる。

だが、それが民業の不當の壓迫であつてはいけない。だから無論それがためには民間業者に對する賠償問題をも解決せねばならぬのであるが、差當り既存のこの民營機關を公營質屋の機構內に延長せしめてこれを利用することなども考へられるのではあるまいか。

しかもこのやり方の如きは、役人氣質の取り切れない公營質屋に、庶民機關としての心やすさを滲ませる好個の方便でもあらうことを思はしめる。時代に卽した改正といふなら、とに角そこまで行くのが當然ではなからうか。今度の改正に當つても一應考へておいて貰ひたいものである。(一〇・一三・八)

北支那の圓建取引

―爲替管理法では資本の逃避―

冀察政務委員會の組織完了とともに、十月以來波瀾を重ねた北支の自治運動もいよいよ大團圓を告げることになつたが、この自治政權は財政的には關稅、鹽稅の如き外國借款と關係あるものを除くほか、その他は全部これをその權限内に收めてをり、產業の開發についても全く自由の立場が與へられてゐるので、北支那における今後の經濟發展は面目一新、大に矚目すべきものがあるだらうと察せられる。

わが對北支那貿易は、對中部支那貿易が近時支那の政局不安と排日貨運動とに祟られ、殊に同地方における農業恐慌並に大水害などの打擊を受けて著しき凋落を示したに反し、政治的に比較的安定を保ち得たといふ事實を反映して相對的にはむしろその比重を增しつゝあつたことを看取し得るのであるが、最近北支において南京政府の幣制改革に關聯して圓建取引に對する要望が擡頭しつゝあるのはこの際見落せぬ現象の一つであらう。

この問題の裏には、もちろん北支在留邦人の著增といふ事實がある。しかしそれを激成したのは、何といつても南京政府の銀國有令にからまる支那通貨の不安といふことにあるのであつて、今や青島、天津、北平を中心とする北支地方においては日本の圓建取引が漸次その範圍を擴大し、それにつれ鮮銀、正金その他の各銀行に對し圓建を希望するの聲が頓みに高まりつゝあるを見る。

かくして日銀兌換券並に鮮銀券の北支における流通はます〳〵增加の傾向を示してゐるのであるが一方これに對し、わが大藏省は日本系銀行券の支那における流通は、これ外國爲替管理法にいはゆる資本の逃避であるとなし、强制通用力なき地方における日本系銀行券の流通を歡ばざる態度を持してゐるので、かくては支那通貨の著しく不安な折柄在留邦人の財產保護に缺くるところなきやといふ實情から今後の大藏省の舵の取り方が注目されてゐるのである。

北支那地方における圓建取引は、如何にも爲替管理法に抵觸する。しかし日本系の通貨中でも最も多く流通してゐる鮮銀券に對し、鮮銀は現に各支店とも圓建取引を行つてをり、圓預金もすでに相當の額に上つてゐる今日、この實情を無視して爲替管理法の法規上の解釋一天張りで押通すことが果して國益に合致する所以だらうか。私は、今の場合、圓建取引を一切禁止することの非妥當性の方が遙かに大きいと思ふが如何。(一〇・三・一三)

審議會と財政正道化

―財政の信用維持と財源能率―

國策樹立のため多大の期待を浴びて出現した內閣審議會ではあつたけれども、成立以來今日までに手をつけた仕事といへば、地方財政救濟のために僅かに交付金案の如き一時的方策をサヂエストしたるに止まり、肝腎の國防財政についてはもとよりのこと明年度豫算に對し何等の貢獻をもなし得なかつたことは、國民の齊しく遺憾とするところである。

審議會の諸公もその點に鑑みたものか、いよ〳〵稅制改革の根本に觸れて、十二年度豫算編成に對する準備を進めることになつた由で、最近吉田長官と高橋藏相との間にその點につき重要協議が遂げられたといふのは、遲れたりとはいへ、なほ問題とするには足るであらう。

その計畫の內容として傳へられるところによれば、まづ第一に歲出方面における財政檢討の準備として軍部の將來に對する國防計畫の提示を要求し、それを中心に財源問題の討究に入らんとするものゝ如く、非常時と呼ばれた三五、六年の經過とゝもに、非常時の名において著るしく歪められたわが財政の正道化を目指すものだといはれてゐる。

さらにまた歲入の方面においては、こゝ數年間の公債政策なるものが國民の富力によつて根據づけられてゐるものでないといふ點に着目し、國力の維持伸暢を損することなしに、如何にして最高の賦課換言すれば增稅の機會をもち得るかに審議の重點をおくものだといはれる。

私は、この審議が一年遲れたことに非常な遺憾を感ずるものであるが、兎に角審議會がそこまで乘出して來たことは、わが財政の健全化を企圖する上に、極めて有效な示唆を盛るものであることを認めてよい。

こゝ數年間の豫算の編成ぶりを見るに、いづれもみなまづ歲出を基本とし、しかる後に財源を漁り廻り、結局その大部分を赤字公債に押付けるといふ遣り方であつた。換言すれば財政の信用問題の如きは豫算を前にして殆ど考慮らしい考慮に値ひしなかつたのである。

現狀のもとにおいては、歲出の切詰めは殆ど不可能事とされてゐるが、假りにこれを或程度切詰め得たとしても、到底現在の歲入を以てこれを賄ひ得るわけがなく、隨つて財政の信用を維持せんがためには國民經濟力の進展を妨げずに、如何なる種類の恒久財源を捻出し來るべきかの問題解決以外には絕對に方策はないはずなのである。

ところがこれを國民の負擔力について見ると、現在の歲入は必ずしも最高の收入を表示するものだとはいひ難い。さらにその綜合按配に意を用ふれば、歲出の經常化と相まつて、なほ著るしく財源能

率を高め得べきことを確信する。增稅中心の稅制改革の必要が提唱されるゆゑんである。

一方においては、或る程度の非常時支出の恒久化を認めねばならず、さらに國運の進展に伴ふ當然の經費增大、物價の昂騰などを對象として、恒久財源の捻出なくして、破綻なき赤字公債政策の續行などといふことは到底想像し得られる事柄ではない。

話は違ふが、昨今頻りに摘發されてゐる各地の脫稅疑獄の如き、もしその取締りにして宜しきを得れば、その收入缺陷の穴埋めをしてゐただけのものは當然新たなる負擔力の增加となるわけであり、敢て小所得者の苛斂誅求に及ばずとも、いまだ財源なきを憂ふるには當るまい。脫稅の取締りもまた有力なる增收財源なのである。（一〇・三・一四）

金禍と銀禍の一年

―問題は謎のまゝ持越し―

昭和十年といふ年は、國際經濟上色々な意味において注目さるべき年であつたが、就中金と銀との釀し出した危機がそのまゝ明年へ持越されやうとしてゐるのは、明年の世界經濟を展望する上に、見

遁してはならぬ事態の一つだといへるであらう。見方によつては、確かに金禍銀禍の一年であつたからである。

一昨年をドン底として、世界の經濟は漸次不景氣のくら闇から浮び上つて來たが、この一般的傾向とは反對に金本位にしがみついてゐる所謂金ブロック諸國の財界は本年に入つてます〳〵その不況の度を深化し、必死の防戰に拘らず新春早々ベルギーの落伍に次いでルクセンブルグ、ダンチツヒ自由市の平價切下げとなり、さらに伊エ戰爭の勃發を導因として急激に惡化し出したイタリーの財政窮狀が遂に同國の金本位制に事實上の停止を餘儀なくせしむるに及んで、僅かにその殘壘に據るフランス、スイス、オランダの諸國は金本位崩潰のたゞ一歩手前で、その危機を一寸延ばしに延ばしてゐるに過ぎざる孤影哀れな狀態にまで追ひ込まれてゐるのである。

かくして浮き腰になつた歐洲の資金は、折柄景氣に芽を吹き出したアメリカへ非常な勢ひで流れ込み、こゝにアメリカをして世界金總額の半ばに近き巨額を保有せしむるに至り、今やその底拔け的低金利に何らかの掩護工事を施さねばならぬ立場を經驗せしめてゐる。

さらにまた一方、銀價の世界的吊上げによる不況克復を狙つたアメリカの銀國有政策は、物の美事にその豫想を裏切られ、ために支那の財界は購買力の增進どころか、逆にその轉落に拍車を加へるとになり滔々たる銀の流出は遂に背に腹は替へられぬ銀國有の斷行にまで事態を乘上げさせてしまつた

のである。事實この幣制改革こそはアメリカの銀政策に對する悲鳴にほかならなかつたのだ。

しかもこの支那からの銀の大奔流は、アメリカにおける銀の輸入禁止に拘らず、猛烈な勢ひでアメリカへ注ぎ込まれた。かくてこゝにもまたアメリカはその政策の訂正に頭を搾らねばならぬ場面を作り上げてゐる。

今年々初以來アメリカへ流入した金の總額十七億四千百萬ドル、銀の總額三億五千五百萬ドルで、その額遙かに一般商品輸入總額を凌ぎ、まさに建國以來の記錄を出してゐる。

これを要するに、今年は金にとつても銀にとつても、たゞアメリカへアメリカへの一年であつたのだ。そして今やかくして積上げられた金銀の山の處置に、アメリカ自身がその精根を疲らしてゐるのだ。こゝでアメリカがどんな政策に出るか確たることはまだ判らぬが、とに角この過剰金銀の毒素の醗酵のために折角芽を吹いて來た景氣が脅かされるとしたら、どの道アメリカの過剰資金の還流は實現されるものと見ねばなるまい。

この金と銀との流れ工合が、來年の世界景氣展望にとつての謎なのだ。(一〇・三・一五)

沸ぎる銀の坩堝

―アメリカ銀政策の動向―

こゝ數日來賣物殺到のためロンドン銀塊市場は遂に立會停止騒ぎまで演ずるにいたつたが、現物取引再開後も相場は依然慘澹たる安値を續けてゐる。

一九三〇、三一年の交、世界の主要國がみな猛烈な恐慌の嵐に吹き晒されてゐた當時、支那が比較的安易な經濟狀態を保ち得たのは、支那が銀貨國であつたゝめに、當時の銀塊相場の大崩落を踏み臺にして、その財界を爲替の暴落による輸出增大、輸入抑壓といふ場面に導き得たからで、その結果農民大衆が國內政權の掠奪的壓制に對してすら相當の耐應力をもち得たことがその重點をなしてゐる。

しかるに滿洲事變の勃發とともに、支那はその肝腎な輸出の根源地と自國工業の大事な市場とを喪ふことになり、剩へそのころから始まつた先進金本位國における通貨再暴落の煽りを喰つて銀相場急騰の重大場面に直面し、さきの銀安の利益解消に懊惱焦慮しつゝあつたところへ、さらに三四年に入ると早々、アメリカの銀買上げによる世界的銀價吊上げの强行にあひ、遂に自ら銀本位を捨てゝ世界

經濟の狂瀾怒濤に飛込まざるを得なくなるところまで追込まれたのである。

かくして支那は、とに角ポンドにリンクした爲替相場を維持するために平衡資金の調達に迫られることになつたのであるが、氣の毒にも今度は銀價の崩落にブツかつた。すなはち支那は今や内に通貨不安の大暗流を湛へながら、所有銀の平衡資金化にも見離されようとしてゐるのだ。一つ間違へば新幣制の覆沒以外の何ものでもない。

今回の銀價急落は、アメリカが突如銀の買入れを手控へし出した爲めであり、アメリカのこの態度變更は幣制改革を機會に支那において暗躍を始めたイギリスへの面當てだとも傳へられてゐるが、その實アメリカ自身にとつてもその銀政策の無條件遂行には今や困難な事情が發生しつゝあることを見落してはなるまい。

アメリカの銀國有令は、金三銀一の比率を以てその紙幣準備とすべきことを規定してゐる。しかるに最近歐洲における政局の不安に伴ひ、非常な勢ひで歐洲各國から金の流入が續いてをり、すでにアメリカの保有金は百億ドルを突破するにいたつた有樣なので、その四分の一に相當する銀準備を整へるためにはさらに莫大の銀を買入れねばならず、一途に銀價の吊上げにのみその政策の重點をおくことが出來なくなつて來てゐるのである。

現にアメリカは從來の政策に逆行して、本月に入つてからすでに二回も銀の買入れ値の引下げを行

つてゐる。蓋しこれは銀國有令を改正せぬ限り、當然考へられる犧牲緩和策であり、アメリカ財界の一角には、この問題に關聯して早くも銀ドルの平價切下げ論が取沙汰されてゐるほどである。すなはち現在保有銀の評價換へにより、直ちに法の要求する標準を充たさしめ、以て今後の買上げを中止しようとするにあるのだ。

この說の眞僞は暫くおくとしても、とに角今後のアメリカの動向如何によつて銀の坩堝はさらに沸ぎり出すことであらう。そしてそれがわか財界にとつても正に目の離せない重大案件なのである。

（一〇・二・一七）

徹底的に摘發せよ

—脫稅事件頻りに暴露—

國力の進展に伴ひ、日本が世界の舞臺に演ぜねばならぬ役割は年とともに增すばかりであるが、一方これを賄ふべき財源は、さう存念通り天からも降らねば地からも湧かぬ。だからやむを得ず、赤字公債の形においてその莫大なる負擔を將來に繰延べてゐるのである。

しかし今日のやうな大借金政策がいつまでも續け得られるわけがない。そこで公債漸減方針なり增稅方針なりの確立急務が叫ばれるのであるが、この重大な時機に當つて、最近京阪神地方を中心に一大脫稅事件が暴露しつゝあるといふのは何たる情けないことだらうか。

しかもその關係者を見ると、世にいはゆる富豪とか名譽職とか、社會の上層に立つ人達であることが社會人心に如何に大きな惡影響を與へつゝあることか。殊にその脫稅方法が或は稅務官吏と結託し、或は所得稅調査員の職權を濫用するといふに至つてはまた何をかいはんやである。

世の中には稅金が拂へぬために、祖先傳來の田畑を人手に渡したり、可憐な娘を犧牲にしたりする窮民すらある。これらの人々が大富豪や大所得者の大脫稅事件を聞いて果してどんな感じを懷くだらうか。稅制の改革の如きはそも〳〵未だとさへいひたくなる。

合法的な脫稅は稅法の完備によつて防ぐことも出來るが、かやうな不正手段による脫稅は稅法をもつてしては防げない。しかもその脫稅は結局他人の負擔加重を結果してゐるのだ。私は、司直の手がこれらの非國民を待つべく如何なる動きをするだらうかに甚大な關心をもつものである。

零細な貯金を割いて、或は國防費に或は減債基金に獻納するやうな人達から見たら、國の財政に大きな穴をあけて恥ない脫稅者の行爲の如きはむしろ不思議にも思へるだらう。それだけになほさら罪業は深いわけである。

更にまた根本的に考へれば、それが間接稅に比して直接稅の割合が非常に低いわが稅制のもとにおいて行はれる事柄であるだけに、その脫稅は一層嚴重に問題にされていゝわけである。殆ど間接稅ばかり背負つてゐる一般大衆に脫稅の機會などはあり得ない。私はこの重い間接稅を直接稅に切替へるべき稅制改革の急務を主張するものであるが、脫稅の取締りこそその先驅をなすものでなくてはならぬ。わが財政將來のためにも遠慮なき摘發を望む。(一〇・三・一八)

賴りない公定米價

—問題の解決にはならぬ—

最近のわが財界景氣がなほ局部的で普遍性を缺いてゐること、並に引續く各種の災害に痛めつけられて農民中にも飯米の購入を餘儀なくせしめられるに至つたものゝ著しく增加したことなどから見て、新公定米價の決定は社會政策的にもなるべく上値の抑制が望まれてゐたのに、十七日に發表された價格を見ると、最高三十三圓二十錢最低二十四圓八十錢で、後者が五十錢の引上げであるに對し、前者には一躍一圓七十錢方の引上げが行はれ、明かに政府の高米價政策を反映せしめてゐる。

最高、最低の値幅が一圓二十錢方も擴大されたことは、寂れきつてゐる今日の市場取引に幾分かの注射的刺戟を與へることにはなるだらうが、それはまた一面農林省が消費者の利益を犧牲にして、來議會に提出さるべき米穀自治管理法案のために市場の人氣とり策をやつてゐるのだとも見られ、旁々來年の天候次第では米價の暴騰から統制法の破綻さへ豫見されるので、この際最高値を少しでも高くしておいて公定價格突破の機會を緩和しようといふ狡い意圖に出たものだとも受取れるし、さらにまた政府手持米の激減してゐる今日、買入れ申込み殺到に對する回選手段だとも解せられる。いづれにしても、たゞこれ米穀統制法の救濟策であることには變りがない。

それにしても現行米穀統制法は、生産者に對しては生産費による最低價格の引上げを規定通り適用しながら、消費者のために設けた家計費調査はすでに四年を經てなほいまだ實施の運びに至らず、家計米價の空文化のために最高値の決定は消費者を著しく不利不安の地位に立たしめてゐることを忘れてはならぬ。隨つて公定價格が決定されたからとてそれだけで問題が公平圓滿に解決されるわけのものではない。今後の對策がなほ依然として注目されるゆゑんである。

序でながらこの機會に附言しておきたいのは、自治管理法が成立した曉、それが統制法に對しても一つ地位についてゞある。自治管理法によれば、統制法におけるが如く政府自ら一大商業資本家として米穀を賣買する責任を持たなくなる結果、米價が最高價格に達した場合に、政府が賣るべき米を持たぬやうなこともあるわけで、現に來年などはその傾向が著しく案ぜられてゐる。私は、この情勢を前にして、外國米の輸入につき政府に如何なる對案があるのか、それを聽きたいと思ふ。見方によつては自治管理法による政府の商業資本的機能からの退却は勢ひ外米輸入による自然調節への一歩前進であり、かくして今後の米穀對策が自治の名において切替へられようとしてゐることが示唆されるのではあるまいか。

だがすべては、最高價格が無視される時が來たら判かることである。(一〇・二三・二〇)

進退兩難の支那幣制

―アメリカのウツチヤリ―

國民政府は、幣制改革に次いで全國金融機關の統制をはかるといふ觸れ込みで、いよ〳〵中央銀行を改造して中央準備銀行となし、その資本金の六割を政府が支出し四割を民間金融業者から募集するに決定、來春早々實行するとのことである。

だが、それを聞いてまづ第一に起る疑問は、國民政府が、幣制改革といふ先行事實を一體どう觀て

ゐるのだらうかといふことである。中央銀行の改組が悪いといふのではないが、新幣制そのものゝ破綻が今や單に時日の問題とされてゐるこの際、何の金融統制ぞやといひたいからである。

支那の新幣制に致命的打撃を與へたものがアメリカ銀政策の轉換であることは今さら說明するまでもないことである。しかし實をいへば、この支那の幣制改革なるものが、もと〳〵その在銀を高値に賣放ち、それによつて得たどころの利益をポンドにリンクした幣制援護の資金たらしめようといふ――いはゞアメリカの高銀價政策の裏を掻いた作戰であつただけに、肝腎のその狙ひに狂ひが來ては二進も三進も行かなくなるのが當然で、國民政府としては、ただアメリカ大統領をして銀政策失敗の責任をそこに轉嫁せしめ、その政策建直しに涼しい顏をさせただけの詰らぬ籤を引いたわけである。

支那がアメリカのこの妙手を豫見し得ずに、イギリスに賴つたところに救ふべからざる錯誤があつたのだ。今となつては、焦れば焦るほどたゞ墓穴を深うするにすぎない愚形を呈してゐる。銀本位復歸論が財政部長の口から臆面もなく飛出すゆゑんでもあるが、事態すでにかくの如しとすれば、中央銀行の改組などが何の足しになるのか私には判らない。

よしんば銀本位に歸つて見たところで、銀の低落が見越されてゐては、通貨の不安は依然救はれずそこで外資の輸入杜絕、資本の逃避と來たら、金融の統制どころか、國民政府自身の立つ瀨がなくなる惧れがあらう。たとひ銀本位への切り換へが破綻なしに行はれたとしても、それから先きの銀兌換

銀の自由輸出を何によつて支へるのか、恐らく中央銀行などは、あつてもなくても同樣なハメに陷るだらうと想像される。

とに角支那が仕かけた强引のシルヴァ・オフの一と手は、アメリカの巧妙なウツチヤリに會つて、今や銀の世界に思惑亡者を續出せしめてゐる。すなはち彼等は多額の手持銀を抱へ、將來さらに下落するだらうといふ懸念に襲はれながらも、今それを手放す損失に怯えて立すくんでゐるのである。酷いことになつたものだ。(一〇・三・二四)

財源の用意ありや

――最早や探りの時機でない――

明年度豫算においては、とに角にも自然增收を賴りに赤字公債の發行額を今年度よりもいさゝかながら減額することが豫定されてゐる。大藏當局はこれを呼んで『公債漸減方針の貫徹』といつてゐるが實はホンのその雛形だといつた方が當つてゐる。

しかしたとひ雛形であれ、それが實現出來たといふのは偏へに自然增收八千萬圓といふものを見積

り得たからで、今後その財源期待が疑問だとすれば勢ひ公債漸減の建前に異狀を來たさざるを得なくなるのが當然である。

少くとも膨脹した歳出の緊縮が不可能とされる現在の狀態においては、公債漸減と增稅による恒久財源の捻出とは不可分的關係に立つてゐる。赤字公債漸減による健全財政の建前を拋擲するのなら格別、それを認めて新財源の捻出を否定するが如きは、これ論理の許さゞるところである。

內務省が中心となつて研究しつゝあつた地方財政調整のための交付金制度がいよ〳〵今議會に提案されることになつたが、今日地方財政の重壓が如何に悲觀的なものであるかを知るほどのものなら、恐らく誰あつて一人この町村補給金案に反對するものはあるまいと思はれる。しかし一應考へて見ねばならぬのは、そのために要する中央財政の財源問題である。

この負擔が中央財政それ自身の改善によつて果されるのなら一切文句のあらうはずがない。しかし中央財政の窮狀が赤字公債漸減方針の遂行をさへ疑はしめてゐる際『何らの用意なしに』さらに新たなる壓迫を加重せしめることが果して望ましい狀態だといへるだらうか。

殊にこの法案は冠するに『臨時』の二字を以てしてゐるけれども、事實問題として、これが一回限りの打切りで、到底その目的を達成し得べき性質のものに非ざることが明かである以上、その財源の豫定には根本的にこれを確信づける考慮のめぐらされることを必要とする。結局現在資本主義機構に

おける廢殘者としての農村の負擔輕減が、高度化した都會景氣の結果を繞つて考へられるのほかはあるまい。私は、少くともそれが增稅の形において具現さるべき一つの目標であらうと思ふ。

最近大藏當局は、增稅を仄かして見たり打消して見たり、その態度極めて不鮮明である。しかしそれが輿論を釣るためのウキ流しだとすれば、馬鹿げてはゐても、默つてすごすわけにも行かぬのが厄介。いつ如何なる時代においても增稅に一部の反對はつきものである。だから豫めその方針を明かにして國民をしてその財源の涵養に善處せしむる目標を示してやることが望まれる。

先年藤井藏相が、特別利得稅を立案した際にも、增稅をやるなら前以て財界に相當の覺悟と用意とを有たしむべきだとの要望があつたが、たとひ增稅の妥當性は認められるにしても、なるべく早き時機において財界を納得せしむることは、それだけ心理的動搖を緩和せしめる所以であり、收入の上にもまた效果的であるはずだ。(一〇・三・二五)

日加協定を殺すな

—和戰兩樣の用意が肝腎—

下期出超期に入つてからの本年のわが輸出貿易は、非常な急テンポで年初來の入超尻を解消し、十月末には遂に十何年ぶりかの出超記錄を出すに至つた。

しかしこの最近における貿易好轉の主因が、生絲の輸出增と棉花の輸入減とにあつたのは隱れもない事實で、それだけに生絲に對するアメリカ景氣の影響はなほ當分期待出來るとしても、一方棉花の買控へがいつどうなるかによつて、貿易の順逆に大きな波紋が描き出されやうといふものである。

だが、この際見逃してならぬのは、雜品輸出の消長如何といふ問題である。從來わが輸出の大宗といへば、生絲と綿糸布とが桁違ひの地位にあり、事實この二商品によつて、總輸出額の六割五分以上といふ厭倒的大部分が占められてゐたのである。隨つてその他の輸出品は貿易の大勢を動かずほどの重要性をもたず、いはゆる『雜品』の名において一括されて來たのであるが、最近にはこの輸出の分野に大變化を來たし、雜品六割、生絲および綿布四割と兩者その地位を轉換してむしろ雜品輸出の消長が貿易を傾向的に支配するやうになつて來た。

これは要するに過去數年間におけるわが產業組織の高度化が生んだ技術の驚異的進步により、重工業並に化學工業の製品をも輸出圈內に取入れることに成功した結果であり、その市場別において急激に東洋以外の世界各地向比率が擴大し來つた事實に徵し、それがいはゆる新市場開拓を意味するものであること極めて明瞭である。

すなはちわが貿易が好調を持續し得るや否やは、專ら現在並に將來の新輸出品によつて、現在並に將來の新市場を維持し開拓し得るかどうかの問題と見られる。

一面においては、本日發表の日加通商關係の如く、お互にその變則稅を撤廢して、貿易の明朗性恢復に成功したものなきにしも非ずであるが、世界の各市場は殆ど皆、なほ依然としてわが輸出品の前に大きな門を横たへてをり、中には次ぎ〳〵に日本品防遏の障壁を高めようとしてゐるものも少からずある。私は、もとよりわが國民の能力とわが商品の魅力とが、なほ今後とも或る程度まではこの市場の攻防戰を巧みに切拔けしめるだらうことを信ずるものであるが、それにしても日一日と加はり行く輸出の重壓だけをたゞ默つて受入れてゐるといふ法はない。

私は、カナダの新通商政策聲明がわが通商擁護法による報復の結果だなどゝ大膽なことは申上げないが、とに角相手の出方次第では吾れに和戰兩樣の用意のあることを今度のカナダとの交涉で中外に知らしめた效果は相當買はれてしかるべきだと考へる。だから昭和十二年四月を以て實施期限滿期となる通商擁護法の期限延長を、取急ぎ今議會に提案しようとの議の如きも、それによりわが絕對の態度を闡明するといふ意味から贊成されてよいことだと思ふ。（一〇・三・二七）

わが財界と景氣線

―『日本景氣』を由來した原因―

本年のわが財界を特色づけた現象は可なりあるが、就中貿易の好轉、軍需景氣の持續、物價殊に生絲および米を中心とする農產品の價格昂騰、株價高と數へ擧げて來ると、殆どその凡てが春景氣のお膳立てをしてゐるかの感があり、春景氣の豫想は毎年の例ではあるが、しかもその間本年の景氣潮流にはその基調に聊か特異の强味の存在してゐるのが見受けられる。

もとより爲替相場の低落による輸出增進とか、軍需景氣の醱酵とか、いはゆる非常時局の影響にしてこれに織込まれたものゝ少からずあることはこれを否み得ない。しかしたゞそれだけが齎らした景氣であるならばそれは本質的には飽くまでも偶發的にして一時的のものだと見るのほかはない。だが現在の景氣基調にはそれ以上にハッキリした力强い根底がある。そしてその危なつけのない基礎において來春の景氣を約束してゐるところに、今年のわが財界の實體があるのである。

今にして想へば、世界景氣に魁けて今日の『日本景氣』を由來した最大動因は、實に緊縮政策によつて不況時代に培はれたわが各種產業における內面工作のお蔭であつたといつて決して過言に非ざる

を知る。すなはち昭和四年から同七年にわたる數年間のいはゆる不況時に當り、緊縮政策の指導精神のもとに培養された經營の合理化、技術の改善、賃銀の切下げなど生產費低減の芽が、最近三年にわたるインフレーションの光熱に惠まれてスク〳〵と伸び上つたこと、それが今日の景氣を支配する原動力なのであつて、土臺が出來てゐるだけに危なつけのないのがその强味とされる。

景氣にはとかく不健全な投機思惑が付きものとされるが、現在のところわが財界は極めて健實な足どりを見せてをり、またそれを案すべき餘地も見當らぬ。それといふのも實はわが財界の基調に多年の苦勞が織込まれ、本格的景氣の持續に對する自制がはたらいてゐるからであつて、物價の上昇率が一足飛びに輸出貿易を阻害するところまで行かないのも、要するにそれがためである。

物價にしても株價にしても、ヂツクリと底練りして騰つて來るのが本調子である、投機思惑の發熱は相場の狂騰猛進には役立つ。しかしそこには相場の餘命といふものがない。このハッキリした財界の局勢を前にして、徒らに伸びを焦せるのは結局自ら破局を招くに過ぎなからう。今日は決して油斷慢心の許さるべき時機ではないのだ。

一言にすれば、今年は確かに上層景氣の一年であつた。それを來年へ持越して大衆化すべき責任と使命とが今やわれ等の頭上にあるのだ。夢、粗末に取扱つてはなるまい。

こゝにわが財界がこの一年間に占め得たる景氣線上の地位を一瞥し、右の一言をなして、昭和十年の筆納めとする。（一〇・一三・二八）

經濟規模の擴大性

—わが經濟力發展の目標—

昨年九月以來わが財界は明かに好轉の跡を示しつゝある。そして今年は、その延長といはんよりはむしろ景氣の本格化といふ意味において極めて重大な時機に差かゝつてゐるといふことを意識せしめられる。

思ふに、昨年までのわが財界活況は專ら赤字による膨脹財政と低爲替とをその背景としたものであつたが、今や先年のデフレーション時代に、財界人の示した眞劍な研究と不斷の努力とが漸くその實を結び平均三割に達するといはれる生產費の切下げに成功するに至つたことがその基調をなして、こゝに素晴らしき貿易恢復の傾向を馴致し經濟力の伸展を示しつゝあるのである。

殊にこの際特に注目さるべき一事は、最近におけるわが貿易が內容的にも地域的にも著しき積極的變化を示してゐるといふ點で、この經濟規模の擴大に伴ひ、景氣のスケールもまた漸次擴大の機運にあること說明するまでもない。そして私はこゝにわが事業界の將來性に對する重點がおかれねばならぬと信ずる。

如何にもわが國の經濟力は最近豫想以上に急速な發展を遂げてゐる。それだけに今後における各國のわが商品に對する嚴重なる防衞陣の築造も容易にこれを想像し得る。しかしまた一面から考へれば各國の邦品防遏は、宣傳下手なわが國のために、費用向ふ持ちで邦品の良質安價を世界的に宣傳して呉れたものであり、わが國としては今やその最も效果的な追擊戰の機會を與へられてゐるのだともいへる。

さらにまた一方、わが經濟の規模は、大陸政策の進行と共にこゝに急激なる擴大の必要に迫られ、その金融機構も產業機構も到底從來の國內市場のみを對象としてゐるわけには行かなくなつて來た。そしてこの活動市場の擴大に景氣規模の擴大が結び付けられてゐるところに、今日のわが財界の强味があるのである。

しかし異常な發展を遂げたとはいふものゝ、わが輸出貿易額の二十三億は、これを英、米のそれに比較すると、そのスケールにおいて、なほその三分の一乃至四分の一の範圍を出でない。私は、わが財界人が日本の輸出貿易を今日の狀態に停頓せしむることなく、速かにこれを二倍し三倍すべき新たなる努力に精進せんことを、この機會に特に注文したい。そしてこれを過去に省みこれを現狀に照らして決してその不可能事にあらざるを確信する。

わが國は、目下ロンドンの軍縮會議において、平等權の確立を主張しつゝあるではないか。輸出貿易はいふに及ばず、その產業乃至經濟力においても平等の地位にまでわが國を押進めなければならぬのはこれまた當然の事態ではあるまいか。さもなくば、やがて軍事費のために倒れねばならぬ時が來る。とに角今日のわが財界基調を前にして、しかも有頂天になつて踊らぬわが財界人の愼重なる態度と用意とは、われ等の甚だ心强く感ずるところではあるけれども、それにしてもわが經濟力發展の目標をどこにおくべきかの認識はハツキリとこれを持續ける必要がある。

何といつても日本は世界における新興國である。そしてその立場と環境とは斷然後退の出來ない筋合のものであることを示してゐる。『新しい局面に對する新しい覺悟』……たゞそれあるのみなのだ。

（二・一・九）

決裂しても無影響

―看板通り行かぬ軍縮會議―

半月ほど息拔きをして、六日からさらに再開されたロンドン海軍會議が、遂に決裂の狀態において

その幕を引かうとしてゐるのは、內容そのものよりも、『決裂』といふ一語が世界人心に與へる衝擊的影響から考へてまことに遺憾に堪へない。

しかしわが國としては、軍縮當然の精神を公明に主張して容れられざる以上、今さらほかに議すべき何ものをも見出し得ないのだから、たとひ決裂のハメに陷らうとも、それは各國が軍縮精神を蹂躙して省ざる結果であるといふ慰めだけはもてるはずである。

だが、實をいへば、今度の海軍會議は、まづ第一にその出發點において、必ずしも世界平和のために軍縮を念願するといふ建前のもとに開かれたものではなく、むしろ軍縮の希望とは逆に、現狀打破の必要に驅られた各國が、たゞその機會を機械的にワシントン條約の更改期に結びつけたと見るのを妥當とする。公明嚴肅なわが軍縮理論を正視することが出來ず、これを憚り通したことがその何よりの證據とされよう。

本心を叩けば、今や世界の各國はみな軍擴熱にうなされてゐるのだ。少くとも軍備の縮小を意味しそれを目的とする海軍會議が、その看板通りに受入れられる可能性の如きは絕無だといつてよい。程度の差こそあれ、彼等が、いづれもたゞ軍備擴張の口實を求めるに過ぎない建艦宣言案に力瘤を入れたことが、雄辯にこれを物語つてゐるではないか。

海軍會議決裂の結果が各國の軍備に如何なる影響を齎らすであらうかは、全く未知數に屬する。し

かし各國がこの會議に臨んだ態度並に肚裏から推して、これがこのまゝ無事に納まらうとはどうしても考へられぬ。殊に對伊經濟封鎖、ドイツ再軍備といつたやうな大問題が目前に横はつてゐる際ではあり、各國とも敢て軍擴の口實を求めるに苦むまい。今度の海軍會議が、軍擴防止の消極的作用にすら役立たなかつたことは、この意味において返すゞゝも殘念に思はれる。しかし決裂ときまつた以上今さら愚痴をならべて見たところで始まらぬ。問題はたゞ『決裂』といふ一語が無條約狀態を對象としてもつ無氣味さを、今後如何にすれば多少とも緩和輕減し得べきかといふに盡きる。

たとひそれが財政的には許されることであるとしても、軍擴にはもとより技術的な幾多の制限が伴つてゐる。隨つて今日の會議決裂が必ずしも明日の軍擴實現を意味するわけではないけれども、少くとも決裂の結果が各國の軍縮であらうとは想像だも及ばぬところであるだけに厄介なのである。

それはとに角、わが海軍當局は、會議の結果如何に拘らず、既定の方針通り進むまでだと聲明してゐるのだから、わが國としては今さら決裂に驚く必要もないことであり、ひいてそれが財界に及ぼす影響についても別段取立てゝ詮議に及ぶべき筋合のものも見當らぬ。何か煙のあがるまで、まづ暫くはヂッと四圍の情勢を見守つてゐるだけのことであらう。(二・一・二)

景氣を護るもの

—重大關係にある物價の動向—

本年劈頭の一月上旬貿易は千五百萬圓の入超で、昨年同期と正に同額を示してゐるが、これを輸出入の實額について見ると、輸出入ともに昨年同期に比し約七百萬圓方の增加であり、さらにこれを比率にすれば、輸出において五割增、輸入において二割五分增に當るわけで、實質的に一段の發展を示してゐることを看取し得べく、大體において本年の貿易を卜するものであることが窺はれる。

殊にこの年初の貿易において注目されるのは、一月一日から、從來日加兩國間に横はつてゐた通商上の人爲的諸障碍が除去され、その貿易關係が調整された結果、輸出入ともに對加關係品に顯著な荷動きを見るに至つたことで、たゞに今後の日加貿易に力强い光明を與へてゐるばかりでなく、さらに進んで、それがその他の市場における貿易關係の調整にも有力なる示唆として役立つのではないかを思はしめてゐる。

今のところ、本年のわが財界景氣に急角度の逆轉を豫想せしめるやうな悪材料の見當らぬことは、

すでに繰返して說明した通りである。しかし今日までの景氣の有力な培養素であつたいはゆる非常時財政に最早やこれ以上の積極性が見出せなくなつた今日においては、今後の景氣を支配する重點が專らこの通商貿易關係に存するといふ事實に特に注意を拂ふ必要がある。その意味において、本年年初における貿易のスタートが相當好望を豫見せしむるものだといふ事實は、少くとも本年の景氣推移の測定に有利な心證をもたしめる所以であることを認めてよささうである。

のみならず、事の實際からいへば、最近におけるわが財界の景氣が常に貿易の實數以上に上昇してゐるといふ事實を見逃せない。それはいふまでもなく、いはゆる貿易外の收入が豫想外に大きいといふことの結果にほかならぬのであるが、一面各國における對邦品輸入制限が結局色々形を變へた輸入―殊に密輸入―を著しく刺戟しつゝあるといふ事實の如きは、またこの景氣の眞相を語る上に、見落すべからざるものゝ一つだといへやう。

しかしこれは斷じてとつて以て據るべき商實の常道ではない。われ〳〵の目標は飽くまで堂々たる商戰における良品安價主義の勝利におかれることを必要とする。隨つてそれに逆行するすべての原因の發生を如何にして食止めるかといふことが、景氣を護る必須の條件でなければならぬのである。

今日でこそ左ほどの問題にされてをらぬが、私は、その重大項目に物價問題のあることを今日において指摘しておきたい。もしも景氣の尻が物價の上に再現して、その昂騰の足取りが顯著なるに至れ

ば、勢ひその飛沫が賃銀關係にもおよぶであらうし、こゝに輸出好調の根本條件に異變を來さゞるを得なくなるからである。少くともこゝに今後のカネ合ひがあるのだ。(二・一・三)

來るべき經濟壓迫

―眞價を發揮すべき舞臺―

さきに國際聯盟を脫退し、今また軍縮會議と絕緣するに至つた孤立日本の姿こそ全世界人類の福祉のために戰つた平和の騎士の名譽ある記念碑だともいへようが、現實の問題としてこれを見れば、これから先この重大な立場を如何にして護るかが、今日の孤立日本が考へねばならぬことの全部であるはずだ。

その點につきわれ〳〵の頭に直ぐピンと來ることは、孤立は孤立でも、それが安心の出來る孤立であるかどうかといふ點である。正々堂々のわが主張に耳を傾けぬのは傾けぬ方に非理がある。しかし列國は、それを知りながらしかもなほ日本に對する嫉視を抑へることが出來ぬのだ。彼等は少くとも日本の立場に同情すべく餘りに猜疑的、警戒的である。

すなはち日本の立場が自由になつたといふことの裏に、これから先如何にして日本の勢力を殺がうかといふ各國の共通意識がハミ出しさうに盛り上つてゐるのを見落してはならぬのである。そしてこの共通意識が今後形を替へ姿を變へて對日經濟壓迫にまで進展し來るであらうことを、割引なしに覺悟する必要がある。

無論わが財界とても、それに氣づかずにゐるわけではない。否それに處する覺悟ぐらゐは出來てゐるはずだ。しかしやゝもすれば現在の國力に頼りすぎて事を纏める上に細心の注意を缺くの憾みがありはせぬか。私は、今後次ぎ〳〵に開かるべき各種の會商などにおいて、特にこの點に遺漏なからんことを望んでやまない。

いふまでもなく、この孤立謳歌の危險は軍縮會議の決裂をキツカケとする軍擴競爭の想定から、製鐵、造船、機械工作、化學工業などのいはゆる軍需工業方面に於て特に高まらんとする傾向を見る。昨年來英、米の財界が頓に好轉のあとを見せてゐるのも、要するにその背後に軍擴が織込まれてゐるからであり、わが國においても軍事豫算の數字が明かに斯業の繁榮持續を裏書きしてゐるだけに、危險率はなほ高いのだといへる。私は、繁榮が悪いといふのでない。たゞこれあるがために、有頂天になつて孤立を謳歌することの危險を警めたいのである。

高橋藏相は、軍縮會議は決裂しても、軍事豫算には影響がないといつてゐるけれども、すでに無條

約狀態に陷つた以上、それはこちらだけの考へでは最早どうすることも出來ない問題である。相手の出方次第ではさらに軍事豫算の膨脹に拍車を加へざるを得なくなるのが當然。そこに今後における國際外交の重大使命があらうといふものだが、それも歸するところは國民感情の反映であることを思はねばなるまい。

光榮ある孤立ではあるが、それを無條件に謳歌するのはまだ早すぎる。少くとも自分の立場に亢奮してゐる時期ではあるまい。とに角これからが貿易に生きねばならぬわが國民の本當に眞價を發揮すべき舞臺なのだといふことを忘れたくないものである。(二・一・一七)

藏相の眞意を叩く

—財源捻出に對する新方策—

たとひ軍縮會議は決裂しても、わが國に直ちに建艦競爭を始める意思のないことは、責任當局の聲明に徴し極めて明瞭な事實である。しかしワシントン、ロンドン兩條約が失效の曉、歐米の諸國がどういふ態度に出るか、その出方次第では、たとひ當方に軍擴の意思はなくとも、對抗上軍事費の膨脹

を必要とする場面も當然生じて來るわけで、その財源捻出に對する新方策が改めて問題視されてゐるのも別に不思議なことではない。

高橋藏相は『世間では直ぐ增稅々々といふ……』といつて頻りにお冠りを曲げてござるが、われわれは何も增稅されることが好きだから增稅してくれと賴んでゐるのではない。たゞ今日のわが財政が增稅不可避の狀態におかれてゐることを指摘し、この犧牲において、劃りの付かぬ赤字財政の前途に對して懷かれてゐる國民の危惧を一掃とまでは行かずとも、少くともこれを緩和したいと念願してゐるだけのことである。

尤も最近は藏相も、一般的增稅は現行稅制の下においては時機尙早であるが、今後中央、地方を通じて稅制の整理刷新を待つて考慮すべく、その點內閣審議會の審議に大に期待するといつてをり、早晩その時機の來るべきを暗示してゐる點において、增稅に對する內閣審議會の意向を問題にしてゐることを明かに看取し得る。

それにしても、藏相が『自然增收が段々增して來て昭和二年の租稅收入に近い數字を示すに至つてゐるから、今後もます〳〵それが增すやうに努める……』といつて、これに將來の財源を期待してゐるのは如何なものであらうか。少くとも國民所得の分布に適合してをらぬことが明かに立證されてゐる現在の稅制のもとにおいてこれを期待するのは、ます〳〵課稅の不公平を招來する結果に陷りはせ

ぬだらうか。殊にすでにそのヤマの見えてゐる自然增收に歲出膨脹の財源を託して、增稅論を回避しようとするが如きは、まさに子供だましの感がある。藏相の眞意果して如何。

或は藏相が增稅尙早を高調するのには、軍部牽制の意味が織込まれてゐるのかも知れぬ。しかし藏相の眞意がそこにあるのなら、今さらくど〳〵しく持つて廻る必要などがどこにあらう。軍事費は軍事費、增稅は增稅で話の解かることである。

藏相の仕事は、たゞ單に軍事費の膨脹を抑へるといふことだけに盡きてはをらぬ。要は財政の確立にある。その根本問題について國民に安心を與へ得ない限り、財界は本當には明るくならぬ。

（二・一・一八）

カナダの關稅運動

—當局の遲滯なき善處を望む—

廣田外相が、議會における施設方針演說中に『客年中不幸カナダ產品に對してわが通商擁護法を適用するに至つたけれども、その後兩國の間に完全に妥協がついたことは誠に喜ばしきことである』と

述べたその通商協定こそは、近時邦品が世界の各市場においてしめ出しを喰ひ出してからこの方、とに角解決點に達した最初唯一の通商關係是正であつたのだ。

私はこの話が纒つた當時、これを先驅として邦品に對して、重壓を加へつゝある世界各國との間にこの種の協定が速かに援用擴充されるに至らんことを切望しておいたのであるが、外相の演說にはこれに加へるべき何らのヒントすら與へられてをらぬのは、私の甚だ物足らなく感じもし、殘念にも思ふところなのである。

ところが遺憾はそれだけに止まつてくれなかつた。二十一日外務省への入報によれば、最近カナダの生產界には再びアメリカ品に對する關稅の引上げ運動が起り、わが商品もその捲き添へを喰ふ危險に晒されるに至つたとのことである。肝腎のカナダがこの始末では、折角の通商障碍緩和の望みが元も子もなくなつてしまふ。

そも〳〵カナダは昨年の自由黨內閣の成立とゝもに、保守黨前內閣時代の高率關稅政策をかなぐり捨て、アメリカおよび日本に對し、英本國の特惠に次ぐ待遇を與へることにより、漸く日米兩國との間に通商恢復の曙光を見出したのであるが、その後この關稅引下げのためにアメリカ品の侵入に脅威を感ずるに至り、こゝにまた〳〵その逆轉運動を刺戟し出したのだといはれてゐる。

この報道に關する限り、問題はアメリカだけを對象として取扱はれてゐるが、行きつくところは結

局主義政策の根本義に存するのであるから、運動の全面化につれて、わが國とてもいつ何どきその飛沫を受けまいものでもない。とに角カナダとの協定は、それがわが通商障碍打開の唯一のお手本にされてゐるといふ意味があるだけに、その協定基礎の動搖は一層われらの不安を搔き立てる。

とまれ、この報道は、わが外相が議會において彼我妥協の完全成立を慶んだその日の出來ごとである。皮肉といへば皮肉だが、私は、外相にもそれ相當の自信の持合せがあつてのことゝ確信する。否少くともそれについて何らかの說明は聞き得るだらうことを豫期してゐる。

しかし事態が紛れてしまつてはまた難儀である。事の紛糾に先ちその手當に遺漏なからんことを希望してやまざる所以。とに角この協定によつて、對加關係商品の荷動きが俄然目立つて來た際ではあり、まづはヒヤツとしたぐらゐのところで是非喰ひ止めて貰ひたいものである。(二・一・二四)

金利政策と其指導

—この所一應の足踏み—

大藏並に日銀當局の金利政策に對する態度が甚だ不鮮明であるために、財界の肝腎な指標がとかく

ボカされ勝ちであつたのは、景氣進展の上からいつてもまことに遺憾とされたところである。たゞ低金利に徹底するといつても、その程度に見通しがつかぬことには、仕事など出來るものでない。しかも最近における所謂低金利政策の停頓は、或はその底を意味するのではないかとの見方もあり、旁々これに對する大藏ならびに日銀當局の態度闡明が希望されてゐたのである。

それだけに、金融懇談會における深井日銀總裁の『現在以上低金利政策を強行する意思なし…』といふ言明が、時節柄財界の注目を惹いたわけであるが、これに對し大藏當局も大體一致の態度であることが明かにされたことは、指標とまでは行かずとも、暗夜に提燈ぐらゐの役には立つたやうに思はれる。

これを強行せぬといふことは、これを實行する必要を認めぬといふことであるに相違ない。産業資本家の立場からすれば、金利は低いほど好都合であらうが、現在の産業活動が今日以上の低金利の刺戟がなければ俄かに停止するといふ狀態にあるわけではなく、またこれ以上の低金利が果してどれだけ採算を有利化するものか、その見當がさだかでないとしたら、當局者としてはこの邊で一應足踏みして見るのが常識的態度だらうかとも思はれる。

しかしそれには自ら條件がある。その第一は、低金利政策の棚上げが公債の消化に影響しはせぬかといふこと、しかしてその第二は、それが中小商工業者や農民と接觸する場面において、金利の水準

化を妨げはせぬかといふことがそれである。

大藏當局は、物價下落の傾向があれば、低金利によつて刺戟を與へる方策に出るといつてゐるが、たゞその點だけからすれば、近き將來に一層の低金利が利用される機會などは先づないものと見るべく、金利はその意味での底であることが承認されさうである。

しかし今日わが金利政策の重點が、なほ傾向的な下降の繼續におかれねばならぬことは、現在のわが財政が公債中心に成り立つてゐることから考へて敢て不思議のないことであり、むしろその自然的推移が大乘的に認識されることを必要としてゐるのであるから、當局の態度がかうとハッキリ解かるまでは、財界人も肚の据えやうがないのである。强行せぬならせぬでハッキリさへしてゐればまた考へやうもある。さらに當局今後の指導に誤りなからんことを望む。(二一・一・二五)

議會解散と明朗性

—潜在意識内攻の結果—

昨年末から書込まれた筋書であり、株式市場ではすでに織込み濟みの解散ではあるが、いよ〳〵解

散となつて見ると、株界は不振、頭重の態であり、一般財界も冷靜といふよりは寧ろ低迷といつた氣分に鎖されてゐる。財界としては、この解散で一應惡材料が掃除されたと見るべきであるのに、なぜその明朗性を取返し得ないのであらうか。

總選擧となると、財界人の懷中は相當狙はれるのが例であるけれども、そこが肅正選擧の有難さで今度は逃げの一手が極めて有效に利くはずであり、また財界人の方からいつても、どうせ天下の取れない政黨に進んで御用を相勤める氣にもなれまいと思はれる。にも拘らず、とに角この鬱陶しさだ。なぜだらうか。

今度の總選擧で、政友會が勝てば政變なり內閣の大改造なりが豫想されるが、それにしても內閣の基本的政策に大變化があらうとは思はれず、もしそれ政友會が絕對多數を制し得なかつた場合を想像すればたとひ內閣の局部的改造はあつたとしても、政治的にいつてそれが現狀維持から懸け離れたものでなからうことは極めて容易に首肯出來る事柄である。

尤も十一年度豫算が不成立になつたといふ當然の結果として、次に現はるべき實行豫算が、必ずしも現內閣が不成立豫算に現はした政策の全面的復活を意味するものでないことは察し得るが、少くともその基本政策に變化のないことが明かである以上、それがために特に財界がその明朗性を奪はれる謂はれはないはずである。

して見れば、總選擧の結果について見通しがつかぬといふボンヤリした氣がかりはあるにしても、何かそれ以上にもつと大きな、そしてもつと根本的な力のはたらいてゐることを承認せぬわけには行くまい。

私は、それを今度の總選擧によつては動かし得ない政策矛盾に對する潛在意識が、たま〳〵解散に刺戟されて內攻を始めてゐる結果であると斷ずる。實をいへば、現內閣の政策にして矛盾から解放されてゐるものを捜す方がよつぽど骨が折れる始末だが、なかんづく財界人にとつてその關心の焦點ともいふべき景氣と商賣との氣先きが、インフレーション政策と公債漸減方針、自由經濟と統制經濟、增稅と資本擁護といつた工合に、互ひに相容れない主義方針の對立のために塞がれてゐることが特に目立つ。

隨つて總選擧の結果がわかれば、未知數の一つが解けたといふ程度の明朗性恢復はあるだらうけれども、しかもこの根本的な政策矛盾から來る鬱陶しさは二月二十日の總選擧が來ても解消するものでないことを豫言し得る。私としては、總選擧の結果が、この曇天氣分の解消にまではたらきかけるに至らんことを望むものであるが、恐らくそれは、今の場合望んで得べからざる事態であるだらう。しかしこのまゝで漫然推移すれば、遂には財界人がその境地に痲痺せざるを得なくなるやうな事態が發生するのではないかといふ氣がする。(二・一・二六)

ボーナス・ビル

―現金撒布と今後の波紋―

七十六票對十五票といふ壓倒的多數を以てボーナス・ビルと呼ばれる軍人恩給法案が、二十七日アメリカの上院を通過した。

そも〳〵この出征軍人恩給法なるものは、歐洲大戰直後の議會を通過して以來、幾度かの修正を經て今日に至つたのであるが、一九三二年に右の恩給を即時に支拂へといふ運動が起つて以來、この要求は年々熾烈の度を加へ來り、昨年の議會では遂に上下兩院を通過するところまで事態の進展を見たのである。

しかし何分にも三百五十萬人に上る出征兵士に對し右恩給を即時に支拂ふとなると、こゝに忽ち二十五億ドルに達する紙幣の大洪水を出現せしむることになるので、上下兩院を通過したこの即時支拂案も遂にルーズヴェルト大統領の拒否するところとなり、昨年は法文化される機會を惠まれずに敢へなき最期を遂げてしまつた。

尤も下院は、大統領の拒否に拘らず、壓倒的多數を以て再びこれを可決通過せしめたのであるが、上院における三分の二以上の贊成が得られなかつたゝめに流產のやむなきに至つたといふ經緯があり隨つて今度の議會において上院の壓倒的贊成を見た以上、最早や大統領の拒否權もこれを行使するに由なくなつたわけなのである。

同案によると、最後の支拂ひ完了までの所要額は大體廿四億九千餘萬ドルと見積られてゐるが、出征軍人所有の恩給證書に對する支拂は小額債券を以てなされるのであり、かつ恩給證書の繼續保有には九ヶ年間三分の利子が支拂はれることになつてゐるので、六月十五日の支拂開始と同時にその全額が悉く即時現金化するだらうとは思はれぬ。しかしそれにしても其内の十億ドル内外のものが少くとも今後のインフレーションへの實彈化を意味することになるものと見られてゐるので、この現金撒布の成り行きは、アメリカ財界の今後に相當の波紋を描き出すだらうことが想像し得られる。蓋し十億ドルといへば、アメリカにおける現在通貨の約一割五分に當る數量であつて、到底その重壓を無視するわけに行かぬからである。

しかしアメリカにおける今後のインフレーション傾向はなほそれだけに止まらぬ。二十九日には上院農林委員會が十五對二の大差を以て新農業法案を通過せしめたので、この計畫による三千萬エーカーの土地に對する集約的生產中止に要する資金四億五千萬ドル。さらに目下農務、司法、財務の各省

において考究中に屬する過般の裁判所の命令により製造業者に返還さるべき加工稅二億ドルがあり、そのほか既定の失業救濟資金などをも考慮に入れると、このところ大統領の欲すると欲せざるとに拘らず、インフレーション擴大の道行きには殆ど疑問を挾む餘地はなささうに思はれる。

ルーズヴェルト大統領のいはゆる『健全通貨』の薄れ行く影に、われ〳〵は今何を見出さうとしてゐるのであるか。(二・一・三)

農山漁村の金融

——合併奬勵方針の打切り——

最近大藏當局は、非公式ながら、從來の銀行合併奬勵方針を打切り、これを强行せざる旨を聲明するに至つた。

全國にわたつて銀行が將棋倒しに潰れ、遂にモラトリアムの非常手段にまで訴へた昭和二年における金融恐慌の慘澹たる光景は、今なほわれ〳〵の記憶に新たなるものがあるが、そも〳〵金融界における不時の動搖を防止し、その健全なる發達を期するためには、危險率の高い小資本の群小銀行を整

理して、金融機關自身の抵抗力を高めるほかに途のないのはわかりきつた話で、その意味において、私は大藏當局がこの恐慌を契機として群小銀行の合同を慫慂し銀行法を改正して銀行基礎の强化策に乘出し來つたのは極めて當然の處置であつたと考へてゐる。

新銀行法の實施されたのは恐慌の翌年すなはち昭和三年の一月一日からであつたが、二年末における現在銀行數千四百有餘、內、新法の要求する最低資本金額に滿たざるもの約千行を算する有樣であつたのに見ても、當時危險率の高い弱小銀行が如何に濫立されてゐたかを知るに足らう。勿論地方銀行の合併整理に伴ふ缺陷もあるにはあるが、當時にあつてはそれを乘越えてもなほかつ銀行の整理を斷行せねばならぬ必要に迫られてゐたことを否むべくもなかつたのである。かくしてとに角現在の五百行見當まで切詰められて來たのは、大體時代の要求に基いた經過であつたといつてよい。

しかしまた一面においては、農山漁村に本店を有する地方小銀行が大都會の大銀行に合併されてその支店となつた結果、農山漁村の零細なる貯金が大都會の大銀行に吸收されてその資金の回歸性を失ふに至つたのみならず、中小銀行の合同による資金の增大に隨ひ、その取引相手もまた次第に大商工業者に移る傾向を現はし來つたので、こゝに農山漁村における資金難を激成し、銀行合同に對する反對の聲を聞くに至つたのも亦やむなき成り行きであつたのである。

もとよりこの缺陷が激成されたについては、一面農山漁村においては普通銀行の貸出擔保として甚

だ不適當なる不動產以外に擔保を見出し難いといふ關係があり、殊に通貨の收縮、物價の低落によつて特色づけられてゐたその當時において、地方資金の本店送りは必ずしも經營上非難さるべき事柄ともいへなかつたし、また他面においては地方資金の不圓滑が必ずしも銀行合同の結果ではなくして合併後の地方支店首腦者にその人を得なかつたといふ事情もあり、たゞ一概に合併がいけないといふ攻擊に耳を傾けるわけにも行かぬのであるが、それにしても、この當然の整理淘汰にも缺陷なり障碍なりの伴つたことが否定出來ないところである以上、これを是正し救濟する意味において、この邊で合同奬勵方針の轉換を策するのは、決して選ぶべき整理の段階を誤つたものとはいへぬであらう。今や銀行自身の强化よりも農山漁村の金融そのものが重大視されねばならなくなつてゐるからである。

今となつては、大藏當局としても、銀行が多過ぎて檢査官の手に餘るなどゝいふ蟲のいゝ遁辭は通用しなくなつてゐる。方針の轉換と同時に、轉換は轉換として今後のため銀行の不良化防止に一層の努力を向けて貰ひたいものである。(二・二・一)

無軌道政府の窮策

—一難去らずして又一難—

今回國民政府が、既發公債十四億六千萬元の强制低利借換並に三億四千萬元の復興公債發行を拔打ち的に決定發表したことは支那財界においては勿論、國際的にも非常な衝動を捲起してゐるが、何といつてもこの强制借換は國家の手によつてなされた借金踏み倒しの暴擧であつて、それだけ民衆の資產を掠奪するものであること言をまたぬ。

國民政府はこれを呼ぶに統一公債の美名を以てし、頻りに經濟復興のお題目を唱へてゐるけれども拔打ち的に自ら借金の御破算をやり、そこから浮ぶ擔保で新規復興公債を募集しようといふのだから凡そ蟲の好いことの總大將、これで一國の財政窮乏が立ち直るものなら、それをやらぬ世界各國の財政家は皆大馬鹿者だといふことになる。

國民政府としては、とに角一かバチかの通貨策に泳ぎ出した以上、こゝまで引摺られたとて敢て驚きもせぬのかも知れぬが、一方に自ら國家の財政信用を投げ出しておきながら、新たに公債に應じろ

といつたところでその結果は知れてゐる。蓋しそれは民衆の公債に對する引受能力の問題ではないからである。

隨つてたとひ民間に應募能力はあるとしても、その結果が殆ど全部政府銀行の背負込みであるべきは極めて見易き道理。それから先きは紙幣の增發、インフレーションの進展と筋書きがチヤンときまつてゐる。

公債借換の例は他にもある。決して借換が悪いのではない。しかし借換を行ふのには、それに適應する客觀的情勢の存在、すなはち財政信用を破らぬだけの準備工作を必要とするのであつて、この點に何らの用意もなく盲滅法にやつた今回の國民政府の借換が今後にその禍根を殘すべきは誠に明かなる道理である。

換言すれば、この强制借換は、さきに窮餘の一策として試みられた新通貨政策に對する殘された窮策であつたのだ。この先き尙ほどれだけの窮策が殘されてゐるか知らぬけれども、窮策はどこまで行つても遂に窮策であるだけのこと。そしてその窮策に次ぐ窮策の尻を待設けてゐるのが財政最後の破局であるのだ。

のみならず、國民政府が公債强制借換斷行と同時に公債市場休市の强壓命令を發したことは、表面投機取締にその名をかりてゐるが、その實公債相場の混亂に對し自信がもてぬからの處置であつて、

それだけでも今後の公債相場、爲替相場を繞る大波瀾を十分豫想せしめてゐる。一難去らずしてまた一難である。

尤もわが財界としては、殆ど支那公債の所有者はないのだから、たとひ强制借換のために公債相場が下がらうとも直接には大した影響のあらうはずもないが、關心はそれよりも寧ろこの財政信用失墜に基く今後の政局の動搖にもたれる。とに角かくして正しき財權から見離されて行かうとする無軌道政府の立場こそ見ものである。(二一・二・四)

大勢悲觀の外なし

—破局覺悟の一寸遁れ—

何らの準備工作をも伴はぬ公債の拔打的强制借替斷行の結果が、公債市價の崩落であり、續發公債の消化難であるのは、改めて說明するまでもなく極めて明瞭な事柄である。隨つて今後の財政やりくりを專ら公債財源に俟たねばならぬ國民政府の遣り口としては、この强壓手段は、まさに自殺行爲を敢てしたものだといつて差支ない。

それが背に腹は代へられぬ窮餘の一策であつたといふことは、これを裏返していへば、破局覺悟の一寸遁れといふことでなければならぬが、しかもその一寸遁れといふのが、たゞ徒らに腐敗し切つた財務當局とそれと忸れ合ひの浙江財閥との懐を肥やすためのタネに過ぎざるを思へば、支那の財政を亡ぼすものは必ずしも公債そのものではなくて、その公債を喰ひものにする是等の手合ひであるともいへやう。

無論國民政府としては、現在の財政狀態をもつてしては尻から尻からと逐はれる元利拂ひに行詰つた結果、經濟界に大恐慌を惹起する危險に瀕してゐるが故に、その期限を延長して一時を彌縫しようといふわけなのだが、それはまた同時に今後是非とも必要な公債財源を棒に振るといふことであり、强ひて出せばその巨額の公債は政府銀行の背負込みになる迄で、こゝに惡性の紙幣インフレーションの大旋風が起るのは當然の話である。

或はこのインフレーションのために、支那の財界が目先き活況を呈するだらうとの樂觀論を持する向もあるやうだが、紙幣の濫發から來る紙幣價値下落の損失を免れんとする民衆の外貨買ひに對し、中央銀行がどこまでこれに應じ得るかゞ問題で、恐らく統制あるインフレーションの御利益の如きはよしんばあつたとしてもホンの束の間と見るべきであり、直ぐ一歩先きには恐るべき貨幣價値の崩潰が大きな口をあけて待ち構へてゐるのがハッキリ見える。

私はこの際支那のインフレ人氣の擡頭にわが對支貿易の進展を結びつけて考へるなどは餘りに樂觀に過ぎはせぬかを憂ふる。何となれば疲弊に疲弊を重ねてゐる支那大衆の購買力がそれで救はれるものとは到底信ぜられぬからである。銀に見離され公債に行詰つた支那に殘されたところのものは、たゞ不換紙幣の洪水あるのみであり、それすら民衆に受入れられなくなつたら、一體どこから購買力が湧いて來ようといふのだ。

支那は今苦し紛れに藻掻いて、更に一歩深間へその足を突き入れることになつたのだと私は見る。いづれはこれから支那を繞る各國の明躍、暗躍が始まるだらうが、それにしても今そこから事態を樂觀すべき何物も示されてはをらぬ。(二・二・五)

ユダヤ人の對獨非買

—ナチスの政權と黄金力—

ナチス政府のユダヤ人强壓案に對抗するため、ユダヤ人團體の英米兩國代表者等がワシントンに會合協議の結果、ドイツ商品一切のボイコットを滿場一致可決し、早速その運動に着手することになつ

たとある。

ユダヤ人といへば、その秀拔なる科學の力を掩護として、殆ど全世界の富を一手に支配しながら、しかも自らの國土を有せず世界を家として日蔭の忍苦生活を續けてゐる特異の民族であるが、彼等の傳統的にして執拗なる勢力扶植策は、近時各國民の分裂作用を伴ふ新興勢力を利用することにおいて着々成功し、現にドイツにおいても、カイゼルの失脚に際し、巧みに新興の社會黨および共產黨の共同戰線を指導して、遂に庇を借りて母家を乘取るに至つたのである。

歐洲大戰の當時、その向ふところ疾風枯葉を捲くの概あつたカイゼルが、終に刀折れ矢盡きてドルの軍門に降を乞はざるを得ざるに至つたといふのは、曾て大奈翁がボンドのためにその最後の止めを刺されたのと同樣、いはゆる國家的英雄も結局國際的英雄たる黃金の魔力の前には、たゞその旗を卷くのほかなかつたことを物語るもので、ドイツの獨裁者ヒットラーをしてユダヤ人の徹底的追放を斷行するにあらざれば、遂にドイツを救ふ能はずとまで思ひ込ましむるに至つたのにも一應の理由は存することである。

しかしとに角かくの如くにして激成されたヒットラー對ユダヤ人の抗爭は一體どう納まりがつくのだらうか。ユダヤ人たるの故をもつてドイツの國寶的存在といはれた學者や藝術家に至るまで悉くこれを追放しおまけにユダヤ人の一切の著書をさへ燒捨てゝしまつたヒットラーにとつてはユダヤ人の

ドイツ商品ボイコットぐらゐは今さら驚くには値せぬことかも知れぬ。しかしそれがために近時著しく左前になつてゐるドイツの財政經濟がさらに一層窮地に追込まれるだらうことは眼に見えた話であり、事によると現在ドイツの國家主義がやがてドイツのために弔鐘を撞かねばならぬやうな結果にならぬとも限らない。經濟を離れてナチスの理想が永遠に持續されようとはどうしても信ぜられぬことだからである。

或はユダヤ人が呼ぶが如く、ヒットラーが『狂人』としての存在を續け得る間はそれでも濟むかも知れない。しかしたとひヒットラーがなくなつても、またヒットラーが政權を喪つても、ユダヤ人は決して消えてなくなるわけのものでない。私はヒットラーなき後のドイツが再びその國內に黃金の自由鄉を許容するにあらざれば、その國力を維持し難きを見出すに相違なからうことを信ずるものであるが、ユダヤ人の對ドイツ品ボイコットがそれまでにどんな場面を描き出すか、それだけでも興味のある問題であらう。(二・三・六)

通商と移民の自由

―生存權が問題の出發點―

私は、本年劈頭の一文において、世界植民地の再分割乃至その資源の利用問題が、必ず今年中に擡頭し內外の論壇を賑はすであらうことを豫言しておいたが、五日のイギリス下院におけるランズベリー卿の資源再分配および市場開放に關する提唱こそはまさにその火蓋を切つたものであり、それが直ちにロイド・ヂョーヂ氏の國際會議招集論およびソルター博士の全世界經濟組織改造論によつて掩護射擊されたことは、不幸議會における動議としては成立しなかつたけれども、この問題今後の動向を指し示すには十分なスタートであつたといひ得る。否天下の無產國は、この提唱を默殺すべく、すでに餘りに忍耐を强ひられ過ぎてゐるのだ。

ソルター博士は、世界の無產國として、日本、ドイツ、イタリーの名を擧げてゐるが、われ〳〵日本人からいへば、ドイツ人にしてもイタリー人にしても、その移轉居住に、何も日本人のやうな人種的偏見に基く制限拘束を受けてゐるわけではないのだから、同じ無產國でもその立場は大に異る。わが

國においてまづ第一に移民の自由が叫ばれるのに不思議はあるまい。

しかし日本としては、今日まで實におとなしく歐米各國の橫暴極まるこの閉め出しの前に、よくその腹の蟲を殺して來た。そしてこれを指導したのが『人から物へ』のモットーであつたのである。換言すれば、商品の輸出によつて捌け場に惱んだ過剩人口を內に養はうといふのであつて、忍苦幾年、今や漸く『輸出日本』の姿勢を整へ得たところなのである。

然るに何事ぞ、今度は歐米の各國が寄つてたかつて日本品を繼子扱ひにし、殆ど世界の市場到るところ日本品防遏の鹿砦を築かざるはなき有樣を呈してゐる。かくては、日本國民はどこにその生存の手段を見出したらよいのか。歐米の諸國は今や明かに日本の生存權を無視し否定しようとしてゐるのだ。しかし植民地獲得に立遲れたといふことは、果して永久にその生存權を否認されねばならぬ事柄なのだらうか。それがこの問題の出發點なのである。

今や資源の貧弱なる分け前に不滿を懷く國々、就中進步的工業にその生活を委ねてゐる日、獨、伊の如き諸國は、眼前に橫はる不公平極まる資源の分配に對し、命がけで現狀の打破を要求しつゝあるのに、今にしてなほ資源の獨占國はこの觸發的事實に頰被りをきめ込むことの危險を思はぬのだらうか。ロイド・チョーヂ氏にしてもソルター博士にしても、ともにこの危險を第二の世界戰爭といふ言葉で言ひ表はしてゐるではないか。

これを緩和し回避するの道は、少くとも市場開放、輸入制限の緩和、關税の低下を目標とする國際大會議を招集して曲歪されてゐる世界經濟の源を洗ひ直すよりほかに道は殘されてをらぬ。事實またそれが世界不況を克服するたゞ一つの手段でもあるのだ。

その意味において今後の世界は英、米、佛、蘭、白、蘇、支の諸國と日、獨、伊の諸國の對立であるとも見られるが、とに角世界經濟會議の開催が遲れゝば遲れるほど、現狀維持國の立場はます〳〵悪くなるばかりだといふことを知つておく必要はあるだらう。（二一・二・八）

目標は赤字の克服

―生産力の培養と操短―

國運の進展につれて、國家經費が膨脹的傾向にあるのは否定すべからざる事實であり、また經費の膨脹それ自身は決して呪ふべき事柄ではない。たゞその財源を如何に確保すべきかゞ論議の焦點なのである。

今日のわが財政は、説明するまでもなく、この膨脹し行く經費を專ら赤字公債で賄ふといふ建前に

なつてゐる。しかし漫然たるこの政策の續行には國民を納得、安心せしむるに足るだけの合理性がない。赤字對策が考へられるといふこと自體が遺憾なくそれを説明してゐるはずである。

自然增收を目安に赤字公債の發行額を減少せしめるといふ所謂公債漸減の方針が十一年度豫算に取入れられたのは確かにその一つの現はれであつた。尤もこの方針は膨脹財源に喰込まれて當初の目安通り完全には維持出來なかつたが、それにしてもそれが過渡期における悪性インフレーションに對する一つの制動機としての役目を勤めるものであつたことは承認されねばならぬであらう。

だが、一面から見ればそれは、たゞ赤字公債の殖え方が前年度よりも七千萬圓方減つたといふだけのことで、七億といふ赤字公債の增發はなほ依然としてわが財政の窮迫感を解消せしめない。大藏當局は今後引續きこの方針の確立に精進するといつてゐるけれども、すでに新規經費のために自然增收といふ目安が崩されてゐることであり、殊に後年度における自然增收額に十一年度以上の期待はかけられぬと見られてゐる以上、實はこの公債漸減方針の維持すらが懸念される次第で、この方針の聲明だけで國民を安心せしめ得る譯合ひのものでないことは極めて明らかである。

だから赤字財政の對策が喧しくいはれるのであるが、その跡始末策として考へられるものに大體三種ある。一に貨幣價値の切下げ、二に外國からの償金獲得、三に增税、卽ちこれである。そして今日の場合、そのいづれを目標としてわが財政計畫が進めらるべきであるかといふことが今日のわれらに

課せられた問題なので、増税が今日の常識だといふ意味がそこにあるのだ。

いつの世にも増税には反對がある。しかし今日の國力の大進展を以てして、自ら承認しつゝある國家支出のために、増税を回避するいはれはないはずである。殊に近年増税せざるがために激成されつゝある不公平と弊害との前に、最早やこれ以上盲目ではあり得なくなつてゐるではないか。

とはいへ、現在の經濟情勢において、赤字を克服するに足るやうな増税などは到底考へられぬことである。七億の赤字に對し、その二割すなはち一億四、五千萬圓といふのが精々であらうと思はれるが、たとひそれだけでも、今日はそれによつてわが財政に政策的な一つの方式を與へ得ればよいとせねばなるまい。それから先の赤字財政解決は、これを税源に遡つて生産力の培養に求めるのほかはないのだ。

最近わが重要輸出品中操短の色彩を濃化しつゝあるもの漸く増加の傾向を示しつゝあるが、減産によつて輸出の伸張が期待出來るものならとに角、たとひ目先き一時の値段は吊り得たとしても、生産力を落しては結局打撃と走壘とに威力のない野球チームと一般、遂に得點の機會はもち得ないのであらう。

今日は、赤字退散に官民一致、專心邁進すべき時である。『萬年赤字』にケシかけるやうな操短減産萬能論者に愼重な考慮を希望する。(二・二・一三)

中小工業と其經營

—經費節約と工場法違反—

業態が悪くなると勢ひその經營に無理が出來、遂に取締規則にも違反牴觸することになるわけだが昭和五年以來漸減の傾向にあつた工場法違反件數が、同八年以來再び盛り返して却て激増を見るに至り、しかもこれを産業別にすると、中小工場の最も多い染織工場がその六割を占めてゐるといふ有様で、中小工場の經營が如何に苦しいかを數字の上にハツキリ現はしてゐる。

そこで一國産業の中堅層を成してゐる是等の中小工業者の經營難打開の急務が叫ばれ、官民ともにその對策に腐心しつゝあるのであるが、それらの中には、或は調協會が鑄物工業の本場として知られる川口市に模範工場を設けて全國中小工場の經營指導に當らしめ、併せて勞働問題の解決を計りつゝあるが如き、或はまた東京府下のメリヤス工場主が職工の解雇手當に代へて機械一臺づつを與へ、これを下請けとして繁閑兩様の戰術に成功しつゝあるが如き、經營難の克服に相當の效果を收めてゐる實例もあり、工夫次第ではなほこの荆棘の道を拓くべき望みなきにあらざるを訓へてゐる。

最近遠州織物界に頻りに試みられつゝある中小工場の共同經營計畫の如きまたその一例とするに足るであらうか。同組合の調査によると現在一工場において要する監督十五人助手十五人の人件費は一ケ月七百五十圓であるが、これを十五工場の共同經營にすると、月給百五十圓の技師一名、三十五圓の監督四名で事濟み、その他自轉車、リヤカーの購入修繕費、稅金、動力費などにおいて年に三千六七百圓の節約が出來るとのことである。もしさらに一歩を進めてその共同經營を販賣、購入にまでおよぼすならば、それによる採算の有利化は優に大工場に拮抗するに足るものだらうと思はれる。

現在中小工業者と呼ばれるものゝ内、資本金五千圓以上を擁するものは僅かにその一割にすぎず、隨つてその經營方針は勢ひ經費の節約に特にその重點をおかざるを得ない立場にある。調査研究機關をもたず、時間的にも餘裕のない彼等のために製作技術、經營改善の指導を與へもつて小資本の短を補つてやることの如何に必要であるかゞ首肯けよう。

彼等の工場法違反の原因中、幼少年工の酷使がその四割九分といふ壓倒的數字を示してゐるのに徵しても、彼等が經營費の切詰めに弱り拔いた揚句、其拔け道を賃銀の安い幼少年工の長時間勞働に求めた經路が明かに想像される。しかし經費の切詰めが如何に彼等にとつて絶對の必要事ではあつてもその苦難の打開を幼少年工の虐待に求めるが如きは斷じて許されぬことであり、そしてまたそれが更生の本手でないことをも併せ知らねば、彼等が本當に浮ぶ機會は滅多に來ぬであらう。（二・二・二）

東洋諸國の相互市場

—日滿支ブロックの形成—

日本が鎖國の夢から醒めて世界を見廻した時には、世界中の土地といふ土地は殆ど皆歐米諸國の繩張り内に取込まれ、最早やわが過剩な人口のために、地圖の色を塗り替へる機會などはなくなつてしまつてゐた。

しかもこれ等の先進國は、固くその門戸を鎖して我國からの移民や商品を努めて入れまいとする。かくしてその生きるべき術を阻み奪はれた日本は、國際聯盟や海軍會議の脱退を賭しても、現狀打破の叫びをあげざるを得なくなつたのである。日滿支經濟ブロック構成論の如き、南方政策論の如き皆その主張の現はれにほかならぬ。今やこれなくしては、日本がそれによつて生くべき商工立國策の基礎を安固ならしむる原料資源の獲得に事を缺くからである。

一方またこれを支那や南洋諸國の側から見ても、安價な日本品を排斥した結果は、たゞ徒らに高價な歐米品を購入せざるを得ない破目に陷つてゐるではないか。列强が如何に彼等に自由貿易の停止を

強要しても、民衆の欲求は矢張り良質安價の日本製品の上に注がれてゐる。そこに是非確立されねばならぬ東亜諸國の相互市場があるのである。

しかるに歐米の諸國は、機會あるごとに來つて、この東南洋における相互市場を攪亂し好んで日本の經濟的生命に危難を加へやうとする。率直にいへば、すでに過分な領土を抱擁し、剩へ帝國ブロックだの大陸ブロックだのと自分だけ勝手な障壁をめぐらしておきながら、彼等はどこに不足があつて東洋までその魔手を伸さねばならぬのであるか。今や白人種の帝國主義は、その第一期の領土侵略から第二期の經濟侵略への舞臺として東洋を狙つてゐるのだ。彼等の貪婪なる食慾の前に曝された東洋を護るの道は、たゞ日滿支ブロックの建設以外にはなくなつてゐる。わが東洋人は共存共榮の前に、今日まで餘りに無自覺であり、餘りに無感覺でありすぎた。

歐米人の狡猾な外交と、それに乘ぜられた支那の排日のために、日本はやむなくいはゆる地場を離れて全世界に浮動市場を求めねばならなくなつたのだ。しかしその結果は、幸ひにもわが貿易未曾有の躍進となつて酬いられた。そしてそれに驚いた彼等歐米人は今また改めて世界市場からの日本品驅逐に大童となつてゐる。

この事實は最も雄辯にわが國力の彈力性を物語るもので、甚だ心強い次第ではあるが、飜つて見れば、躍進を遂げたとはいふものゝ、わが貿易額は世界貿易總額に比し、なほ僅かに三%三（國際聯盟

調査、一九三四年）を占むるにすぎず、これをイギリスの一二%九、アメリカの九%五、ドイツの八%七、フランスの六%九などと對比して、その貧弱さを知るべしである。英、米、獨、佛四國平均の世界貿易對比率は約一〇%であるから、假りに日本が自然的條件においてこれらの諸國並みに惠まれてゐるとしても、なほかつ現在の貿易を三倍にせねばまだ一人前とはいへないのである。

この意味において、私は、最近におけるわが對支方針の一元化並に國民政府の對日態度轉換に極めて重大な意義を發見するもの、日本としてもいよ〳〵眞劍な時代に轉入するのである。（二・二・三）

解散後に來るもの

―軍事費は却つて膨脹か―

多數黨たる政友會との正面衝突による解散であるからには、政局の前途は專ら政友會が總選擧の結果どんな形で出直して來るかの點に懸つてゐる。

總選擧の結果、政友會が少數であれば、政局に關する限り問題はないわけであるが、もし政友會が議會に多數を制するにおいては、現内閣の政策は忽ちその實行に支障を來たすことになり、少くとも

舉國內閣の看板はこれを引下ろさざるを得なくなる。

すなはち總選擧によつて明かにさるべき政黨の分野次第では、よしんば政權は政黨の基礎の上におかれないまでも、現內閣の總辭職なり改造なりは寧ろ考へ得べきこと、隨つて次の新內閣なり改造內閣なりの政策に見通しをつけ得るまでは、本當には安心の出來かねる時の經過があらうといふものである。

殊にその經濟財政政策については、それが岡田內閣の主義方針といはんよりは寧ろ高橋藏相の意見主張だといふ方が當つてゐるだけに、事態が內閣の總辭職若くは改造といふ方向に押進めらるれば、いはゆる高橋財政の建前にも修飾が考へられる道理。隨つてそこに焦點をもつ財界各方面の動向にも機微な影響を齎らすことになるのは否めまい。

のみならず、衆議院の解散によつて、十一年度豫算は一とまづ不成立となつたのであるから、今後に來るものが、解散の直前に藏相が行つた演說の內容そのまゝの方針具現であり得るかどうかに疑問があり、次第によつては、藏相その人に變りはなくとも、豫算の驅引にはまたどんな魂膽や御都合が織込まれて來まいものでもない。

更に今一つ注意せねばならぬのは、解散による豫算不成立のために軍事費が却つて膨脹せぬとは限らぬといふことである。今のところ別段急激な變化も豫想出來ぬが、それにしても、もし變化があれ

ば、それは縮小ではなくして必ずや增大の傾向をとるものであらうことが察せられる。しかもこの關係は、總選擧の結果の如何に拘らず、そして政變の有無に拘らず、政權は依然希望としての擧國一致內閣から離れないだらうといふ想定のもとに、殆ど何らの影響をも受けるものではないと見られる。隨つて解散は、軍需インフレに一層の望みをもたせる契機でこそあれ、少くともそれに逆行する原因であらうとは思はれぬ。(二・一・三)

總選擧と高橋財政

—決して萬能藥ではない—

總選擧の結果になほ一抹の不安を漂はせてゐた株式市場も、いよ〳〵與黨の勝利と話がきまつて、高橋財政の繼續を背景に懸念一掃の態。

とに角、解散前における政友會の絕對多數が敗れて、政府與黨並に准與黨が絕對多數を制し、政黨の分野を一變せしめたといふことは、いはゞ民政黨を根幹とする岡田內閣の財政經濟政策が輿論の支持を得たといふことであり、隨つて實體においては、さきに不成立に終つた十一年度豫算と大差なき

ものが實行豫算として施行されることになるものと觀測される。

またたとひ內閣の改造が行はれ、或はその更迭を見るが如き場合が生じたとしても、內閣の中心勢力は矢張り民政黨にあるのであるから、財政經濟政策に關する限り、當分變化はないものと一般に考へられてゐる。或はさうかも知らぬ。しかし本當にそれでいゝのだらうか。

岡田內閣は、財界にとつてはまさしく高橋內閣である、岡田內閣のある限り高橋財政のあるのは當然の話であり、國民は今度の總選擧で、高橋財政を信任する意味において、岡田內閣を信任したのだといつても過言ではあるまい。

しかし一體『高橋財政』といふのは何であるか。遠い昔のいはゆる放漫財政時代のことは今これを問はず、現在高橋財政の名において意識されてゐる政策の輪廓は、專ら公債漸減、增稅反對、低金利續行の三者によつて現されてゐるところのものである。

ところが、實は、金の再禁止にしても、公債政策にしても、低金利方策にしても、たま〳〵その急場へ高橋藏相が出くはしたといふだけのことで、誰がその場に立つたにしても、恐らくそれ以外のことはやれなかつたにきまつてゐる。換言すれば、四圍の情勢がしからしめたのであつて、別に高橋藏相の獨創的政策でも何でもない。役に立つたのはたゞ『人間高橋』の貫祿だつたのだ。

隨つて今後とも客觀形勢の變化が所謂高橋財政の內容に變化を招來することあるべきは當然想像の

許されるところであり、政界、財界の一角では、すでに環境が現在の高橋財政に修正を加へねばならぬ點にまで達してゐることを明かに認識してゐる。

軍事的にも、產業的にも、國費の膨脹は不可避だといふのが今日の常識であり、その環境のもとに國政が調理されねばならなくなつてゐる。今日まで高橋財政の建前となつてゐた公債の漸減と增稅の反對とで果してこの局面が切拔け得られるだらうか。公債を漸減し增稅に反對して、一體どこから財源が湧いて來るのだらう。四圍の情勢は、明かにそのいづれかに向つて所謂高橋財政の修正を要求してゐる低金利政策はすでにその打止めを聲明してゐるし、どの道、高橋財政の行詰りはすでに來てゐるのである。

今回の總選擧における無產黨の大量得票は勞働階級のみならず、いはゆるインテリ層の投票をも集め得たことに時代の空氣を反映してゐるが、この結果は、延いて議會における增稅問題の歸趨にも大關係をもつに相違なく、漫然たる高橋財政謳歌にも早晩反省と失望の機會が見舞ふことになるだらうと私は觀察する。(一一・二・二五)

漁業權樂觀し得るか

—對露感情極めて微妙—

モスクワにおける日露漁業條約改訂交渉は、昨年五月以來二十數回の會商を重ねて今なほ解決の曙光に接せず、ために當業者方面では、春季出漁期および現行條約の五月滿期を控へ、それが無條約狀態に陷つた結果につき憂慮しつゝあるが、外務省としては萬一滿期前に協定不成立が豫想されるやうな場合には、前以て暫定協定を締結して局面の拾收を計る方針だといつてゐる。

尤もかつて駐露大使時代に廣田、カラハン協定の締結に成功し、漁業交渉の經驗者である廣田現外相が、日本の現有漁區安定期間十二ヶ年の主張に對し、ロシヤ側が五ヶ年說を固持してゐるのが交渉の峠であつて、その他大體の主旨についてはロシヤ側にも異存のある筈はないのだから、遲くも四月までには片づくとの見解を持してをり、また本年の出漁については、新條約の成否如何に拘らず、ロシヤ側の確認濟みだとあるから、差當つての出漁問題としては別に悲觀の必要もなきが如くである。

しかし日露の國交がとかく險惡視されてゐる今日の場合であるだけに、この種の懸案を未解決のま

ま永引かすことは、ます〳〵不必要に不安の空氣を濃化せしむる緣由となり、國際的感情の迸るところ或はこの單なる漁業交渉の問題にもどんな興奮が絡みつかぬとも限らないといふ危險が多分にある。

もと〳〵この漁業權問題は、その源を遠く日露戰爭後のポーツマス講和條約に發し、同條約によりわが國民はロシヤ人と同等の資格を以て、露領オホーツク、ベーリング海における開發權を獲得したものであつて、その後ロシヤにおける政權動搖のため正式の交渉相手がなかつたからとはいへ、悔を今日に殘すに至つたのは洵に心外千萬な話である。

しかもこの權利は、大正十四年北京において締結された日露基本條約において『サヴエート聯邦は一九〇五年五月一日のポーツマス條約が完全に效力を存することを約す』と規定され、ロシヤとしては、帝政時代の對外條約を立法的に確認した最初の例外まで作つたほどであるのに、その後ロシヤ政府は、個人名義にかくれ、日露當業者の競買において採算無視の高入札を行はしめ、漁區奪還のため計畫的に邦人漁業家の驅逐策を講じつゝあるのである。

しかるに今や廣田、カラハン暫定協定が近く五月には失效期に達せんとして、今なほわが條約上の權益が確保狀態におかれるに至らず、しかもロシヤの出方一つでは、わが漁業家は實際的には手も足も出せなくなる危險に曝されてゐる。かくしてわが國民の對露感情はこれを繞つて極めて刺戟され易き狀態におかれてゐるので、日露國交に最も愼重なる態度を要する今日、當局の樂觀論だけで安心し

てをれぬものがある。

時局柄適切有效なる解決方策を速かに具體化して貰ひたいものである。（二・二・二六）

自惚れは損のもと

―リ氏の日英會議開催論―

南支を視察して香港へ引揚げて來たリースロス氏は、南支における日本品の躍進ぶりを目のあたりに見て、イギリス商權確保のため大に頭を惱してゐるといふが、とに角リ氏は『イギリスの對支政策には日本との協調を必要とする。だから今秋あたり東京かロンドンかで極東の經濟問題に關する全面的日英會議を開きたい……』旨を語つてをり、また支那が早晩その必要に當面すべき對外借款については、それに先立ちまづ日支間における政局の正常化が根本的に必要だとの意見を懷くに至つたと傳へられてゐる。

しかしそのどこまでが本音で、どこまでが宣傳なのか、こいつ頗る怪しいものである。現に一方では好い氣持に日本を持上げておきながら、他方胡漢民氏との會見では、しきりに同氏の南京入りを慫

慂し、イギリスの對支經濟援助をバックとする南北合作の必要を說き、さらにまた日本の軍縮脫退後における新情勢に備へるため、イギリスは香港の防備を再擴大すべく、同時に廣東政府に對しても相當の經濟援助を提供しようなど〻持ちかけてゐるではないか。

ところが、歸途日本に立寄つて懇談したいが……などと匂はせて來ると、それ見たことか、蹴られても矢張り日本に賴るほかはあるまいと、忽ち反り身になつて自惚れるのが日本であるらしい。だがこんなお座なりの嬉しがらせなどに乘せられてゐたら、今に尻の毛まで拔かれるにきまつてゐる。

リ氏の對日態度を評して『一座の中で知りたい藝妓の名前を聞き出すために、用もない妓の名前をまづ聞くやうなものだ』と誰やらがいつたことである。穿ち得て妙。ダシに使はれるとは知らず、自分の名前を聞かれて自惚れてゐる藝妓が正に日本だといふのだから、いさ〻か心細い。

私は、さきにリ氏が歸途日本に立寄り懇談すべく日本側の意向を打診中だと傳へられた時、それこそ無駄な骨折り、わが官民がそれを受入れるか否かは一に懸つてリ氏自身の認識如何にあることで、渡支後氏がその視角と心境とにどれだけの變化を來したかを自ら打診すればい〻ことだといつておいたが、事實東亞における安定勢力としての日本の立場をイギリスが確認せぬ限り、何度來たつてそれは無駄足以外の何ものでもあり得ないのである。聞けばわが外務當局もこの問題には、頓と氣乘り薄だといふ。蓋しリ氏の認識に根本的訂正がなければ、實は、懇談するにも懇談すべき共通の基礎がな

いからである。

殊にこの間の日英民間會商が、決裂のほかに採るべき道がなかつたといふ前例もあることだし、日英會議も結構だが、まづは落付いて、イギリスの踊り方を見てゐる方が悧巧だらう。自惚れてチヨカついたら損をする。（二一・二・二七）

資源再分配會議案

—『新しい戰爭』回避の道—

資源再分配問題を檢討するため、ゼネヴァに國際會議を招請する意思ある旨を言明した二十四日イギリス下院における外相イーデン氏の演說は、責任ある政治家がこの問題を公式の席上で眞面目に取上げた最初の事例として、各方面の注目を惹いてゐるが、かくしてこの問題もいよ〳〵机上論の時代から現實處理の時代へと轉入し來りつゝあることを感得せしめる。

尤も現に世界資源の大半を支配しつゝあるイギリスが、何がゆゑに自ら進んでこの問題の音頭取り役を買つて出ようとするのか、それに就てはなほ考へて見ねばならない多くのものがあるわけだが、

とに角今日殆ど世界到るところの市場で商權の對立的空氣を釀成しつゝある日英兩國間の關係からしても、イギリスからこの世界の新しき經濟基礎の設定に對する言質を得たことは、日本の最も滿足するところであり、警戒は警戒として、これを機會にこの機運促進に大いにはたらきかける必要があらうといふものである。

イギリスの見通しがどこまでついてゐるのか、それは解らぬ。しかし最近伊ェの葛藤に、いはゆる現狀不滿足國の僞らざる姿を見出したイギリスが、小利を捨てゝ大利に就かんがために、極端なる現在の世界資源偏倚に何らかの修正を加へる必要を認識しただらうことは、必ずしも空虛な想像とばかりは排し去り難いものがある。

直截にいへば、それが現狀滿足國が自ら『新しい戰爭』を回避防止する唯一の道であり、また各國の軍擴競爭に停止を命ずる唯一の力であるのだ。或はその目的に到達すべき實際的手段のないことを知るがゆゑに、彼等は現狀不滿足國の不平鬱憤を散ぜしむる一時の空氣拔きとして敢てその襟度を裝ふにすぎぬと觀察する向もある。如何にしてこの提唱を實行に移すべきかの困難な命題に、言下にその對案を示せといつたところで、それは無理な話だ。しかしその困難といふのは主として領土の割讓併合による地圖の塗り替へだけがまづ意識に上るからではあるまいか。

私は現在の國際經濟から、市場の獨占と移民の制限拒絶とを撤去しさへすれば、地圖などは塗り替

へずとも、そこから世界平和を確立すべき新しい經濟基礎が必ず生れて來るはずだと確信する。過日イギリス下院にロイド・ヂョーヂ氏が提案した世界資源再分割案に對するベルギー上院の質問にこたへて、ゼーランド首相が、ベルギーにとつては植民地の保全は本國の保全と同じことだと頑張つたといふのなども、やはり頭が領土權の問題に膠着して離れないからである。

國際會議でも、或は話はそこまで進むかも知れないし、またその解決が絶對である場合も想像される。しかしそれとても、いはゞ通商、交通、居住の自由に對する保障要求の變形であつて、市場價値も移民價値もないところを對象としての領土慾滿足などは今どき流行らない。最後の手段たる戰爭による領土獲得にしたところで、その狙ひに變りはあるまい。それを考へさへすればすべて解ける謎である。(二・二・二六)

取戻した財界の觸角

—廣田外相組閣に成功—

雪だ、地震だ、擾亂だ。——白魔の跳梁に近代スピード文化の寵兒が帝都の眞ん中に立往生の悲喜

劇を演ずるかと思へば、近畿地方では何十年ぶりかの强震に、立つてゐる足もとの大地が割れるといふ騷ぎ。そこへもつて來てまた〳〵帝都の大擾亂、ために資本主義經濟の觸角がその機能を停止することこゝに十有幾日、今や漸く後繼内閣成立の報を入れて、取引所がその蓋を明けようとしてゐる。——まさに世を擧げて天禍、地禍、人禍の記錄爭ひである。

株式取引所が、直接の經濟的原因以外の事由によつて連續二週間にわたる長期閉鎖を敢へてしたのは、勿論今度が初めてゞあるが、取引所をして事こゝに出でしめたのは、要するに突發的政變のために、惰勢的ではあつたにせよ、とに角今日まで財界の常識的基調をなしてゐた所謂高橋財政の急變に不安を感ずるに至つたからで、隨つてこの財界人の懷疑的心理は、たとひ後繼内閣が成立して閣員の顏觸れがきまつても、新任藏相の口から親しくその財政經濟方針の聲明を聞き、それで見透しがつくまでは、なほ綺麗に拂拭されるところまでは行くまいと想像される。

馬場新藏相は、すでに入閣受諾前に、自由の立場において、現下の財政經濟問題に對し「この非常時局のもとに誰が藏相になつても大體同じことだらうが、とに角財界に急激な變動を與へるのは宜しくない。しかし高橋財政をそのまゝ踏襲したのでは駄目である。時局に對する深い認識の上に確固たる目標を定め、新しい方向への發展を期するため、增稅および稅制整理も必要であらうし、また低金利並にリフレーションの方針も續行さるべきであるだらう」と述べてをり、その抱懷する政策の輪廓

は大體これを窺知するに難くないが、馬場氏が台閣に立つて果してそれをどう具現するだらうかは全く未知の問題に屬する。隨つて馬場氏としては、少くとも産業金融に精通した政治家だといふ抽象的紹介以上の何物かを以て財界人に呼びかけ、まづ財界人の安心と信頼とに値する聲明によつて、彼等をして速かにその歸趨を知らしむるの擧に出づる必要がある。

對外的には、軍縮會議決裂に基く軍備充實の問題があり、さらに滿洲並に北支における新情勢の展開、サウエートの極東政策に對する考慮等、いづれも國費の膨脹を豫見せねばならぬ立場におかれ、また對内的には、農村および中小商工業對策になほ幾多の積極的施設を必要とする今日、國民の關心は專らその政策遂行に要する財源の上に注がれてゐる。この點において、すでに明かに恒久化してゐる經費までも、いつまでも赤字一天張りの臨時費で賄ひながら、他面公債漸減の假面を被らうとする高橋財政がまづ修正さるべきであることいふまでもなく、これに對する正確なる認識こそ、新興日本の國民を納得せしむる第一の關門なのだといつてよい。そしてそこから增稅必至の形態が生れて來るのだ。

高橋財政は、まづその公債漸減方針に破れたのみならず、遂にはその低金利政策をも裏切つてしまつた。にも拘らず、恰もそれが財界のつゝかひ棒であるかの如く見られてゐたのは、實はこれに對する政策批判が漫性的に痲痺してしまつて、たゞ「人間高橋」の貫祿だけが買はれてゐたのだといふこ

とを忘れてしまつた結果にほかならぬ。

とまれ高橋財政修正の必要を指摘し來つた私としては、今後その修正が新藏相によつてどう具體化されるかを見屆けるまでのこと。けふから機能を恢復した財界アンテナにそれがどう感ずるかに先づこれを徵しよう。(二、三、一〇)

—終—

昭和十一年四月二十日印刷
昭和十一年四月廿五日發行

財界進軍譜
定價貳圓

著者　和田信夫

發行兼印刷者　大阪市北區曾根崎上三丁目八番地
株式會社　大同書院
代表者　松本善次郎

發兌
大阪市北區曾根崎上三丁目　振替大阪三一九七二番　電話北一六五三・五七五二番
東京市神田區駿河臺三丁目　振替東京八一二三八番　電話神田一一一二八番
大同書院

賣捌　東京神田巖松堂・東京神田有斐閣

（大阪　濱田印行）

納本

大阪商科大學
高等商業部教授　池田　實　著

外國爲替論

菊判上製
八百頁
定價　五圓五拾錢
送料　廿貳錢

外國爲替に關する著者多年の蘊蓄を傾倒せられたもので、就中、今日迄等閑に附せられた研究分野に於ける、著者のヨリ深き檢討に、讀者の精讀を俟つものが尠くない。尙、外國爲替と不離の關係にある爲替相場の研究にも亦、著者の絕大な努力を見る。

關西大學教授　西村勝太郎著

企業財務表分析論

菊判上製
四百五十頁
定價　參圓五拾錢
送料　廿貳錢

第一編　總論—第二編　分析理論—第三編　財務表分析の實踐

偉大な進歩を見た近世會計學の一特長である經營分析の研究は、今後愈盛んならうとする。此の時本書の出現は、實際家に、又、研究者に裨益するところ大なるものがあらう。

大同書院發兌

704
56

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black